

## 第5節 遺物観察表

表52 土器観察表(1)

遺物番号	遺構地区 層位名	挿図 PL	取り上げ番号	種類 器種	法量(cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
1	SK10 埋土	第18図	62	縄文土器	器高3.1△	外面粗いナデ。 内面糸痕。	密	良	内外面ともににぶい橙 色～褐色	
2	SK71 埋土	第35図 PL.36	1116	縄文土器	器高4.4△	外面粗いナデ。 内面糸痕。	密	不良	外面暗赤灰色 内面明赤褐色	
3	SI1	第42図 PL.35	207	弥生土器 小形甕	口径10.2※ 器高13.4△	外面口縁部ナデ。肩部ミガキの後ナデ。胴部ミガキ。 内面口縁部ナデ。肩部ケズリの後ナデ。胴部左方向ケズリ。	密	良	外面褐色 内面にぶい橙色	内外面ともにスス 付着 弥生V-3
4	SI1	第42図 PL.35	203・204・206・ 210・214・249	弥生土器 甕	口径19.2※ 器高29.7△	外面口縁部に12条の平行沈線文。肩部貝殻腹縁による波 状文。胴部タテハケ。 内面口縁部ヨコナデ。肩部と胴部ケズリの後ナデ。	密	良	内外面ともに黄褐色～ 黒褐色	弥生V-3
5	SI2	第45図 PL.36	844	弥生土器 甕	口径13.2※ 器高3.8△	外面口縁部波状文後ナデ。頸部ヨコナデ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部左方向ケズリ。	密	良	外面にぶい黄褐色～黒 褐色内面にぶい黄褐色	外面スス付着弥生 V-3
6	SI2	第45図 PL.36	836	弥生土器 甕	口径17.1※ 器高3.9△	外面口縁部平行沈線。頸部ヨコナデ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部ケズリ後ナデ。	密	良	外面浅黄褐色 内面にぶい黄褐色	弥生V-3
7	SI2	第45図 PL.36	848	弥生土器 甕	器高5.1△	外面口縁部平行沈線。頸部刺突文。 内面口縁部ミガキ。頸部ケズリ。	密	良	外面淡黄色 内面黄灰色	外面スス付着弥生 V-3
8	SI2	第45図 PL.36	833	弥生土器 甕	器高5.6△	外面口縁部平行沈線。頸部ナデ。	密	良	外面にぶい黄褐色 内面にぶい黄褐色	外面スス付着弥生 V-3
9	SI2 埋土中	第45図 PL.36	843	弥生土器 甕	口径17.1※ 器高5.9△	外面口縁部12条平行沈線。肩部貝殻腹縁による刺突文。 内面口縁部ミガキ。屈曲部以下左方向ケズリ。	密(砂粒含む)	良	内外面にぶい黄褐色	弥生V-3
10	SI2	第45図 PL.36	842	弥生土器 甕	口径16.8※ 器高5.45△	外面口縁部10条平行沈線。頸部ヨコナデ。 内面口縁部ミガキ。肩部ケズリ後ナデ。	密	良	外面浅黄褐色～橙色 内面にぶい橙色	外面一部スス付着 弥生V-3
11	SI2	第45図 PL.36	844	弥生土器 甕	口径16.4※ 器高4.7△	外面口縁部14条平行沈線。頸部ヨコナデ。 内面口縁部ヨコナデ。肩部ケズリ後ナデ。	密	良	外面赤灰色～にぶい橙 色 内面灰褐色～にぶい橙 色	外面スス付着弥生 V-3
12	SI2	第45図 PL.36	890	弥生土器 甕	器高3.8△	外面口縁部4条以上平行沈線。頸部ヨコナデ。 内面口縁部ミガキ後ナデ。肩部右方向ケズリ。	密	良	外面橙色 内面明黄褐色	弥生V-3
13	SI2	第45図 PL.36	847	弥生土器 甕	口径15.0※ 器高3.4△	外面口縁部9条平行沈線。頸部ヨコナデ。 内面ミガキ。	密	良	内外面ともに灰黄褐色	外面一部スス付着 弥生V-3
14	SI2	第45図 PL.36	877	弥生土器 甕	器高3.9△	外面頸部6条押し引き沈線。肩部タテハケ。 内面頸部ヨコナデ。肩部左方向ケズリ。	密	良	外面黄褐色～暗褐色 内面橙色	外面スス付着 弥生V-3
15	SI2	第45図 PL.36	877	弥生土器 鉢	口径9.2※ 器高2.8△	外面ナデ。 内面ケズリ後ナデ。	密	良	浅黄褐色	弥生V-3
16	SI2	第45図 PL.36	843	弥生土器 甕	底径8.0※ 器高4.4△	外面タテハケ。 内面上方向ケズリ。	密	良	外面明褐色 内面にぶい黄褐色	弥生V-3
17	SI2	第45図 PL.36	842	弥生土器 小壺	口径8.2※ 器高5.1△	外面ナデ。 内面口縁部ナデ。体部ケズリ。	やや粗	良	浅黄褐色	弥生V-3
18	SI2 埋土中	第45図 PL.36	837	弥生土器 甕	口径15.4※ 器高3.1△	外面口縁部平行沈線後ナデ消し。 内面ヨコナデ。	密	良	外面にぶい褐色 内面黄褐色	弥生V-3
19	SI2 埋土中	第45図 PL.36	842	弥生土器 高坏	口径15.4※ 器高3.2△	内外面風化のため調整不明。	密(砂粒含む)	良	内外面浅黄褐色	弥生V-3
20	SB6 P5内	第46図 PL.36	248	弥生土器 蓋	器高3.8△ つまみ径4.0 ※	内外面ナデ。	密	良	にぶい黄褐色	弥生V-3
21	SB1 P2	第61図 PL.38	145	製塩土器	口径7.8※ 器高4.3△	内外面ともにオサエの後ナデ。	密	良	内外面ともに浅黄褐色	
22	SB1 P10	第61図	421	須佐焼 鉢	口径27.4※ 器高3.2△	内外面ヨコナデ。	密	良	内外面ともに灰赤から 赤褐色	
23	SB4 P4	第63図 PL.38	437	製塩土器	器高3.0△	内外面ともに指オサエ。	密	不良	外面浅黄褐色～橙色 内面にぶい黄褐色	
24	SB4 P2	第63図 PL.38	447	製塩土器	器高2.8△	内外面ともに指オサエの後ナデ。	密	良	内外面ともに浅黄褐色	
25	SB5 P6	第63図 PL.38	446	製塩土器	器高2.2△	外面指オサエ。 内面ヨコナデ。	密	良	内外面ともに灰白色	
26	SB5 P5	第63図 PL.38	219	須恵器 坏身	口径12.3※ 器高3.5△	内外面ともに回転ナデ。	密	良	外面灰色 内面にぶい赤褐色	
27	SB5 P6	第63図 PL.38	140	須恵器 坏身	口径12.1※ 器高4.4△	内外面ともに回転ナデ。	密	良	内外面ともに青灰色	
28	SB4・5 P3・7	第63図 PL.38	139	須恵器 高台坏	底径7.7※ 器高4.3△	外面体部回転ナデ。高台は貼り付けの後周囲を回転ナデ。 内面体部回転ナデ。底部ナデ。	密	良	内外面ともに灰灰色	
29	SB4 P2	第63図 PL.38	447	須恵器 高台付坏	底径9.2※ 器高3.2△	外面体部回転ナデ。体部下半回転ケズリ。高台は貼り付 けの後周囲を回転ナデ。底部静止条切りの後ナデ。 内面体部回転ナデ。底部不定方向ナデ。	密	良	内外面ともに灰色	
30	SB5 P5	第63図 PL.38	219	土師器 甕	器高4.5△	外面ヨコナデ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部ケズリ。	密	良	内外面ともににぶい黄 褐色	
31	SB4・5 P3・7	第63図	139	土師器 甕	口径20.0※ 器高4.3△	外面口縁部ヨコナデ。頸部指オサエの後ヨコナデ。 内面口縁部ヨコナデ。	密	良	内外面ともに明黄褐色	
32	SB5 P8	第63図 PL.38	138	土師器 甕	器高6.2△	内外面ともに一部指オサエの後、ヨコナデ。	やや粗	良	内外面ともににぶい黄 褐色	
33	SB4・5 P3・7	第63図 PL.38	139	土師器 甕	器高9.5△	外面口縁部ヨコナデ。頸部指オサエの後ヨコナデ。胴部 ヨコナデ。 内面口縁部指オサエの後ヨコナデ。胴部ケズリ。	やや粗	良	内外面ともににぶい黄 褐色	
34	SB4 P4	第63図 PL.38	437	土師器 甕	口径17.2※ 器高2.9△	外面口縁部ヨコナデ。頸部指オサエの後ヨコナデ。 内面口縁部ハケ目。頸部内面ケズリ。	密	良	内外面にぶい橙色	
35	SB5 P5	第63図 PL.38	219	土師器 甕	口径24.0※ 器高3.4△	内外面ともにヨコナデ。	密	良	内外面ともににぶい黄 褐色	外面スス付着
36	SB5 P6	第63図 PL.38	435	土師器 甕	口径41.1※ 器高6.9△	外面口縁部ハケ目の後、ヨコナデ。胴部ハケ目。 内面口縁部ヨコナデ。胴部ケズリ。	密	良	外面にぶい黄褐色～明 赤褐色 内面にぶい黄褐色	
37	SB7 P1	第64図	419	製塩土器	器高3.4△	内外面ともに指オサエの後ナデ。	密	良	外面淡黄色 内面にぶい黄褐色	
38	SB16 P2	第67図 PL.37	1188	須恵器 坏蓋	器高1.2△	内外面とも回転ナデ。	密	良	内外面ともに灰色	
39	SB17 P2	第67図 PL.37	1189	須恵器 坏蓋	口径14.0※ 器高2.9△	内外面回転ナデ。	密	良	灰色	
40	SS1 埋土	第71図	1201	土師質土器	底径7.0※ 器高2.6△	外面ヨコナデ。 内面ヨコナデ。	密	良	外面橙色～黒色 内面黒褐色	内外面ともに一部 スス付着
41	SS1 埋土	第71図	1201	須恵器 坏身	口径11.5※ 器高3.0△	外面回転ヨコナデ。回転ケズリ 内面回転ナデ	密	良	内外面ともに灰色	
42	SS1 埋土	第71図	1201	土師質土器 鍋	器高3.7△	外面口縁部ヨコナデ。 内面口縁部ナデ。	密	良	内外面ともに浅黄褐色	スス付着
43	SS2 埋土中	第74図	1124	弥生土器 甕	器高5.8△	外面口縁部4条平行沈線。 内面口縁部ナデ。頸部屈曲部以下ケズリ。	密	良	外面橙色 内面明褐色	

表53 土器観察表(2)

遺物番号	遺構区 層位名	採掘 PL	取り上げ番号	種類 器種	法量(cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
44	SS2 埋土中	第74図 PL.40	1136 1137 1144 1151	土師器 甕	口径22.4※ 器高11.6△	外面ナデ。体部指押さえ痕。 内面口縁部ナデ。体部ケズリ後指押さえ。	密	良	外面明黄褐色 内面黄褐色	外面二次的被熱による肌荒れ
45	SS2 埋土中	第74図 PL.40	1124	土師器 甕	口径30.0※ 器高12.5△	外面ナデ。 内面口縁部ナデ。体部左方向ケズリ。	密	良	内外面黄褐色	外面スス付着
46	SS2 埋土中	第74図 PL.40	1121 1125 1168	土師器 甕	口径33.4※ 器高8.0△	外面口縁部ナデ。体部工具によるナデ後丁寧ナデ。 内面口縁部ナデ。体部左方向ケズリ。	密(0.5～2mm 程の長石わずかに含む)	良	内外面にぶい黄褐色	
47	SS2 埋土中	第74図 PL.40	1160	土師器 甕	口径23.0※ 器高4.3△	外面口縁部ヨコナデ。 内面口縁部ヨコナデ。体部右方向ケズリ。	密	良	外面にぶい黄褐色 内面にぶい黄褐色	外面スス付着
48	SS2 埋土中	第74図 PL.40	914	土師器 甕	口径24.4※ 器高7.8△	外面口縁部ヨコナデ後指押さえ。体部タテハケ。 内面口縁部ヨコナデ後指押さえ。屈曲部ヨコハケ。体部左上方ケズリ。	密	良	外面橙色 内面にぶい黄褐色	
49	SS2 埋土中	第74図 PL.40	1152	土師器 甕	器高8.5△	外面頭部ナデ。体部タテハケ。 内面頭部ナデ。体部ケズリ。	密	良	外面にぶい橙色 内面にぶい黄褐色	
50	SS2 埋土中	第74図 PL.40	1141	土師器 甕	器高3.3△	外面ヨコナデ。 内面口縁部ナデ。体部左方向ケズリ。	密	良	外面にぶい橙～褐色 内面にぶい黄褐色	鉄分付着
51	SS2 埋土中	第74図 PL.40	915	土師器 焼塩土器	口径8.0※ 器高2.7△	内外面手捏ね整形後指押さえ。	密	良	内外面にぶい黄褐色	
52	SS2 埋土中	第74図 PL.40	1113	土師器 焼塩土器	器高3.9△	内外面手捏ね整形後指押さえ。	密	良	内外面オリーフ灰色	
53	SS2 埋土中	第74図 PL.40	1128	土師器 甕?	器高7.0△	外面ナデ。指押さえ痕あり。 内面ケズリ。	密	良	外面にぶい黄色 内面にぶい明黄色	
54	SS2 埋土中	第74図 PL.40	1124	須恵器 坏蓋	器高1.8△ つまみ径5.2※	内外面回転ナデ。輪状つまみ。	密	良	内外面明褐色	
55	SS2 埋土中	第74図 PL.39	1122 1126	須恵器 坏蓋	口径13.9※ 器高2.3△	外面口縁部回転ナデ。天井部約1/3回転ケズリ。 内面回転ナデ。	密(砂粒を含む)	良	外面オリーフ灰色 内面灰白色	
56	SS2 埋土中	第74図 PL.40	1140	須恵器 坏蓋	口径15.8※ 器高1.6△	内外面回転ナデ。	密	良	内外面灰色	セ1177と同一個体
57	SS2 埋土中	第74図 PL.40	1124	須恵器 坏蓋	口径16.0※ 器高1.9△	内外面回転ナデ。	密	良	内外面灰色	
58	SS2 埋土中	第74図 PL.40	1162	須恵器 坏身	口径11.6※ 器高4.5 底径4.0※	外面体部回転ナデ。底部ケズリ後ナデ。 内面回転ナデ。	密	良	外面灰～褐色 内面灰色	
59	SS2 埋土中	第74図 PL.39	1150	須恵器 高台坏	口径14.6 器高5.2 底径9.6	内外面回転ナデ。	密	良	外面灰黄色 内面黄灰色	
60	SS2 埋土中	第74図 PL.40	1186 1123	須恵器 高坏	口径16.0※ 器高3.1△	内外面回転ナデ。	密	良	外面青灰色 内面灰色	
61	SS2 埋土中	第74図 PL.40	1124	須恵器 坏	器高3.8△	内外面回転ナデ。	密	良	内外面灰白色	
62	SS2 埋土中	第74図 PL.40	914	須恵器 坏?	口径15.4※ 器高5.4△	内外面回転ナデ。	密	良	外面灰褐～灰色 内面灰色	
63	SS2 埋土中	第74図 PL.40	1132	須恵器 高台坏	器高2.2△ 底径7.4	外面回転ナデ。 内面底部不定方向ナデ。	密	良	内外面灰色	
64	SS2 埋土中	第74図 PL.40	1148	須恵器 甕	器高8.7△	外面平行叩き。 内面同心円当て具痕。	密	良	内外面灰白色	
65	SS2 埋土中	第74図 PL.40	1127	須恵器 高台付壺	底径9.2※ 器高2.8△	外面体部回転ナデ。底部不定方向ナデ。 内面体部ナデ。	密	良	内外面灰色	
66	SS2 埋土中	第74図 PL.40	1167	須恵器 高坏脚部	器高3.3△ 底径10.2※	内外面回転ナデ。	密	良	内外面灰色	
67	SS2 埋土中	第74図 PL.40	1186	須恵器 高坏脚部	器高4.4△	外面回転ナデ。2条以上沈線。 内面回転ナデ。	密	良	内外面灰色	方形透かし2箇所以上
68	SS2 埋土中	第74図 PL.40	914・680	須恵器 甕	器高12.1△	外面平行叩き後カキ目。 内面同心円当て具痕	密	良	内外面灰色	確認調査分と接合
69	SS2 埋土中	第74図 PL.40	914	天目茶碗	器高3.3△	全面施釉。	密	良	胎土灰白色 釉黒褐～赤褐色	中国製
70	SS2 埋土中	第74図 PL.39	1133	土製品 土製支脚	最大長8.1△	手捏ね整形後ナデ。	密	良	にぶい黄褐色	
71	SS2 埋土中	第74図 PL.40	914	平瓦	最大長4.7△	凹面・凸面ナデ。	密	良	黄褐色	
72	SS2 埋土中	第74図 PL.40	1217	土製品 土玉	最大長3.5 最大径3.5 重さ34.5g	手捏ね整形後ナデ。	密	良	にぶい黄褐～褐色	
73	SS3 埋土中	第76図 PL.41	1103	須恵器 坏身	器高0.9△	外面底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	良	内外面青灰色	
74	SS3 埋土中	第76図 PL.41	1102	須恵器 皿	器高1.8△	外面回転ナデ。 内面ナデ。	密	良	内外面灰黄色	
75	SS3 埋土中	第76図 PL.41	1105	須恵器 高台坏	器高1.9△	外面体部回転ナデ。底部不定方向ナデ。 内面不定方向ナデ。	密	良	内外面灰色	
76	SS3 埋土中	第76図 PL.41	1103	須恵器 坏身	器高2.5△	内外面回転ナデ。	密	良	外面暗灰色 内面灰色	
77	SS3 埋土中	第76図 PL.41	1114	須恵器 坏身	器高3.7△	内外面回転ナデ。	密	良	外面灰色 内面灰黄色	
78	SS3 埋土中	第76図 PL.41	1103	土師器 甕	器高4.1△	外面ヨコナデ。 内面口縁部ナデ。体部ケズリ。	密(砂粒含む)	良	外面にぶい黄橙～褐色 内面にぶい黄褐色	
79	SS3 埋土中	第76図 PL.41	1102	土師器 甕	器高5.0△	外面ナデ。一部指押さえ痕。 内面口縁部ナデ。体部上方ケズリ。	密	良	内外面にぶい黄褐色	
80	SS3 検出中	第76図 PL.41	1105	青磁 碗	口径10.6※ 器高2.7	内外面施釉。貫入あり。	密	良	胎土灰白色 釉オリーフ灰色	龍泉窯系碗口類
81	SK73 埋土中	第77図 PL.39	1177・1178・1179 1180・1181・1183	須恵器 坏身	口径12.8 器高4.6 底径11.6	外面体部回転ナデ。底部回転系切り。 内面体部回転ナデ。底部不定方向ナデ。	密	良	内外面灰色	
82	SK73 埋土中	第77図 PL.39	1175 1182	須恵器 坏身	口径13.0 器高3.8 底径8.1	外面体部回転ナデ。底部回転系切り。 内面体部回転ナデ。底部不定方向ナデ。	密	良	外面灰黄色 内面黄灰色	内面墨付着
83	SK75 埋土中	第77図 PL.43	1246	土師器 焼塩土器	口径7.4※ 器高9.1△	外面手捏ね整形後ナデ。 内面指押さえ後ナデ。	密	良	外面にぶい黄褐色～褐色 内面明黄褐色～褐色	外面二次的被熱による肌荒れ
84	SK75 埋土中	第77図 PL.43	1245	土師器 焼塩土器	口径7.4※ 器高3.3△	内外面指押さえの後ナデ。	密	良	外面浅黄褐色～黄褐色 内面黄褐色	外面二次的被熱による肌荒れ
85	SK75 埋土中	第77図 PL.43	1222	土師器 焼塩土器	口径10.2※ 器高4.1△	内外面指押さえの後ナデ。	密	良	内外面ともにぶい黄褐色	外面二次的被熱による肌荒れ
86	SK75 埋土中	第77図 PL.43	1227	土師器 焼塩土器	口径12.8※ 器高3.4△	外面手捏ね整形後ナデ。 内面指押さえ後ナデ。	密	良	にぶい黄褐色	外面二次的被熱による肌荒れ
87	SK75 埋土中	第77図 PL.43	1225	土師器 焼塩土器	口径9.8※ 器高8.0△	内外面手捏ね整形後ナデ。指押さえ痕有。	密	良	外面にぶい黄褐色 内面橙色	外面二次的被熱による肌荒れ・剥離

表54 土器観察表(3)

遺物番号	遺構地区 位名	挿図 PL	取り上げ番号	種類 器種	法量 (cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
88	SK75 埋土中	第77図 PL43	1244・1245・1228	土師器 焼塩土器	口径12.6※ 器高7.5△	内外面指押さえの後ナデ。	密	良	内外面ともににぶい黄 褐色	外面二次的被熱に よる肌荒れ
89	SK75 埋土中	第77図 PL43	1249・1225	土師器 焼塩土器	口径10.0※ 器高5.0△	外面手捏ね整形後ナデ。 内面指押さえ後ナデ。	密	良	内外面ともに灰白色か ら浅黄褐色	外面二次的被熱に よる肌荒れ
90	SK75 埋土中	第77図 PL43	1225・1250	土師器 焼塩土器	口径11.0※ 器高5.2△	外面手捏ね整形後ナデ。 内面指押さえ後ナデ。	密	良	外面淡黄色～にぶい橙 色内面にぶい橙色	外面二次的被熱に よる肌荒れ
91	SK75 埋土中	第77図 PL43	1254	土師器 焼塩土器	口径12.2※ 器高7.1△	外面手捏ね整形後ナデ。 内面上半指押さえ後ナデ。底部ヨコナデ。	密	良	内外面ともににぶい橙 色	外面二次的被熱に よる肌荒れ
92	SK75 埋土中	第77図 PL43	1254	土師器 焼塩土器	口径11.6※ 器高6.9△	外面手捏ね整形後ナデ。 内面指押さえ後ナデ。	密	良	にぶい橙色	外面二次的被熱に よる肌荒れ
93	SK75 埋土中	第77図 PL43	1245	土師器 焼塩土器	口径12.7※ 器高7.1△	内外面指押さえの後ナデ。	密	良	内外面ともに明黄褐色 ～灰黄褐色	
94	SK75 埋土中	第77図 PL43	1250	土師器 焼塩土器	器高1.8△	外面手捏ね整形後ナデ。 内面ナデ。	密	良	内外面ともに浅黄色～ 淡褐色	外面二次的被熱に よる肌荒れ
95	SK75 埋土中	第77図 PL43	1227	土師器 焼塩土器	器高2.7△	内外面指押さえの後ナデ。	密	良	内外面ともににぶい黄 褐色	外面二次的被熱に よる肌荒れ・剥離
96	SK75 埋土中	第77図 PL43	1220	土師器 焼塩土器	器高5.4△	外面手捏ね整形後ナデ。 内面指押さえ後ナデ。	密	良	内外面ともに浅黄褐色	外面二次的被熱に よる肌荒れ
97	SK15	第82図 PL41	431	土師器 坏身	口径10.6※ 器高2.9△	外面体部ヨコナデ、底部静止系切り。 内面体部ヨコナデ、底部ナデ。	密	良	内外面ともに浅黄褐色	
98	SK15	第82図 PL41	431	土師器 坏身	口径10.7※ 器高3.2△	外面体部ヨコナデ、底部静止系切り。 内面体部ヨコナデ、底部ナデ。	密	良	内外面ともに明黄褐色	灯火器(内外面にス ス付着)
99	SK20	第84図	142	土師器 甕	口径25.1※ 器高4.9△	外面ヨコナデ。 内面風化のため調整不明。	やや粗	やや 不良	内外面ともに橙色	
100	SK21	第85図	467	製塩土器	器高2.7△	内外面ともに指オサエ	密	良	内外面ともに浅黄褐色	
101	SK21	第85図 PL38	467	製塩土器	器高3.0△	内外面ともに指オサエ	密	やや不 良	内外面ともに浅黄褐色	
102	SK21	第85図 PL38	217	土師器 坏身	口径12.7※ 器高2.9△	外面口縁部ヨコナデ、体部ケズリ。 内面ヨコナデ。	密	良	内外面ともに赤褐色 胎土にぶい黄褐色	赤色塗彩
103	SK21	第85図 PL38	143	土師器 甕	器高5.6△	外面ハケ目の後にヨコナデ。 内面口縁部ヨコナデ、頭部ケズリ。	密	良	外面にぶい黄褐色 内面浅黄褐色	
104	SK21	第85図 PL38	467	土師器 坏身	器高5.1△	外面口縁部ヨコナデ、頭部指オサエの後ヨコナデ、胴部 ヨコナデ。 内面口縁部指オサエの後ナデ、胴部ケズリ。	やや粗	良	内外面ともににぶい黄 褐色	
105	SK21	第85図	217・468	土師器 甕	器高20.9△	外面ハケ目。 内面ケズリ。	密	良	外面にぶい黄褐色～に ぶい橙色 内面にぶい黄褐色	
106	SK21	第85図	143	須恵器 小壺	器高3.7△	内外面ともに回転ナデ。	密	良	外面灰色 内面灰白色	
107	SK21	第85図 PL38	468	土師器 甕	口径36.0※ 器高5.5△	外面口縁部ヨコナデ、頭部指オサエの後ハケ目。 内面口縁部ヨコナデ、頭部ケズリ。	密	良	内外面ともににぶい黄 褐色	外面薄くスス付着
108	SK46 埋土中	第88図 PL42	1172	土師器 甕	口径25.0※ 器高7.5△	外面ナデ。 内面口縁部ナデ。体部左方向ケズリ。	密	良	内外面にぶい黄褐色	
109	SK46 埋土中	第88図 PL42	1174	土師器 甕	口径26.0※ 器高8.2△	外面ヨコナデ。 内面口縁部ナデ。体部左方向ケズリ。	密	良	外面にぶい橙色 内面にぶい黄褐色	
110	SK46 埋土中	第88図 PL40	1173	土師器 甕	器高5.7△	外面ナデ。 内面口縁部ナデ。体部右方向ケズリ。	密	良	外面灰黄褐色 内面褐灰～にぶい黄褐 色	
111	SK46 埋土中	第88図 PL42	1138	須恵器 坏蓋	口径15.9※ 器高2.4 つまみ径5.2※	外面回転ナデ。天井部ナデ。 内面回転ナデ。	密	良	内外面灰色	輪状つまみ
112	SK46 埋土中	第88図 PL42	1159	須恵器 高台坏	器高4.2△ 底径7.6	外面回転ナデ。 内面体部回転ナデ。底部不定方向ナデ。	密	やや不 良	内外面灰色	
113	SK46 埋土中	第88図 PL41	1273	須恵器 高坏	口径15.8 器高11.1 底径10.6	外面回転ナデ。 内面体部回転ナデ。坏底部不定方向ナデ。脚部回転 ナデ。脚部円形透かし箇所。	密	良	内外面灰色	
114	SK46 埋土中	第88図 PL39	1158	土製品 土製支脚	器高11.5△ 最大幅7.3	突起・脚部一部欠損。手捏ね整形後ナデ。	密	良	にぶい黄橙～褐色	
115	ピット群9 P11	第89図 PL37	1262	土師器 甕	器高3.5△	外面ナデ。 内面口縁部ナデ。体部ケズリ。	密	良	外面にぶい黄褐色 内面にぶい褐色	
116	ピット群9 P13	第89図 PL37	1196	土師器 甕	器高6.5△	外面ナデか。 内面口縁部ナデ。頸部ケズリの後ナデ。	やや密	良	にぶい橙色	
117	ピット群9 P13	第89図	1258	須恵器 坏身	口径12.1※ 器高4.5 底径5.5※	外面体部回転ナデ。底部回転系切り。 内面体部回転ナデ。底部不定方向ナデ。	密	良	内外面オリーブ灰色	
118	ピット群9 P13	第89図 PL37	1204	須恵器 坏蓋	器高1.2△	内外面回転ナデ。	密	良	内外面灰色	
119	ピット群9 P13	第89図 PL37	1196	須恵器 坏身	口径17.4※ 器高3.1△	内外面回転ナデ。	密	良	内外面ともに灰色	
120	ピット群9 P11	第89図 PL37	1262	土製品 土錘	最大長4.1 最大幅3.1 重さ31.5g	手捏ね整形後ナデ。	密	良	浅黄褐色	
121	SB2 F3	第93図 PL44	64	背磁 碗	口径11.2※ 器高4.1△	内外面ともに施軸。外面線描き細い連弁文。	密	良	内外面ともににぶい褐 色	龍泉窯系碗B4類
122	SB2 P11	第93図 PL44	66	天目茶碗	底径3.7※ 器高1.4△	疊付露胎。	密	良	疊付にぶい黄褐色 内外面黒～灰オリーブ 色	中国産か?
123	SB8 P7	第94図	1068	土師質土器 坏	器高3.4△ 底径6.6※	内外面ナデ。	密	良	内外面にぶい黄褐色	
124	SB14 P10抜き取痕	第100図	260	土師質土器 小皿	口径7.5 器高1.6 底径6.3	外面体部ヨコナデ。底部回転系切り後板目。 内面ナデ。	密	良	内外面淡黄色	
125	SB14 P33	第100図 PL53	307	土師質土器 坏	器高1.5△ 底径6.5※	外面体部ヨコナデ。底部板目。 内面ナデ。	密	良	内外面浅黄褐色	
126	SB14 P15	第100図 PL53	628	土師質土器 鍋	器高2.3△	外面口縁部タテハケ。 内面ヨコナデ。	密	良	外面にぶい褐色 内面にぶい黄褐色	
127	SB14 P33	第100図 PL53	307	開閉田焼 甕	器高4.3△	外面格子目叩き。 内面ナデ。	密	良	外面灰色 内面暗青灰色	
128	SB14 P141	第100図 PL53	1086	越前焼 插鉢	器高5.7△	内外面回転ナデ。	密	良	内外面にぶい赤褐色	木村Ⅲ期以前?
129	SB14 P3	第191図	309	土師質土器 小皿	口径8.2 器高1.9 底径6.0	外面体部ナデ。底部回転系切り。 内面ナデ。	密	良	内外面浅黄色	口縁部スス付着
130	SE1	第104図 PL44	654	土師質土器 坏	口径12.2※ 器高3.7△	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。底部指押さえ。	密	良	外面灰白色 内面浅黄色	
131	SE1	第104図 PL44	655	土師質土器 坏	口径12.7※ 器高3.9△	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。底部ナデ。	密	良	内外面ともに灰白色	

表55 土器観察表(4)

遺物番号	遺構 地区 層位名	挿図 PL	取り上げ番号	種類 器種	法量(cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
132	SE1 下層	第104図 PL.44	638	土師質土器 小皿	口径7.4※ 器高2.4△	外体部ヨコナデ。底部板目。 内面ヨコナデ。	密	良	内外面ともに橙色~に ぶい橙色	
133	SE1 下層	第104図 PL.47	638	土師質土器 小皿	口径5.0※ 器高1.1△	内外面風化のため調整不明	密	良	内外面ともに浅黄橙色	
134	SE1	第104図 PL.47	581・590	勝間田焼	口径46.0※ 器高9.3△	外面口縁部ナデ。頭部指押さえ後ナデ。体部格子目叩き。 内面口縁部ヨコナデ。肩部風化のため調整不明。	密	良	内外面ともにぶい黄 橙色~橙色	内面スス付着
135	SE1 下層	第104図	590・610	越前焼 大甕	口径45.2※ 器高14.6△	外面口縁部ヨコナデ。肩部叩き。 内面口縁部ヨコナデ。頭部指押さえ後ナデ。	密	良	内外面にぶい赤褐色	外面自然釉かかる
136	SE1・SK14 埋土	第104図 PL.45	175・176・134・ 579・580・84・ 118・126・622・ 625・521	越前焼 大甕	口径59.8※ 器高29.5△	外面口縁部ヨコナデ。体部ナデ。 内面口縁部ヨコナデ。体部指押さえ後ナデ。	密	良	内外面ともに褐色	
137	SE1 下層	第104図 PL.45		越前焼 大甕	口径63.0 器高78.0 口径24.0	外面口縁部ヨコナデ。体部ナデ。 内面口縁部ヨコナデ。体部指押さえ後ナデ。	密	良	内外面にぶい赤褐色	
138	SE1 上層	第104図 PL.47	147	瀬戸・美濃焼 折縁中皿	口径10.0※ 器高2.0△	外面体部ヨコナデ。底部回転系切り。 内面一部釉	密	良	灰白色	古瀬戸中期 ⅢかⅣ
139	SE1 下層	第104図 PL.47	590	瀬戸・美濃焼 折縁中皿	口径16.6※ 器高4.5△	内外面施釉。	密	良	胎土灰白色 釉浅黄色	古瀬戸後期Ⅲ期
140	SE1 最上層	第104図 PL.47	79	瓦質土器 火鉢	口径30.0※ 器高3.5△	外面ナデ。 内面見込み部ナデ	密	良	内外面ともに淡黄色~ 黄灰色	外面黒斑有
141	SE1	第104図 PL.47	147	土製品 土錘	最大長4.9△ 最大幅1.6 重さ9.0g△	手捏ね整形後ナデ。	密	良	浅黄褐色	
142	SE2 最下層	第109図 PL.48	745	土師質土器 小皿	口径6.4※ 器高1.6△	外面ヨコナデ、底部回転系切り。 内面内面ヨコナデ、底部ナデ。	密	良	内外面ともに橙色	
143	SE2 最上層	第109図 PL.48	742	土師質土器 小皿	口径7.8※ 器高1.4	外面ヨコナデ。底部回転系切り、板目あり。 内面ヨコナデ。	密	良	内外面ともに浅黄褐色	
144	SE2 最下層	第109図 PL.48	747	土師質土器 小皿	口径7.6※ 器高1.5	外面ヨコナデ、底部回転系切り後ナデ。 内面ヨコナデ、底部ナデ。	密	良	内外面ともに浅黄褐色	
145	SE2	第109図 PL.48	1277	土師質土器 小皿	口径8.1※ 器高1.7△	外面ヨコナデ、底部回転系切りの後ナデ。 内面ヨコナデ。	密	良	内外面ともにぶい黄 褐色	体内外面にスス付 着
146	SE2	第109図 PL.48	717	土師質土器 小皿	口径7.8 器高1.7	外面ヨコナデ、底部回転系切りの後ナデ。 内面ヨコナデ、底部ナデ。	密	良	外面浅黄褐色~橙色 内面浅黄褐色	
147	SE2 最下層	第109図 PL.48	745	土師質土器 小皿	口径9.6※ 器高1.6△	外面ヨコナデ、底部回転系切り。 内面ヨコナデ。	密	良	内外面ともに浅黄色	
148	SE2 最下層	第109図 PL.48	746	土師質土器 環	器高1.8△	外面体部ヨコナデ、底部回転系切り、板目あり。 内面ヨコナデ。	密	良	内外面ともに浅黄褐色	
149	SE2 埋土中	第109図 PL.48	1276	土師質土器 環	口径7.0※ 器高2.1△	外面体部下半ヨコナデ、底部回転系切りの後ナデ。 内面体部下半ヨコナデ、底部ナデ。	密	良	外面灰白色 内面褐色	黒斑あり
150	SE2 埋土	第109図 PL.48	1279	土師質土器 環	口径7.4※ 器高2.6△	外面体部下半ヨコナデ、底部回転系切り、板目あり。 内面体部下半ヨコナデ、底部ナデ。	密	良	内外面ともに浅黄褐色	
151	SE2 埋土	第109図 PL.48	1278	土師質土器 環	口径6.2※ 器高2.3△	外面体部下半ヨコナデ、底部摩擦のため調整不明。 内面摩擦のため調整不明。	密	良	内外面ともに灰白色	
152	SK38 埋土	第111図 PL.48	1038	土師質土器 小皿	口径6.5※ 器高1.9△	外面体部ヨコナデ。底部調整不明。 内面ヨコナデ。	密	良	内外面とも灰白色	
153	SK38 埋土	第111図 PL.48	1038	瓦質土器 火鉢	器高7.3△	外面ナデ、菊花文。 内面ヨコナデ。	密	良	外面にぶい黄褐色 内面灰白色~ぶい橙 色	
154	SK38 埋土	第111図 PL.48	1038	青磁 碗	器高2.3△	内外面施釉。外面鏡蓮弁文。	密	良	胎土灰白色 釉オリープ灰色	龍泉窯系碗D1類
155	SK16 埋土	第116図 PL.48	1030	土師質土器 環	口径6.1※ 器高2.9△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密	良	内外面ともにぶい黄橙 色	外面体部と底部に 赤色塗彩
156	SK17 上層	第117図	284・285	土師質土器 小皿	口径7.4 器高1.6	外面体部ヨコナデ。底部板目。 内面ヨコナデ。	密	良	内外面ともに淡黄色	
157	SK17 埋土	第117図 PL.48	161	土師質土器 環	口径6.0※ 器高1.3△	外面体部ナデ。底部調整不明。 内面ナデ。	密	良	外面浅黄褐色~黒褐色 内面浅黄褐色	
158	SK52	第125図 PL.49	262	土師質土器 環	口径11.8 器高3.7 口径5.9	外面体部回転ナデ。底部回転系切り後板目。 内面回転ナデ。	密	良	外面にぶい黄褐色 内面灰白色	
159	SK52	第125図 PL.53	73 105	土師質土器 環	器高1.5△	外面体部回転ナデ。底部回転系切り後ナデ。 内面回転ナデ。底部不定方向ナデ。	密	良	内外面淡黄色	
160	SK52	第125図 PL.49	261	土師質土器 小皿	口径7.9 器高1.3 口径5.7	外面ナデ。底部回転系切り後板目。 内面ナデ。	密	良	内外面浅黄褐色	
161	SK52	第125図 PL.49	263	土師質土器 小皿	口径7.6※ 器高1.4 口径5.6※	外面体部ヨコナデ。底部工具によるナデ。 内面体部ヨコナデ。底部不定方向ナデ。	密	良	外面浅黄褐色 内面浅黄褐色~褐色	
162	SK52上層	第125図 PL.49	267	土師質土器 小皿	口径8.1 器高1.5 口径5.0	外面体部ヨコナデ。底部回転系切り後板目。 内面ナデ。	密	良	内外面浅黄褐色	
163	SK52上層	第125図 PL.49	266	土師質土器 小皿	口径7.8※ 器高1.4 口径6.0※	外面体部ヨコナデ。底部回転系切り後ナデ。 内面ヨコナデ。	密	良	内外面浅黄褐色	
164	SK52	第125図 PL.53	269 290	土師質土器 小皿	口径8.4※ 器高1.7 口径5.2※	外面風化のため調整不明。 内面ヨコナデ。	密	良	内外面浅黄褐色	
165	SK52	第125図 PL.53	290	土師質土器 小皿	口径8.4※ 器高1.2 口径6.4※	外面風化のため調整不明。 内面ナデ。	密	良	内外面浅黄褐色	
166	SK52上層	第125図 PL.49	268	土師質土器 小皿	口径7.8 器高1.7 口径5.4	外面体部回転ナデ。底部回転系切り後板目。 内面回転ナデ。	密	良	内外面浅黄褐色	
167	SK52	第125図 PL.53	290	土師質土器 小皿	口径6.0※ 器高1.5 口径4.3※	外面体部回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	良	内外面にぶい黄褐色	
168	SK52	第125図	269	土師質土器 小皿	口径8.8※ 器高1.7 口径6.4※	外面風化のため調整不明。 内面ヨコナデ。	密	良	内外面淡黄色	
169	SK52	第125図	265	土師質土器 小皿	口径8.4※ 器高2.4 口径6.0※	外面体部ヨコナデ。底部回転系切り。 内面ナデ。	密	良	内外面浅黄褐色	
170	SK52	第125図 PL.53	290	土師質土器 小皿	口径7.7※ 器高1.3 口径6.1※	外面体部回転ナデ。底部回転系切りか。 内面回転ナデ。	密	良	内外面浅黄褐色~褐色	
171	SK52	第125図 PL.53	290	土師質土器 小皿	口径7.7※ 器高1.4 口径5.8※	外面体部ナデ。一部指押さえ。底部風化のため調整不明。 内面ナデ。	密	良	内外面浅黄色	

表56 土器観察表(5)

遺物番号	遺構地区 層位名	挿図 PL	取り上げ番号	種類 器種	法量 (cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
172	SK52	第125図 PL.53	105	土師質土器 小皿	口径6.8※ 器高1.6 底径4.9※	内外面風化のため調整不明。	密	良	内外面にぶい黄褐色	
173	SK52	第125図	105	土師質土器 小皿	口径7.3※ 器高1.1 底径5.7※	内外面ナデ。	密	良	外面橙色 内面浅黄橙～橙色	
174	SK56	第136図	913	須恵器 甕	器高7.6△	外面平行叩き。 内面同心円当て具痕。	密	良	内外面ともに灰色	
175	SK79 上層	第140図 PL.49	279	土師質土器 小皿	口径7.8 器高1.9 底径5.2	外面体部ヨコナデ。底部回転系切り後板目。 内面ヨコナデ。	密	良	内外面浅黄褐色	
176	SK79 上層	第140図	276	土師質土器 杯	器高2.0△ 底径5.8※	外面体部風化のため調整不明。底部板目。 内面風化のため調整不明。	密	良	内外面浅黄褐色	
177	SK79	第140図	271	土師質土器 杯	器高1.3△ 底径5.4※	外面ナデ。底部板目。 内面不定方向ナデ。	密	良	内外面浅黄褐色	
178	SK79 上層	第140図 PL.49	187 270	土師質土器 杯	器高1.7△ 底径5.8※	外面体部ヨコナデ。底部回転系切り後板目。 内面ヨコナデ。	密	良	外面黄褐色 内面浅黄褐色	
179	SK79	第140図 PL.49	278 277 291	土師質土器 杯	口径12.2※ 器高4.0 底径6.1	外面回転ナデ。底部回転系切り後板目。 内面回転ナデ。	密	良	外面橙色 内面淡黄色	
180	SK79	第140図 PL.49	272	土師質土器 杯	口径12.7※ 器高3.4 底径5.7	外面体部ヨコナデ。底部回転系切り。 内面ヨコナデ。	密	良	内外面明褐色	
181	SK79 上層	第140図	275	土師質土器 杯	口径11.5※ 器高3.7 底径6.0※	外面体部回転ナデ。底部静止系切り後板目。 内面風化のため調整不明。	密	良	外面橙～赤褐色 内面浅褐色	
182	SK79 上層	第140図 PL.53	278	土師質土器 杯	口径12.1※ 器高3.1 底径6.0※	外面体部ヨコナデ。底部回転系切り後板目。 内面ヨコナデ。	密	良	内外面褐色	
183	SK79 上層	第140図 PL.49	274	土師質土器 杯	口径12.6※ 器高3.7 底径6.2	外面体部ヨコナデ。底部回転系切り。 内面体部ヨコナデ。底部不定方向ナデ。	やや粗(砂粒含む)	良	内外面浅黄褐色	
184	SK80	第142図 PL.49	288	土師質土器 小皿	口径6.4※ 器高1.6 底径5.0※	外面体部ヨコナデ。底部回転系切り。 内面ヨコナデ。	密	良	内外面浅黄褐色	
185	SK81	第144図 PL.49	296	土師質土器 小皿	口径6.0※ 器高1.8 底径4.6※	外面体部ヨコナデ。底部回転系切りか。 内面ヨコナデ。	密	良	外面褐色 内面黄褐色	
186	SK81	第144図 PL.53	296	土師質土器 小皿	口径8.0※ 器高1.3 底径6.0※	外面体部ヨコナデ。底部回転系切りか。 内面ヨコナデ。	密	良	内外面褐色	
187	SD1 埋土中	第148図 PL.50	26	勝間田焼 甕	器高4.3△	外面頸部ナデ。肩部以下格子目叩き。 内面ナデ。	密	良	内外面にぶい黄褐色	
188	SD15 埋土中	第151図	461	弥生土器 甕	器高3.0△	外面口縁部乱れた5条平行沈線。 内面ヨコナデ。	密	良	外面灰黄褐色 内面褐色	弥生V-3
189	SD15 埋土中	第151図	706	土師質土器 杯	口径12.0 器高3.9 底径6.4	外面体部回転ナデ。底部回転系切り後板目。 内面体部回転ナデ。底部不定方向ナデ。	密	良	外面浅黄橙～黄灰色 内面黄褐色	外面底部付近黒斑あり
190	SD15 埋土中	第151図	699	土師質土器 杯	口径12.0 器高3.9 底径5.9	外面体部回転ナデ。底部回転系切り後板目。 内面体部回転ナデ。底部不定方向ナデ。	密	良	内外面浅黄褐色	
191	SD15 埋土中	第151図 PL.50	732	土師質土器 杯	口径12.4※ 器高3.3 底径7.8※	外面体部回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	良	内外面浅黄褐色	
192	SD15 埋土中	第151図 PL.50	714	土師質土器 杯	器高1.9△ 底径6.5※	外面体部回転ナデ。底部静止系切り。 内面ナデ。	密	良	内外面褐色	
193	SD15 埋土中	第151図 PL.50	725	土師質土器 杯	器高1.0△ 底径6.2※	外面体部回転ナデ。底部回転ヘラ切り後板目。 内面回転ナデ。	密	良	外面褐色 内面にぶい褐色	内面スス付着
194	SD15 埋土中	第151図 PL.	216	土師質土器 杯	器高1.2△ 底径4.8※	外面体部回転ナデ。底部回転系切り。 内面ナデ。	密	良	内外面にぶい褐色	
195	SD15 埋土中	第151図 PL.50	735	土師質土器 杯	器高1.6△ 底径7.0※	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面ナデ。	密	良	内外面黄褐色	
196	SD15 埋土中	第151図 PL.50	723	土師質土器 杯	口径14.8※ 器高2.0△	内外面ナデ。	密	良	内外面褐色	
197	SD15 埋土中	第151図 PL.50	216	土師質土器 小皿	口径5.0※ 器高1.2 底径3.4※	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	良	内外面灰白色	口縁端部油煙付着。灯明皿
198	SD15 埋土中	第151図	754	土師質土器 羽釜	器高2.6△	内外面ナデ。	密	良	内外面浅黄色	
199	SD15 埋土中	第151図 PL.50	706	土師質土器 鍋	口径29.6※ 器高3.3△	外面ヨコ後タテハケ。屈曲部指押さえ。 内面口縁端部ヨコナデ。以下ヨコハケ。	密	良	内外面にぶい黄褐色	外面スス多量に付着
200	SD15 埋土中	第151図 PL.50	738	土師質土器 鍋	口径27.4※ 器高1.7△	外面口縁端部ナデ。以下粗いたテハケ。 内面工具によるヨコナデ。	密	良	内外面にぶい橙～黒褐色	
201	SD15 埋土中	第151図 PL.50	723	土師質土器 鉢	口径27.6※ 器高3.1△	内外面ヨコナデ。	密	良	内外面浅黄褐色	
202	SD15 埋土上層	第151図	408	須佐焼 插鉢	口径22.7※ 器高3.3△	外面ヨコナデ。 内面口縁部ヨコナデ。体部細かい卸目。	密	良	内外面灰赤色	
203	SD15 埋土上層	第151図	408	須佐焼 插鉢	器高3.0△	外面ナデ。 内面細かい卸目	密	良	内外面にぶい赤褐色	
204	SD15 埋土中	第151図	404	須佐焼 插鉢	器高3.4△	外面ヨコナデ。 内面粗い卸目。	密	良	内外面淡黄色	
205	SD15 埋土上層	第151図	408	須佐焼 插鉢	器高5.1△	外面ナデ。 内面細かい卸目	密	良	内外面にぶい赤褐色	
206	SD15 埋土中	第151図	464	白磁 皿	器高1.2△	外面施釉。貫入あり。 内面見込み蛇目釉剥き。	密	良	胎土灰白色 釉明緑灰色	貫入あり
207	SD15 埋土中	第151図 PL.50	756	常滑焼 壺	器高8.3△	外面施釉。 内面指押さえ後ヨコナデ。	密	良	胎土灰色 釉暗オリーブ色	
208	SD15 埋土中	第151図 PL.50	753	土製品 土玉	最大長4.2 最大幅3.6 重さ51.5g	手捏ね整形後ナデ。指押さえ痕あり。側面孔あり。	密	良	にぶい褐色	
209	SD15 埋土中	第151図 PL.50	664	土製品 土玉	最大長3.8 最大幅3.4 重さ47.0g	手捏ね整形後ナデ。	密	良	灰白～浅黄褐色	
210	SD15 埋土中	第151図 PL.50	215	土製品 土玉	最大長2.2 最大幅2.5 重さ12.5g	手捏ね整形後ナデ。	密	良	にぶい黄褐色	
211	SD18 埋土中	第154図 PL.51	858	土師質土器 小皿	口径6.4※ 器高1.5△ 底径4.6※	外面体部風化著しい。回転ナデか。底部の境に1条沈線。 底部板目。 内面回転ナデ。	密	良	内外面淡白色	口唇部スス付着

表57 土器観察表(6)

遺物番号	遺地区 層位名	採掘 PL	取り上げ番号	種類 器種	法量(cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
212	SD18 埋土中	第154図 PL.51	858	勝間田焼 甕	器高4.1△	外面格子叩き。 内面ヨコナデ。	密	良	内外面灰白色	
213	SD18 埋土中	第154図 PL.51	868	瓦質土器 鍋	器高3.6△	内外面風化のため調整不明。	やや粗(1mm大 の砂粒含む)	やや不良	内外面淡黄褐色	
214	SD18 埋土中	第154図 PL.51	861	瓦質土器 鍋	器高2.4△	外面口縁部ヨコナデ。体部粗いたテハケ。 内面ヨコナデ。	密	良	内外面灰色	
215	SD18 埋土中	第154図 PL.51	868	須恵器 瓶	器高4.7△ 底径12.0※	外面体部回転ナデ。底部ナデ。 内面回転ナデ。	密	良	外面灰白～灰色 内面灰白色	
216	SD18 埋土中	第154図 PL.51	867	土師質土器 羽釜	器高4.1△	内外面ナデ。	やや粗(1mm大 の砂粒多く含む)	良	内外面淡白～橙色	外面二次的被熱により赤変
217	SD18 埋土中	第154図 PL.51	870	白磁 皿	器高1.2△ 底径7.0※	内外面施釉。	密	良	胎土明オリブ灰色	白磁Ⅹ類
218	SD18 埋土中	第154図 PL.51	966	青磁 碗	器高2.7△	外面体部ハケ目。上半施釉。下半露胎。 内面施釉。	密	良	胎土灰黄色 釉明オリブ～オリブ色	同安窯系碗Ⅰ類
219	SD18 埋土中	第154図 PL.51	863	瀬戸・美濃 平碗	器高3.5△	内外面施釉。	密	良	胎土灰黄色	古瀬戸後期Ⅱ期
220	SD18 埋土中	第154図 PL.51	858 864	勝間田・亀山 焼?	口径31.6※ 器高5.2△	外面口縁部ナデ。肩部タテハケ後格子目叩き。 内面口縁部ナデ。屈曲部以下細かいヨコ～斜方向ハケ。	密(1～2mmの 砂粒わずかに含む)	不良	外面浅黄橙～橙色 内面橙色	
221	SD8 埋土中	第156図	233	土師質土器 小皿	口径6.7※ 器高1.6 底径4.5※	外面回転ナデ。底部静止糸切り。 内面回転ナデ。	密	良	内外面橙色	
222	SD8 埋土中	第156図 PL.50	238	土師質土器 小皿	器高1.3△ 底径5.5※	外面体部ナデ。底部回転糸切り。 内面ナデ。	密	良	内外面浅黄褐色	
223	SD8 埋土中	第156図	235	土師質土器 小皿	口径7.6※ 器高1.8 底径5.8※	外面体部ナデ。底部ヘラ切り後ナデ。 内面ナデ。	密	良	内外面灰白色	
224	SD8 埋土中	第156図 PL.50	165	土師質土器 小皿	口径8.4※ 器高1.4 底径5.5※	内外面風化のため調整不明。	密	良	外面橙～浅黄褐色 内面浅黄褐色	
225	SD8 埋土中	第156図 PL.50	237	土師質土器 小皿	器高1.1△ 底径4.8※	内外面風化のため調整不明。	密	良	外面橙～浅黄褐色 内面橙色	
226	SD8 埋土中	第156図 PL.50	165	土師質土器 小皿	口径9.0※ 器高1.7 底径7.0※	内外面ナデ。	密	良	内外面淡黄色	
227	SD8 埋土中	第156図 PL.50	239	土師質土器 小皿	口径6.7※ 器高1.2 底径※	内外面風化のため調整不明。	密	良	内外面灰白色	
228	SD8 埋土中	第156図 PL.50	81・232	土師質土器 坏	器高1.4△ 底径6.8※	内外面ナデ。	密	良	内外面浅黄褐色	
229	SD8 埋土中	第156図 PL.50	81	土師質土器 坏	器高2.1△ 底径6.0※	外面剥離のため調整不明。 内面ナデ。	密	良	外面浅黄褐色 内面にふい黄褐色	体部内外面スス付着
230	SD8 埋土中	第156図 PL.50	236	瓦質土器 火鉢	器高9.0△ 底径28.0※	内外面ナデ。	密	良	内外面淡黄色	
231	SD8 埋土中	第156図 PL.68	82	土製品 錘	最大長3.9△ 最大幅1.5 重さ7.5g△	手捏ね整形後ナデ。	密	良	橙色	
232	SD9 埋土中	第159図 PL.50	231	土師質土器 坏	器高1.8△ 底径6.6	内外面ナデ。	密	良	内外面浅黄色	
233	SD10 埋土中	第160図 PL.50	226	土師質土器 小皿	口径7.9 器高1.5 底径6.2	内外面風化のため調整不明。	密	良	内外面浅黄褐色	
234	SD10 埋土中	第160図 PL.50	229	土師質土器 小皿	口径7.8 器高1.6 底径6.0	内外面風化著しい。外面底部板目あり。	密	良	内外面灰黄色	
235	SD10 埋土中	第160図 PL.50	187	土師質土器 小皿	口径7.6※ 器高1.6 底径5.6※	外面体部ナデ。底部風化のため調整不明。 内面ナデ。	密	良	内外面淡黄色	
236	SD10 埋土中	第160図 PL.50	228	土師質土器 坏	器高1.4△ 底径6.4※	外面体部回転ナデ。底部回転糸切り。 内面回転ナデ。	密	良	内外面浅黄褐色	
237	SD10 埋土中	第160図 PL.50	225	土師質土器 坏	器高1.3△ 底径7.8※	外面体部ナデ。底部回転糸切り。 内面ナデ。	密	良	内外面淡黄色	
238	SD10 埋土中	第160図 PL.50	85	土師質土器 坏	器高1.5△ 底径7.2※	内外面ヨコナデ。	密	良	内外面淡黄色	
239	SD10 埋土中	第160図 PL.50	85	土師質土器 坏	器高1.8△ 底径6.4※	内外面風化著しい。外面底部回転糸切りか。	密	良	内外面淡黄色	
240	SD10 埋土中	第160図 PL.50	85・230	土師質土器 坏	器高2.0△ 底径7.1※	外面体部ナデ。底部回転糸切り。 内面ナデ。	密	良	内外面浅黄褐色	
241	SD10 埋土中	第160図 PL.50	85・223	土師質土器 坏	口径12.6※ 器高3.8 底径7.4※	外面体部ナデ。底部回転糸切り。 内面ナデ。	密	良	内外面淡黄色	
242	SD21 埋土中	第166図 PL.51	790	瓦質土器 鉢	口径29.2※ 器高5.0△	内外面風化のため調整不明。	密	良	外面黄灰～灰黄色 内面灰黄色	
243	SD21 埋土中	第166図 PL.51	817・818	瓦質土器 羽釜	口径31.2※ 器高9.1△	外面口縁部ナデ。体部ケズリ後ナデ。 内面ナデ。	密	良	内外面黒灰色	外面、内面口縁部スス付着
244	SD17 埋土中	第167図 PL.49	616	土師質土器 小皿	口径7.8 器高1.7 底径5.8	外面体部ナデ。底部回転糸切り後板目。 内面ナデ。	密	良	内外面浅黄褐色	
245	SD17 埋土中	第167図 PL.50	613	土師質土器 小皿	口径7.8※ 器高1.5 底径6.0※	外面体部ナデ。底部回転糸切り後板目。 内面ナデ。	密	良	内外面黄褐色	
246	SD17 埋土中	第167図 PL.50	617	勝間田焼 甕	器高4.1△	外面格子目叩き。 内面ナデ。	密	良	内外面灰白色	
247	SD17 埋土中	第167図 PL.50	613	備前焼 搦鉢	器高3.0△	外面ナデ。 内面8条1単位の卸目。	密	良	内外面褐灰色	
248	SD24 埋土中	第171図 PL.51	887	土師質土器 小皿	口径7.6※ 器高1.3 底径6.2※	外面体部回転ナデ。底部回転糸切り。 内面回転ナデ。	密	良	内外面浅黄色	内外面スス付着
249	SD24 埋土中	第171図 PL.51	887	土師器 甕	口径15.4※ 器高5.1△	外面ヨコナデ。 内面口縁部ヨコナデ。肩部以下右方向ケズリ。	密(0.5～2mm の砂粒含む)	良	内外面にふい黄橙～橙色	天神川Ⅰ期
250	SX4 埋土中	第174図 PL.52	964	土師器 低脚坏	器高1.6△ 底径5.9※	外面風化のため調整不明。 内面指摺さえあり。	密	良	内外面にふい黄褐色	
251	SX4 埋土中	第174図 PL.52	1206	須恵器 坏釜	器高2.0△	内外面回転ナデ。	密	良	内外面暗灰黄色	
252	SX4 底面	第174図 PL.52	1239	須恵器 坏身	器高3.0△	外面体部上半回転ナデ。下半回転ケズリ。 内面回転ナデ。	密(0.5～2mm の砂粒含む)	良	内外面灰色	

表58 土器観察表(7)

遺物番号	遺構地区 層位名	挿図 PL	取り上げ番号	種類 器種	法量 (cm)	手法上的特徴	胎土	焼成	色調	備考
253	ピット群1 P1	第177図 PL.52	54	土師質土器 杯	器高1.1△ 底径6.0※	外面体部回転ナデ。底部回転糸切り。 内面風化のため調整不明。	密	良	内外面にふい黄褐色	
254	ピット群6 P2	第177図 PL.52	488	瓦質土器 羽釜	口径24.1※ 器高4.0△	外面口縁部ナデ。体部ヨコハケ。 内面ナデ。一部指押さえ。	密(1mm以下の 砂粒含む)	良	内外面黒褐色	
255	ピット群7 P23	第177図 PL.52	821	土師質土器 鍋	器高5.5△	外面タテハケ。 内面風化のため調整不明。体部わずかに粗いヨコハケ。	密	良	内外面浅黄褐色	
256	ピット群8 P6	第177図 PL.52	758	土師質土器 小皿	口径8.8※ 器高1.3 底径4.8※	外面体部回転ナデ。底部ナデ。 内面回転ナデ。	密	良	外面浅黄褐色 内面浅黄橙～橙色	
257	ピット群8 P26	第177図 PL.52	951	土師器 焼塩土器	口径6.6※ 器高3.1	外面手捏ね整形後指押さえ。 内面ヨコナデ。	密	良	外面にふい褐～にふい 黄色 内面明褐～灰褐色	
258	ピット群10 P1	第187図 PL.54	588	土師質土器 小皿	口径8.6 器高1.6 底径6.6	外面体部ヨコナデ。底部回転糸切り。 内面ナデ。	密	良	内外面浅黄褐色	
259	ピット群10 P1	第187図 PL.54	1005	土師質土器 小皿	口径8.2※ 器高1.7 底径5.4	外面体部回転ナデ。底部静止糸切り。 内面口縁部ヨコナデ。底部回転ナデ。	密	良	外面浅黄橙～橙色 内面にふい黄褐色	
260	ピット群11 (HSK125)	第189図 PL.48	1200	瓦質土器 羽釜	口径23.8※ 器高7.2△	外面口縁部ヨコナデ。体部ケズリ後ナデ。一部指押さえ 痕。 内面ヨコナデ。	やや粗(2mm以下 の砂粒含む)	良	内外面灰黄色	内外面一部スス付 着
261	ピット群11 (HSK124)	第189図 PL.48	1198	土師質土器 皿	口径13.9※ 器高2.3△	内外面ヨコナデ。	密	良	内外面橙色	
262	ピット群12 P99	第191図 PL.53	1057	土師質土器 小皿	口径7.6※ 器高1.1 底径6.0※	外面風化のため調整不明。 内面ナデか。	密	良	内外面浅黄褐色	
263	ピット群12 P130	第191図 PL.53	308	土師質土器 杯	口径12.9※ 器高2.7 底径6.6※	外面回転ナデ。 内面体部上半回転ナデ。下半ナデ。	密(1mm前後の 砂粒含む)	良	内外面淡灰色	
264	ピット群12 P59	第191図 PL.53	281	土師質土器 小皿	口径7.4※ 器高1.7 底径5.9※	外面体部ヨコナデ。底部回転糸切り後板目。 内面ナデ。	密	良	内外面灰白色	
265	ピット群12 P59	第191図 PL.53	112	土師質土器 小皿	口径8.0※ 器高1.6 底径6.0※	外面体部ヨコナデ。底部回転糸切り。 内面ヨコナデ。	密	良	内外面浅黄褐色	
266	ピット群12 P59上層	第191図 PL.53	282	土師質土器 小皿	口径8.0※ 器高1.5 底径5.8※	外面体部ヨコナデ。底部回転糸切り。 内面ヨコナデ。	密	良	内外面灰白色	
267	ピット群12 P59	第191図 PL.53	280	土師質土器 小皿	口径8.2 器高1.7 底径5.9	外面体部ヨコナデ。底部板目。 内面ヨコナデ。	密	良	外面にふい黄褐色 内面淡黄色	
268	ピット群12 P59上層	第191図 PL.53	283	土師質土器 小皿	口径8.7※ 器高1.7 底径6.0※	外面体部ヨコナデ。底部回転糸切り後板目。 内面ヨコナデ。	密	良	外面灰白色 内面淡黄色	
269	ピット群12 P59埋土中	第191図 PL.53	1061	土師質土器 杯	口径9.2※ 器高4.3△	外面体部ナデ。底部付近指押さえ。 内面ナデ。	密	良	内外面浅黄褐色	
270	ピット群12 P59埋土中	第191図 PL.53	1031	土師質土器 杯	器高1.2△ 底径6.0	外面体部ナデ。底部静止糸切り後板目。 内面ナデ。	密	良	内外面灰白色	
271	ピット群12 P59埋土中	第191図 PL.53	112	土師質土器 杯	器高1.6△ 底径5.4※	外面体部ヨコナデ。底部回転糸切り。 内面体部ヨコナデ。底部不定方向ナデ。	密	良	内外面淡褐色	
272	ピット群12 P52埋土中	第191図 PL.53	302	土師質土器 小皿	器高1.1△ 底径5.8※	外面体部ヨコナデ。底部回転糸切り。 内面ヨコナデ。	密	良	外面淡黄色 内面暗褐色	
273	ピット群12 P52	第191図 PL.53	392	土師質土器 小皿	口径8.3※ 器高1.6 底径6.6※	外面体部ヨコナデ。底部回転糸切り。 内面ヨコナデ。	密	良	内外面橙色	
274	ピット群12 P52	第191図 PL.53	302	青磁 碗	器高3.2△	外面簡略化した鍋連弁。 内外面施釉。	密	良	胎土灰白色 釉緑灰色	
275	ピット群12 P50	第191図 PL.53	130	土師質土器 杯	器高2.3 底径6.2※	外面体部ヨコナデ。底部回転糸切り後ナデ。 内面ヨコナデ。	密	良	内外面灰白色	
276	ピット群12 P47埋土中	第191図 PL.53	109	土師質土器 小皿	口径7.8※ 器高1.4 底径6.2※	外面体部ヨコナデ。底部回転糸切り後板目。 内面ヨコナデ。	密	良	内外面灰白色	
277	ピット群12 P67	第191図 PL.53	117	土師質土器 小皿	口径6.4※ 器高1.5 底径4.4※	外面体部ヨコナデ。底部糸切りか。 内面ヨコナデ。	密	良	内外面橙色	
278	ピット群12 P74	第191図 PL.53	310	土師質土器 小皿	口径8.0※ 器高1.2 底径6.0※	外面体部ヨコナデ。底部調整不明。 内面体部ヨコナデ。底部不定方向ナデ。	密	良	内外面浅黄褐色	内外面スス付着
279	ピット群12 P11	第191図 PL.53	1093	土師質土器 杯	器高1.1△ 底径5.8※	外面体部ナデ。底部板目。 内面ナデ。	密	良	内外面浅黄褐色	
280	ピット群12 P20	第191図 PL.53	103	土師質土器 小皿	器高0.9△ 底径5.0※	外面体部ナデ。底部回転糸切りか。 内面ナデ。	密	良	外面浅黄褐色 内面にふい黄褐色	
281	ピット群12 P41	第191図 PL.53	200	土師質土器 小皿	口径8.4※ 器高1.3 底径7.0※	外面体部ヨコナデ。底部糸切り？ 内面ヨコナデ。	密	良	内外面浅黄褐色	
282	ピット群12 P56	第191図 PL.53	1088	土師質土器 杯	器高2.4※ 底径5.9	外面体部回転ナデ。底部回転糸切り後板目。 内面回転ナデ。	密	良	外面黄橙～褐色 内面黄褐色	体部内面スス付着
283	ピット群12 P56	第191図 PL.53	304	土師質土器 小皿	口径8.0※ 器高1.4 底径5.6※	外面体部ヨコナデ。底部静止糸切り後板目。 内面ヨコナデ。	密	良	内外面浅黄褐色	
284	ピット群12 P56	第191図 PL.53	190	土師質土器 小皿	口径8.0※ 器高1.4 底径5.8※	内外面風化のため調整不明。	密	良	内外面浅黄橙～褐色	
285	ピット群12 P117	第191図 PL.53	615	土師質土器 杯	口径11.4※ 器高3.5 底径6.6	外面体部風化のため調整不明。底部回転糸切り。 内面風化のため調整不明。ヨコナデか。	密(1mm前後の 砂粒含む)	良	外面灰白～浅黄褐色 内面灰白色	
286	ピット群12 P117埋土	第191図 PL.53	1080	土師質土器 杯	器高1.4△ 底径6.9	外面体部ヨコナデ。底部回転糸切り後板目。 内面ナデ。	密	良	外面にふい黄橙～褐色 内面浅黄褐色	
287	ピット群12 P117	第191図 PL.53	619	土師質土器 小皿	口径7.2 器高1.5 底径5.7	外面体部風化のため調整不明。底部回転糸切り後板目。 内面風化のため調整不明。	密	良	内外面灰白色	
288	ピット群12 P72埋土	第191図 PL.53	292	土師質土器 小皿	口径7.4※ 器高1.5 底径6.2※	外面回転ナデ。底部回転糸切り後板目。 内面回転ナデ。	密	良	内外面灰白色	
289	ピット群12 P118	第191図 PL.53	1079	土師質土器 杯	器高1.8△ 底径7.0※	外面体部ナデ。底部回転糸切り。 内面ナデ。	密	良	内外面浅黄褐色	
290	柱穴2	第194図 PL.54	980	土師質土器 小皿	口径8.5 器高1.6 底径3.1	外面体部ヨコナデ。底部調整不明。 内面回転ナデ。	密	良	内外面橙色	外面スス付着。二 次的焼熱による剥 離

表59 土器観察表(8)

遺物番号	遺構 地区 層位名	採回 PL	取り上げ番号	種類 器種	法量(cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
291	柱穴3	第196図	1020	土師質土器 小皿	口径7.7※ 器高1.6 底径6.6※	外面体部ヨコナデ。底部回転糸切り後板目。	密(1mm前後の砂粒含む)	良	内外面浅黄褐色	
292	柱穴3	第196図 PL.54	1019	土師質土器 小皿	口径7.3 器高1.7 底径6.2	外面体部ヨコナデ。底部調整不明。 内面ヨコナデ。	密	良	内外面淡褐色	
293	柱穴4	第198図 PL.54	618	土師質土器 環	口径12.2 器高4.3 底径6.1	外面体部回転ナデ。底部回転糸切り後板目。	密	良	内外面浅黄褐色	
294	柱穴4	第198図 PL.54	618	土師質土器 環	口径12.1 器高3.9 底径7.2	外面体部回転ナデ。底部回転糸切り後板目。 内面体部回転ナデ。底部指押さえ痕。	密	良	内外面淡黄色	
295	柱穴4	第198図 PL.54	618	土師質土器 環	口径12.8 器高4.1 底径6.8	外面体部回転ナデ。底部回転糸切り後板目。 内面体部回転ナデ。底部ナデ。	密(1mm前後の砂粒含む)	良	内外面浅黄褐色	口縁部スス付着
296	SX3 埋土	第201図 PL.36	1021	土師質土器 皿	口径11.6※ 器高3.7△	内外面ナデ。	密	良	内外面浅黄褐色	
297	SX3 埋土	第201図 PL.51	1021	白磁 碗	器高1.5△	内外面施釉。	密	良	胎土灰白色 釉明緑灰色	白磁V類?
298	SX3 埋土	第201図 PL.51	1021	瓦質土器 羽釜	器高5.0△	外面回転ナデ。 内面ケズリの後、回転ナデ。	密	良	浅黄褐色	
299	SX3 埋土	第201図 PL.51	1021	瓦質土器 火鉢	器高4.4△	内外面ともにハケ目後ナデ	密	良	外面黒褐色 内面灰色	
300	3区整地土	第202図 PL.55	719	土師質土器 環	器高2.5△ 底径6.2※	外面体部回転ナデ。底部調整不明。 内面回転ナデ。	密	良	内外面黄褐色	
301	3区整地土	第202図 PL.55	719	土師質土器 環	器高1.6△ 底径6.8※	外面体部ヨコナデ。底部ナデ。 内面ヨコナデ。	密	良	外面浅黄色 内面灰黄色	
302	3区整地土	第202図 PL.55	791	備前焼 甕	器高11.1△	外面体部上半ヨコナデ。下半左方向ケズリ。 内面ヨコナデ。	密(1~2mm大砂粒含む。4mm大礫少量含む)	良	内外面明赤褐色	
303	3区中世遺物 包含層 Q4 褐色土	第203図 PL.55	657	弥生土器 甕	口径19.4※ 器高5.0△	外面口縁部ヨコナデ 内面口縁部ヨコナデ、頸部ミガキ	密	良	外面橙色 内面にぶい黄橙~褐色	弥生VI-1
304	3区中世遺物 包含層 Q4 褐色土	第203図	657	弥生土器 甕	口径12.2※ 器高4.7△	外面口縁部9条乱れた平行沈線。以下横方向ミガキ。 内面口縁部丁寧なナデ。一部ミガキ。頸部屈曲部以下左 方向ケズリ。	密	良	内外面橙色	弥生V-3
305	3区中世遺物 包含層 Q4 褐色土	第203図	657	弥生土器 甕	口径20.0※ 器高4.9△	外面口縁部6条平行沈線後ナデ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部以下ケズリ後ナデ。	密	良	内外面黄褐色	弥生V-3
306	3区中世遺物 包含層 Q4 褐色土	第203図	657	弥生土器 甕	口径15.4※ 器高4.7△	外面口縁部平行沈線後ナデ。以下ナデ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下剥離。	密(1~2mmの砂粒含む)	良	内外面橙色	弥生V-3
307	3区中世遺物 包含層 Q4 褐色土	第203図	657	弥生土器 甕	口径16.6※ 器高4.9△	外面口縁部平行沈線後一部ナデ消し。以下ナデ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下左方向ケズリ。	密	良	内外面浅黄褐色	弥生V-3
308	3区中世遺物 包含層 P3・4 褐色土	第203図	623	須恵器 環身	口径8.3※ 器高3.2△	外面回転ナデ、底部ヘラ切り 内面回転ナデ	密	良	内外面ともに灰色	底面ヘラ記号 TK217
309	3区中世遺物 包含層 Q3・4 褐色土	第203図	620	土師質土器 小皿	底径3.4※ 器高1.1△	外面ナデ、底部回転糸切り 内面ナデ	密	良	内外面ともに明赤褐色	
310	3区中世遺物 包含層 O5 褐色土	第203図 PL.55	800	土師質土器 小皿	口径9.3※ 器高1.5△	内外面ともにヨコナデ	密	良	内外面ともに黄褐色	
311	3区中世遺物 包含層 P2 褐色土	第203図 PL.55	656	須恵器 甕	口径22.6※ 器高3.6△	外面ヨコナデ。体部一部指押さえ。 内面ナデ。一部指押さえ。	密	良	内外面灰白色	
312	3区中世遺物 包含層 Q4 褐色土	第203図	657	土師質土器 甕	器高4.8△	外面口縁部刻み認められる。以下剥離のため調整不明。 内面口縁部ヨコナデ後ナデ。	密	良	内外面橙色	
313	3区中世遺物 包含層 P4・Q4 褐色土	第203図 PL.55	658	土師質土器 鍋	器高2.5△	外面不定方向のハケ目 内面口縁部ハケ目後ナデ、頸部ハケ目	密	良	外面黒褐色 内面にぶい黄褐色	
314	3区中世遺物 包含層 O5 褐色土	第203図 PL.55	800	土師質土器 鍋	口径27.2※ 器高2.5△	内外面ともにナデ	密	良	外面灰黄色 内面淡黄色	
315	3区中世遺物 包含層 O5 褐色土	第203図 PL.55	800	土師質土器 鍋	器高2.4△	外面口縁部ヨコナデ 内面口縁部ナデ、頸部ケズリ後ナデ	密	良	外面にぶい黄色 内面黒褐色	
316	3区中世遺物 包含層 P4、O4 褐色土	第203図	658	瓦質土器 鍋	口径19.0※ 器高3.5△	内外面ナデ。	密	良	内外面黒色	内外面スス付着
317	3区中世遺物 包含層 Q2・3 褐色土	第203図 PL.35	74	瓦質土器 羽釜	器高2.6△	内外面ナデ。	密	不良	内外面ともに灰色	
318	3区中世遺物 包含層 P4 褐色土	第203図 PL.55	625	瀬戸・美濃焼 折縁中皿	器高2.9△	内外面輪轆ナデ。内外面施釉。	密	良	胎土淡黄色 釉浅黄色	古瀬戸中期皿期新
319	3区中世遺物 包含層 褐色土	第203図 PL.55	792	勝間田焼 甕	器高6.5△	外面格子タタキ。 内面粗いハケ目	密	良	内外面ともに灰白色	
320	3区中世遺物 包含層 O5・P5 褐色土	第203図 PL.55	660	備前焼 播鉢	口径26.0※ 器高3.7△	外面ナデ。 内面口縁部ナデ。体部粗い鉞目。	密	良	内外面灰色	重根IV A



表60 土器観察表(9)

遺物番号	遺地区位名	挿図PL	取り上げ番号	種類器種	法量(cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
321	3区中世遺物 包含層 Q3・4 褐色土	第203図	620	焼前焼 鉢	口径28.0※ 器高4.9△	内外面回転ナデ。	密(1mm以下の 砂粒含む)	良	内外面にふい赤褐色	木村Ⅲ2新～Ⅳ1期
322	3区中世遺物 包含層 Q4 褐色土	第203図	657	青磁 碗	器高3.3△	内外面施釉。	密	良	胎土灰白色 釉灰オリーブ	龍泉窯系青磁碗Dか E類
323	3区中世遺物 包含層 O5、P5 褐色土	第203図 PL.55	660	青磁 碗	口径15.0※ 器高3.4△	内外面施釉。外面釉薄。	密	良	胎土灰白色 釉青灰色	龍泉窯系青磁碗B1 類
324	3区中世遺物 包含層 P3、Q3 褐色土	第203図 PL.55	620	青白磁 台子	口径5.4※ 器高2.0 底径5.0※	外面受け部、底部露胎。体部花卉様装飾。 内面施釉。	密	良	胎土白色 釉明緑色	
325	4区中世遺物 包含層 K9 黒色土	第204図 PL.56	824	弥生土器 甕	口径13.6※ 器高2.9△	外面風化著しい。口縁部1条沈線。 内面口縁部ナデ。頸部屈曲部以下左方向ケズリ。	密	良	内外面にふい黄褐色	弥生V-1
326	4区中世遺物 包含層 K9 黒色土	第204図	1268	弥生土器 壺	口径19.8※ 器高7.7△	外面口縁部多条化した平行沈線。頸部ナデ。 内面口縁部ナデ。頸部左方向ケズリ。	密	良	外面にふい橙色 内面にふい黄褐色	弥生V-3
327	4区中世遺物 包含層 K8 黒色土	第204図 PL.56	702	弥生土器 甕	器高4.4△	外面肩部貝殻腹線による刺突文。 内面頸部ナデ。以下ケズリ。	密	良	内外面浅黄褐色	
328	4区中世遺物 包含層 K9 黒色土	第204図 PL.56	824	弥生土器 甕	口径18.0※ 器高5.7△	外面口縁部5条平行沈線。頸部ナデ。肩部ミガキ。 内面口縁部ナデ。屈曲部付近ミガキ。肩部左上方向ケ ズリ。	密	良	内外面明赤褐～橙色	外面、内面口縁部 化粧土。弥生V-3
329	4区中世遺物 包含層 黒色土	第204図	1209	弥生土器 甕	口径16.0※ 器高5.5△	外面口縁部11条平行沈線。頸部から肩部ナデ。 内面口縁部粗いナデ。頸部屈曲部以下左方向ケズリ。	やや粗	良	内外面にふい黄褐色	弥生V-3
330	4区中世遺物 包含層 K9 黒色土	第204図 PL.56	824	弥生土器 甕	口径15.6※ 器高5.8△	外面口縁部10条平行沈線。肩部波状文。 内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下左方向ケズリ。	密(2mm程度の 砂粒含む)	良	内外面橙色	弥生V-3
331	4区中世遺物 包含層 K9 黒色土	第204図 PL.56	824	弥生土器 甕	口径20.2※ 器高4.1△	外面口縁部14条平行沈線。頸部ヨコナデ。 内面風化のため調整不明。ナデか。	密(砂粒含む)	良	内外面黄褐色	弥生V-3
332	4区中世遺物 包含層 J8 黒色土	第204図 PL.56	687	弥生土器 甕	口径21.0※ 器高5.0△	外面風化著しい。ヨコナデか。 内面口縁部ナデ。頸部屈曲部以下左方向ケズリ。	密(砂粒含む)	良	内外面浅黄褐色	弥生V-3
333	4区中世遺物 包含層 K9 黒色土	第204図 PL.56	823	弥生土器 甕	口径13.0※ 器高3.9△	外面口縁部6条平行沈線一部ナデ消し。頸部ヨコナデ。肩 部貝殻腹線による押し引き沈線文。 内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下左方向ケズリ。	密	良	内外面にふい黄褐色	弥生V-3
334	4区中世遺物 包含層 K8 黒色土	第204図 PL.56	702	弥生土器 甕	器高3.5△	外面口縁部平行沈線。頸部ナデ。 内面口縁部ナデ。頸部以下ケズリ後ナデ。	密(0.2～1mm の砂粒含む)	良	内外面にふい黄褐色	弥生V-3
335	4区中世遺物 包含層 K8 黒色土	第204図 PL.56	684	弥生土器 甕底部	器高4.9△ 底径6.2※	外面ナデ。 内面ケズリ。	密(0.2～2mm の砂粒含む)	良	内外面にふい黄褐色	底部外面黒斑
336	4区中世遺物 包含層 L6 黒色土	第204図 PL.55	826	須恵器 壺	器高2.0△	外面回転ナデ。肩部2条沈線を挟んで刺突文。 内面回転ナデ。	密	良	内外面灰色	
337	4区中世遺物 包含層 J8 黒色土	第204図	680	須恵器 甕	器高3.0△	外面平行引き。 内面同心円当て具痕。	密	良	内外面灰色	
338	4区中世遺物 包含層 K7 黒色土	第204図 PL.55	899	須恵器 瓶	器高9.3△	外面回転ナデ。上半1条凹線。 内面上半回転ナデ。下半指押さえ。	密(1～2mmの 砂粒含む)	良	内外面灰色	
339	4区中世遺物 包含層 J10 黒色土	第204図 PL.55	546	須恵器 高台付皿	器高1.4△	外面回転ナデ。 内面二次的に擦っている。	密	良	内外面灰白色	転用碗か
340	4区中世遺物 包含層 I8 黒色土	第204図 PL.55	394	須恵器 高台環	器高2.2△	外面体部回転ナデ。底部ナデ。 内面回転ナデ。	密	良	内外面灰色	
341	4区中世遺物 包含層 M6 黒色土	第204図 PL.55	814	須恵器 高台環	器高3.0△ 底径10.6※	外面回転ナデ。底部ナデ。 内面回転ナデ。	密	良	内外面褐灰色	
342	4区中世遺物 包含層 L6 黒色土	第204図 PL.55	857	須恵器 高台環	器高2.6△ 底径9.2※	外面体部回転ナデ。底部ナデ。 内面回転ナデ。	密	良	内外面灰色	
343	4区中世遺物 包含層 K9 黒色土	第204図 PL.56	704	土師器 甕底部	最大厚3.0	手握ね整形。外面粗いハケ。	密	良	橙色	
344	4区中世遺物 包含層 K9 黒色土	第204図 PL.56	693	土師器 甕	口径25.2※ 器高5.0△	外面口縁部、体部ハケ目。 内面口縁部ナデ。体部左方向ケズリ。	密	良	内外面黄色	
345	4区中世遺物 包含層 J6 黒色土	第204図 PL.56	904	土師質土器 小皿	口径8.7※ 器高1.5 底径6.3	外面体部回転ナデ。底部回転糸切り。 内面回転ナデ。	密	良	内外面にふい黄褐色	
346	4区中世遺物 包含層 J7 黒色土	第204図	676	土師質土器 小皿	口径8.0※ 器高2.1 底径5.6※	外面体部回転ナデ。底部回転糸切り後板目。 内面回転ナデ。	密	良	内外面浅黄褐色	

表61 土器観察表(10)

遺物番号	遺構地区層位名	挿図PL	取り上げ番号	種類器種	法量(cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
347	4区中世遺物包含層J9 黒色土	第204図PL.58	681	土師質土器小皿	口径7.8※ 器高1.3 底径5.4※	外面体部ココナデ。底部回転糸切り後ナデ。内面ココナデ。	密	良	外面灰褐～黒褐色 内面にぶい橙色	
348	4区中世遺物包含層K8 黒色土	第204図	684	土師質土器小皿	口径7.7※ 器高1.4 底径7.0※	外面体部回転ナデ。底部回転糸切り。内面ナデ。	密	良	内外面浅黄橙色	口縁部スス付着
349	4区中世遺物包含層K8 黒色土	第204図	674	土師質土器小皿	器高1.4△ 底径4.4	外面体部回転ナデ。底部回転糸切り。内面回転ナデ。	密(砂粒含む)	良	内外面浅黄橙色	
350	4区中世遺物包含層J6 黒色土	第204図	786	土師質土器環	器高1.6△ 底径7.0※	外面体部ナデ。底部回転糸切り。内面回転ナデ。	密	良	内外面にぶい黄橙色	
351	4区中世遺物包含層K8 黒色土	第204図PL.56	674	土師質土器環	器高1.5△ 底径6.8※	外面回転ナデ。底部回転糸切り後板目。内面回転ナデ。	密	良	内外面浅黄橙色	
352	4区中世遺物包含層J5 黒色土	第204図PL.58	607	土師質土器環	器高2.8△ 底径7.7	外面体部ナデ。底部回転糸切り。内面ココナデ。	密	良	内外面浅黄橙色	
353	4区中世遺物包含層K5 黒色土	第204図PL.56	600	土師質土器環	器高3.3△ 底径7.5	外面体部回転ナデ。底部静止糸切り。内面体部回転ナデ。底部ナデ。	密	良	外面橙色 内面浅黄橙色	
354	4区中世遺物包含層J7 黒色土	第204図	676	土師質土器環	器高1.3△ 底径7.0※	外面体部ココナデ。底部回転糸切り後板目。内面ナデ。	密	良	外面橙色 内面にぶい黄橙色	
355	4区中世遺物包含層J5 黒色土	第204図PL.56	607	土師質土器環	口径14.0※ 器高4.3△	内外面ココナデ。	密	良	内外面橙色	体部外面黒斑
356	4区中世遺物包含層J7 黒色土	第204図PL.56	679	土師質土器鍋	器高4.9△	外面粗いハケ目。内面口縁部ココナデ。体部ココハケ。	密	良	にぶい黄橙色	
357	4区中世遺物包含層J8 黒色土	第204図PL.56	680	土師質土器羽釜	口径19.5※ 器高4.9△	外面口縁部ナデ。体部粗いナデ。内面口縁部ナデ。体部指押さえあり。	密	良	内外面黒色	外面スス付着
358	4区中世遺物包含層L6 黒色土	第204図PL.55	854	勝間田焼甕	器高6.1△	外面格子目吹き。内面回転ナデ。	密	良	外面灰色 内面暗灰色	
359	4区中世遺物包含層J8 黒色土	第204図PL.55	680	須恵器鉢	口径25.6※ 器高3.5△	内外面ココナデ。	密	良	内外面黄灰～灰白色	
360	4区中世遺物包含層H7 黒色土	第204図PL.57	395	須恵器甕	器高5.2△ 底径9.0※	外面体部ナデ。底部工具によるナデ。内面ナデ。	密	良	内外面灰白色	
361	4区中世遺物包含層K8 黒色土	第204図	684	瓦質土器鍋	口径27.1※ 器高3.8△	外面ナデ。体部指押さえ痕。内面ココナデ。	密	良	外面黒褐色 内面灰白～黒褐色	外面スス付着
362	4区中世遺物包含層J10 黒色土	第204図PL.57	393	瓦質土器鉢	器高5.3△	外面口縁部2条沈線。以下ケズリ。内面ナデ。	密(砂粒含む)	良	内外面灰黄色	
363	4区中世遺物包含層K6 黒褐色土	第207図	665	縄文土器浅鉢	器高5.2△	粗製土器。外面粗いナデ。内面条痕。	やや粗(1～2mmの砂粒含む)	良	外面灰黄褐色 内面にぶい黄橙色	外面スス付着
364	4区中世遺物包含層J10 黒褐色土	第207図PL.56	550 682	弥生土器壺	器高10.8△	外面口縁部平行沈線。頸部平行沈線後羽状文。内面ケズリ後横方向ミガキ。	密	良	内外面浅黄橙色	
365	4区中世遺物包含層H7 黒褐色土	第207図PL.56	325	弥生土器甕	器高4.2△	外面口縁部8条以上の乱れた平行沈線。頸部ナデ。内面口縁部ナデ。頸部屈曲部以下ケズリ。	密	良	内外面灰白色	
366	4区中世遺物包含層K8 黒褐色土	第207図	361	弥生土器甕	口径14.8※ 器高3.8△	外面口縁部多条化した平行沈線。肩部ナデ。内面ナデ。	やや粗(砂粒多く含む)	良	内外面灰白色	
367	4区中世遺物包含層J8・9 黒褐色土	第207図	438	弥生土器甕	口径11.6※ 器高3.1△	外面口縁部6条乱れた波状文。肩部ナデ。内面口縁部ナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。	密(1mm以下の砂粒含む)	良	内外面にぶい黄橙色	
368	4区中世遺物包含層H7 黒褐色土	第207図PL.58	325	弥生土器甕	器高2.5△	外面口縁部多条化した平行沈線。内面ナデ。	密	良	外面浅黄褐色 内面黄褐色	
369	4区中世遺物包含層I8 黒褐色土	第207図	326	弥生土器甕	器高4.0△	外面口縁部5条乱れた平行沈線。内面口縁部ナデ。頸部ケズリ後ナデ。	密	良	内外面にぶい橙色	
370	4区中世遺物包含層H7 黒褐色土	第207図	325	弥生土器甕	口径16.4※ 器高4.2△	内外面風化のため調整不明。	やや粗(1mm大の砂粒多く含む)	良	内外面灰白色	
371	4区中世遺物包含層K8 黒褐色土	第207図PL.58	360	弥生土器甕	口径18.7※ 器高4.8△	内外面ナデ。	密(1～2mmの砂粒含む)	良	内外面淡黄～橙色	

表62 土器観察表(11)

遺物番号	遺地 掘り 位置	挿図 PL	取り上げ番号	種類 器種	法量 (cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
372	4区中世遺物 包含層 L5 黒褐色土	第207図 PL.58	565	土師器 甕	口径24.2※ 器高6.7△	外面口縁端部ナデ。以下斜方向ハケ目。 内面口縁部ナデ。体部左上方向ケズリ。	密(0.5mm以下 の砂粒含む)	良	内外面にふい黄褐色	
373	4区中世遺物 包含層 K6 黒褐色土	第207図 PL.58	665	土師器 甕底部分	器高4.2△	内外面手握ね整形後ナデ。	密(1.5mm以下 の砂粒含む)	良	外面にふい黄褐色～赤褐色 内面にふい黄褐色	
374	4区中世遺物 包含層 K5 黒褐色土	第207図	926	土師器 甕	器高7.6△	外面ケズリ後タテハケ。 内面上方向ケズリ。	密(1mm以下 の砂粒含む)	良	外面橙～褐灰色 内面にふい黄褐色	
375	4区中世遺物 包含層 J7 黒褐色土	第207図	606	土師質土器 皿	口径12.3※ 器高2.1 底径8.8※	外面体部回転ナデ。底部ケズリ後不定方向ナデ。 内面回転ナデ。	密	良	内外面明黄褐色	
376	4区中世遺物 包含層 L6 黒褐色土	第207図	556	須恵器 坏蓋	口径13.8※ 器高1.8△	内外面回転ナデ。	密	良	外面灰～褐灰色 内面灰色	
377	4区中世遺物 包含層 K8 黒褐色土	第207図	351	須恵器 坏蓋	器高1.7△ つまみ径3.4 ※	外面回転ナデ。 内面不定方向ナデ。	密	良	内外面灰色	
378	4区中世遺物 包含層 L6 黒褐色土	第207図 PL.57	631	須恵器 高台環	器高2.9△ 底径8.4※	外面体部回転ナデ。底部回転系切り。 内面体部回転ナデ。底部ナデ。	密	良	内外面暗青灰色	
379	4区中世遺物 包含層 L5 黒褐色土	第207図 PL.57	646	須恵器 台付壺	器高2.9△ 底径11.4※	外面ナデ。 内面回転ナデ。	密(砂粒含む)	良	内外面褐灰色	
380	4区中世遺物 包含層 K5 黒褐色土	第207図 PL.57	509	須恵器 甕	器高7.9△	外面平行叩き。 内面同心円当て具痕。	密	良	内外面灰色	
381	4区中世遺物 包含層 K6 黒褐色土	第207図 PL.57	671	須恵器 広口壺	器高14.5△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。頸部上半指押さえあり。	密	良	外面青灰色 内面灰色	
382	4区中世遺物 包含層 K6 黒褐色土	第207図 PL.58	670	土師器 焼塩土器	口径8.6※ 器高5.6△	内外面手握ね整形後指押さえ。	密	良	内外面にふい黄褐色	
383	4区中世遺物 包含層 K6 黒褐色土	第207図 PL.58	670	土師器 焼塩土器	口径11.6※ 器高3.7△	内外面手握ね整形後指押さえ。	密	良	内外面にふい黄褐色	
384	4区中世遺物 包含層 K6 黒褐色土	第207図 PL.58	670	土師器 焼塩土器	口径9.0※ 器高4.0△	内外面手握ね整形後指押さえ。	密	良	内外面にふい黄褐色	
385	4区中世遺物 包含層 K6 黒褐色土	第207図 PL.58	665	土師器 焼塩土器	口径9.6※ 器高2.9△	内外面手握ね整形後指押さえ。	密	良	外面黄褐色 内面にふい黄褐色	
386	4区中世遺物 包含層 K6 黒褐色土	第207図 PL.58	670	土師器 焼塩土器	口径8.6※ 器高3.8△	内外面手握ね整形後指押さえ。	密	良	内外面にふい黄褐色	外面二次的被熱による肌荒れ
387	4区中世遺物 包含層 K6 黒褐色土	第207図 PL.58	670	土師器 焼塩土器	口径8.6※ 器高2.6△	内外面手握ね整形後指押さえ。	密	良	内外面黄褐色	
388	4区中世遺物 包含層 K6 黒褐色土	第207図 PL.58	670	土師器 焼塩土器	器高3.6△	内外面手握ね整形後指押さえ。	密	良	内外面にふい黄褐色	
389	4区中世遺物 包含層 K6 黒褐色土	第207図 PL.58	670	土師器 焼塩土器	口径9.6※ 器高2.9△	内外面手握ね整形後指押さえ。	密	良	内外面黄褐色	
390	4区中世遺物 包含層 K8 黒褐色土	第207図 PL.58	360	土師質土器 坏	口径12.2※ 器高2.9△	内外面ナデ。	密	良	内外面浅黄褐色	
391	4区中世遺物 包含層 L7 黒褐色土	第207図	677	土師質土器 坏	器高2.3△ 底径6.7	外面体部ナデ。底部回転系切り。 内面ナデ。	密	良	外面にふい橙色 内面橙～にふい橙色	
392	4区中世遺物 包含層 K7 黒褐色土	第207図	519	土師質土器 坏	器高2.5△ 底径5.6※	外面体部回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	良	外面褐色 内面にふい黄褐色～にふい黄褐色	
393	4区中世遺物 包含層 黒褐色土	第207図	538	土師質土器 坏	器高1.6△ 底径6.3	外面体部回転ナデ。底部回転系切り。 内面ナデ。	密	良	内外面黄褐色	
394	4区中世遺物 包含層 K5 黒褐色土	第207図	578	土師質土器 坏	器高1.4△ 底径6.4※	外面体部回転ナデ。底部静止系切り。 内面ヨコナデ。	密	良	内外面黄褐色	
395	4区中世遺物 包含層 M4 黒褐色土	第207図 PL.55	1267	土師質土器 小皿	口径17.6※ 器高1.6 底径5.9	外面胎部回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	良	外面にふい黄褐色～橙色 内面にふい黄褐色	
396	4区中世遺物 包含層 J5 黒褐色土	第207図	512	土師質土器 小皿	口径9.2※ 器高1.7 底径3.3※	外面体部回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	良	内外面明黄褐色	
397	4区中世遺物 包含層 J7 黒褐色土	第207図	592	土師質土器 小皿	口径8.2※ 器高1.4 底径6.2※	外面体部回転ナデ。底部回転系切り後板目。 内面回転ナデ。	密	良	内外面にふい黄褐色	

表63 土器観察表(12)

遺物番号	遺構地区層位名	挿図PL	取り上げ番号	種類器種	法量(cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
398	4区中世遺物包含層H7 黒褐色土	第207図	325	土師質土器小皿	口径7.0※ 器高1.5 底径5.0※	外面体部回転ナデ。底部回転糸切り。 内面回転ナデ。	密	良	内外面浅黄褐色	
399	4区中世遺物包含層K8・9 黒褐色土	第207図	360	土師質土器小皿	口径6.4※ 器高1.4 底径5.6※	外面体部ナデ。底部回転糸切り。 内面ナデ。	密	良	内外面淡黄色	口縁端部スス付着。灯明皿
400	4区中世遺物包含層K8 黒褐色土	第207図	701	土師質土器小皿	口径8.0※ 器高1.9 底径5.0※	外面体部回転ナデ。底部ナデ。 内面体部回転ナデ。底部ヨコナデ。	密	良	内外面浅黄褐色	
401	4区中世遺物包含層 黒褐色土	第207図 PL.58		土師質土器環	口径9.4※ 器高2.9 底径6.6※	外面体部風化著しい。回転ナデか。底部回転糸切り後板目。 内面ヨコナデ。	密	良	内外面浅黄褐色	
402	4区中世遺物包含層I8 黒褐色土	第207図	326	土師質土器環	器高1.3△ 底径6.4※	外面体部ナデ。底部回転糸切り。 内面ナデ。	密	良	内外面浅黄褐色	
403	4区中世遺物包含層L6 黒褐色土	第207図	650	土師質土器環	器高1.3△ 底径5.3※	外面体部ナデ。底部回転ナデ。 内面ナデ。	密	良	外面浅黄褐色 内面にふい赤褐色	外面スス付着
404	4区中世遺物包含層L8 黒褐色土	第207図	605	土師質土器環	器高1.3△ 底径7.0※	外面体部回転ナデ。底部回転糸切り。 内面ナデ。	密	良	外面浅黄褐色 内面黄褐色	
405	4区中世遺物包含層K9 黒褐色土	第207図	353	土師質土器環	器高1.3△ 底径7.8※	外面体部回転ナデ。底部回転糸切り後ナデ。 内面回転ナデ。	密	良	内外面橙色	
406	4区中世遺物包含層K5 黒褐色土	第208図 PL.56	827 905	土師質土器鍋	口径28.0※ 器高10.1△	外面口縁部ナデ。体部上半タテハケ。下半ヨコハケ。 内面口縁端部ナデ。口縁部斜方向ハケ目。体部ヨコハケ。	密	良	内外面橙色	外面スス付着
407	4区中世遺物包含層L6 黒褐色土	第208図 PL.58	663	土師質土器鍋	口径21.7※ 器高3.8△	外面ナデ。 内面口縁部ナデ。体部斜方向ハケ目認められる。	密	良	外面黒褐色 内面浅黄褐色	外面スス付着
408	4区中世遺物包含層M3 黒褐色土	第208図	780	土師質土器鍋	口径32.0※ 器高3.4△	外面ナデ。 内面細かいヨコハケ。一部指押さえあり。	密	良	内外面浅黄色	外面赤変
409	4区中世遺物包含層J10 黒褐色土	第208図	332	土師質土器鍋	器高4.1△	外面口縁部ナデ、体部タテハケ。 内面粗いヨコハケ。	密(砂粒含む)	良	外面黒褐色 内面淡黄色	外面スス付着
410	4区中世遺物包含層J9 黒褐色土	第208図	331	土師質土器鍋	器高2.1△	外面口縁部ナデ。体部指押さえ後タテハケ。 内面ナデ。	密	良	外面浅黄色 内面にふい黄褐色	
411	4区中世遺物包含層L7 黒褐色土	第208図	707	土師質土器鍋	口径20.8※ 器高2.7△	外面口縁端部1条沈線。以下タテハケ。 内面粗いハケ目。	密	良	内外面浅黄褐色	
412	4区中世遺物包含層I8・J8 黒褐色土	第208図	350	土師質土器鍋	器高3.9△	外面粗いタテハケ。 内面ヨコハケ。	密	良	内外面浅黄褐色	
413	4区中世遺物包含層K8 黒褐色土	第208図	338	土師質土器鍋	器高3.3△	外面口縁部ナデ。体部タテハケ。 内面口縁部ヨコナデ。体部ヨコハケ。	密	良	内外面橙色	
414	4区中世遺物包含層I7 黒褐色土	第208図	345	土師質土器鍋	口径20.0※ 器高2.0△	外面口縁端部ナデ。以下斜方向ハケ目。 内面ナデ。	密(1mm以下の砂粒含む)	良	内外面にふい黄褐色	
415	4区中世遺物包含層K9 黒褐色土	第208図	353	土師質土器鍋	口径28.6※ 器高4.6△	外面ナデ。体部一部指押さえあり。 内面ナデ。	密	良	内外面灰白色	
416	4区中世遺物包含層M6 黒褐色土	第208図 PL.58	635	土師質土器鍋	口径26.0※ 器高5.0△	外面ナデ。頸部指押さえあり。 内面ナデ。	密	良	内外面明黄褐色	外面スス付着
417	4区中世遺物包含層J5 黒褐色土	第208図	902	土師質土器鍋	口径22.8※ 器高3.7△	外面口縁部ナデ。体部粗いタテハケ。 内面ヨコナデ。	密	良	外面黒色 内面暗灰黄色	外面スス付着
418	4区中世遺物包含層K5 黒褐色土	第208図	602	土師質土器鍋	器高5.2△	外面口縁部ヨコナデ。体部タテハケ。 内面口縁部ヨコナデ。体部ヨコハケ。	密	良	外面にふい橙色 内面橙色	
419	4区中世遺物包含層J6 黒褐色土	第208図 PL.57	593	土師質土器鍋	器高2.3△	外面口縁部ナデ、体部ヨコハケ。 内面口縁部ナデ。体部粗いヨコハケ。	密	良	内外面灰白色	
420	4区中世遺物包含層K5 黒褐色土	第208図	602	土師質土器羽釜	器高3.7△	外面ナデ。 内面ケズリ後ナデ。	密	良	内外面にふい黄褐色	
421	4区中世遺物包含層K8・9 黒褐色土	第208図	360	土師質土器羽釜	器高2.8△	外面ナデ。 内面ヨコハケ。	密	良	内外面にふい黄褐色	
422	4区中世遺物包含層I8・J8 黒褐色土	第208図	350	内黒土器環	器高2.0△ 底径15.6※	内外面ナデ。	密	良	外面浅黄褐色 内面褐灰色	外面スス付着
423	4区中世遺物包含層L7 黒褐色土	第208図	686	土師質土器鉢	口径5.0△	外面ナデ。 内面丁寧ナデ。	密	良	内外面黄褐色	

表64 土器観察表(13)

遺物番号	遺地 地区 層位名	挿図 PL	取り上げ番号	種類 器種	法量 (cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
424	4区中世遺物 包含層 K9 黒褐色土	第208図 PL58	353	土師器 鉢	器高3.4△	外面口縁端部ヨコナデ。1条沈線。体部タテハケ。 内面ナデ。	密	良	内外面灰褐～黒褐色	
425	4区中世遺物 包含層 J7 黒褐色土	第208図	606	瓦質土器 鍋	口径24.4※ 器高2.9△	外面口縁部ヨコナデ。体部指押さえあり。 内面ヨコナデ。	密	良	外面黒褐色 内面浅黄～黒褐色	
426	4区中世遺物 包含層 K8 黒褐色土	第208図	361	瓦質土器 鍋	口径23.4※ 器高4.0△	外面口縁部ナデ。体部一部指押さえあり。 内面ナデ。	密(1mm以下の 砂粒含む)	良	内外面灰白～暗灰色	
427	4区中世遺物 包含層 K3 黒褐色土	第208図 PL58	353	瓦質土器 鍋	口径27.6※ 器高3.4△	外面口縁部ナデ。体部ケズリ。 内面ナデ。	密	良	内外面灰白色	外面スス附着
428	4区中世遺物 包含層 J8 黒褐色土	第208図	343	瓦質土器 鍋	器高1.8△	外面ナデ。 内面ヨコナデ。	密(1mm以下の 砂粒含む)	良	内外面灰白色	外面スス附着
429	4区中世遺物 包含層 I8 黒褐色土	第208図	350	瓦質土器 鍋	器高2.6△	内外面ヨコナデ。	密	良	内外面灰黄褐色	
430	4区中世遺物 包含層 L5 黒褐色土	第208図 PL57	647	瓦質土器 羽釜	口径24.2※ 器高3.0△	外面ナデ。 内面ケズリ後ナデ。	密	良	内外面灰色	
431	4区中世遺物 包含層 I7 黒褐色土	第208図 PL57	344	瓦質土器 羽釜	口径26.4※ 器高5.7△	内外面ナデ。	密	良	内外面淡黄色	外面スス附着
432	4区中世遺物 包含層 I8 黒褐色土	第208図	326	瓦質土器 羽釜	器高5.4△	外面口縁部ヨコナデ。体部ケズリ後ナデ。 内面ナデ。	密	良	外面灰黄褐色 内面にふい黄橙色	
433	4区中世遺物 包含層 I9 黒褐色土	第208図 PL57	327	瓦質土器 羽釜	器高4.1△	内外面ナデ。	密	良	内外面褐色	
434	4区中世遺物 包含層 L8 黒褐色土	第208図	605	瓦質土器 羽釜	口径20.4※ 器高5.1△	内外面ナデ。	密	良	内外面灰白色	
435	4区中世遺物 包含層 K6 黒褐色土	第208図 PL57	597	瓦質土器 羽釜	口径27.0※ 器高7.2△	外面口縁部ナデ。体部粗いナデ。 内面ケズリ後ナデ。	やや粗	良	内外面青黒色	外面スス附着
436	4区中世遺物 包含層 H7 黒褐色土	第208図	325	瓦質土器 羽釜	器高4.9△	外面ナデ。体部一部指押さえあり。 内面口縁部ナデ。体部粗いナデ。	密	良	外面黄灰色 内面暗黄灰色	
437	4区中世遺物 包含層 K8-9 黒褐色土	第208図	346	瓦質土器 羽釜	器高5.0△	外面口縁部ヨコナデ。鈎以下ナデ。 内面口縁部ヨコナデ。以下ナデ。	密(1mm以下の 砂粒含む)	良	外面褐色 内面灰～褐色	外面スス附着
438	4区中世遺物 包含層 K8 黒褐色土	第208図 PL57	351	瓦質土器 播鉢	口径29.4※ 器高8.3△	外面口縁端部回転ナデ。体部粗いナデ。 内面ナデ。5条1単位の卸目。	密	良	外面灰～暗灰色 内面灰黄色	
439	4区中世遺物 包含層 I8・J8 黒褐色土	第208図 PL57	350	瓦質土器 鍋	器高2.0△ 底径15.6※	内外面ナデ。	密	良	内外面浅黄色	外面スス附着
440	4区中世遺物 包含層 J8 黒褐色土	第208図	333	瓦質土器 鉢	器高3.0△	外面ナデ。 内面粗いヨコハケ。	密	良	外面浅黄褐色 内面にふい黄褐色	
441	4区中世遺物 包含層 J9 黒褐色土	第209図 PL57	331	備前焼 鉢	口径25.9※ 器高4.6△	外面ヨコナデ。 内面ナデ。	密	良	外面灰白～灰色 内面灰白色	重根IV A ?
442	4区中世遺物 包含層 K6・L6 黒褐色土	第209図 PL57	650 665	備前焼 鉢	口径23.4※ 器高2.8△	内外面ナデ。	密	良	内外面灰白色	重根IV A ?
443	4区中世遺物 包含層 K5 黒褐色土	第209図 PL59	509	備前焼 播鉢	器高3.0△ 底径16.2※	外面ナデ。 内面8条1単位の卸目が粗く入る。	密	良	内外面暗赤色	
444	4区中世遺物 包含層 L6 黒褐色土	第209図 PL57	513	勝間田焼 甕	器高7.4△	外面格子目叩き。 内面タテ後ヨコハケ。	密	良	内外面灰白色	
445	4区中世遺物 包含層 H7 黒褐色土	第209図	325	勝間田焼 甕	器高7.0△	外面格子目叩き。 内面ナデ。	密	良	内外面灰白色	
446	4区中世遺物 包含層 L6 黒褐色土	第209図 PL57	556	勝間田焼 甕	器高4.4△	外面格子目叩き。 内面ヨコナデ。	密	良	内外面暗灰色	
447	4区中世遺物 包含層 I7 黒褐色土	第209図	348	勝間田焼 甕	器高5.7△	外面格子目叩き。 内面ナデ。	密(砂粒含む)	良	外面緑灰色 内面灰色	
448	4区中世遺物 包含層 K8-9 黒褐色土	第209図 PL59	346	青磁 碗	口径14.0※ 器高3.8△	内外面施釉。	密	良	胎土灰色 釉オリーブ灰色	龍泉窯系碗D類

表65 土器観察表(14)

遺物番号	遺構地区層位名	挿図PL	取り上げ番号	種類器種	法量(cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
449	4区中世遺物包含層J8 黒褐色土	第209図 PL.59	343	青磁碗	口径16.2※ 器高4.6△	内外面施釉。外面蓮弁。	密	良	胎土灰白色 釉明オリブ色	龍泉窯系碗D2類
450	4区中世遺物包含層J7 黒褐色土	第209図 PL.59	349	青磁碗	口径14.6※ 器高4.1△	内外面施釉。外面体部線描きによる蓮弁。貫入。	密	良	胎土灰白色 釉オリブ灰色	龍泉窯系碗D4類
451	4区中世遺物包含層M4 黒褐色土	第209図 PL.59	775	青磁碗	器高2.6△	内外面施釉。外面雷文。	密	良	胎土灰白色 釉オリブ灰～暗オリブ灰色	龍泉窯系碗C2類
452	4区中世遺物包含層K9 黒褐色土	第209図 PL.59	353	青磁碗	口径14.0※ 器高4.2△	内外面施釉	密	良	胎土灰白色 釉オリブ灰色	龍泉窯系碗D類
453	4区中世遺物包含層K8・L8 黒褐色土	第209図 PL.59	520	青磁碗	口径18.6※ 器高3.8△	内外面施釉。貫入あり。	密	良	胎土灰色 釉オリブ灰色	龍泉窯系碗D類
454	4区中世遺物包含層L5 黒褐色土	第209図 PL.59	630	青磁碗	器高2.2△	内外面施釉。貫入あり。	密	良	胎土灰白色 釉オリブ灰色	
455	4区中世遺物包含層H7 黒褐色土	第209図 PL.59	325	青磁碗	器高2.8△	内外面施釉。	密	良	胎土灰白色 釉緑灰色	
456	4区中世遺物包含層J8・7 黒褐色土	第209図 PL.59	438	青磁碗	器高2.2△	外面体部施釉。底部露胎。 内面見込に簡略化した草花文。	密	良	胎土灰白色 釉オリブ灰色	龍泉窯I類
457	4区中世遺物包含層J7 黒褐色土	第209図 PL.59	349	青磁 盤	器高2.2△	外面施釉。 内面ケズリによる蓮弁様文。施釉。	密	良	胎土灰白色 釉オリブ色	
458	4区中世遺物包含層L6 黒褐色土	第209図 PL.59	650	白磁碗	口径16.8※ 器高2.4△	内外面施釉。	密	良	胎土灰白色 釉灰黄～灰白色	白磁IV類
459	4区中世遺物包含層K8・L8 黒褐色土	第209図 PL.59	520	白磁皿	口径10.8※ 器高2.0△	外面体部施釉。底部露胎。 内面施釉。	密	良	胎土灰白色 釉白色	白磁皿D群
460	4区中世遺物包含層K8・L8 黒褐色土	第209図 PL.59	520	瀬戸・美濃焼碗	器高3.8△	内外面施釉。貫入あり。	密	良	胎土灰白色 釉浅黄色	古瀬戸後期Ⅲ期
461	4区中世遺物包含層K8・L8 黒褐色土	第209図 PL.59	520	瀬戸・美濃焼平碗	器高3.8△	内外面施釉。貫入あり。	密	良	胎土灰白色 釉浅黄色	古瀬戸後期Ⅱ期
462	4区中世遺物包含層I9 黒褐色土	第209図 PL.59	327	染付け碗	器高2.9△	内外面施釉。外面染付け文様。	密	良	胎土灰白色 釉灰色	
463	4区中世遺物包含層J8 黒褐色土	第209図 PL.58	337	瓦質土器底部	器高2.7△ 底径15.0※	内外面ナデ。	密	良	内外面灰黄褐色	
464	4区中世遺物包含層K9 黒褐色土	第209図 PL.58	353	土製品土錘	最大長4.7 最大幅1.6 重さ9.0g	手捏ね整形後ナデ。	密	良	浅黄褐色	
465	4区中世遺物包含層L6 黒褐色土	第209図 PL.58	513	土製品土錘	最大長5.1 最大幅1.3 重さ	手捏ね整形後ナデ。	密	良	橙色	
466	4区中世遺物包含層J7 黒褐色土	第209図 PL.58	667	土製品土錘	最大長4.3△ 最大幅1.3 重さ6.5g△	手捏ね整形後ナデ。	密	良	にぶい橙色	
467	4区中世遺物包含層H7 黒褐色土	第209図 PL.58	325	土製品土錘	最大長3.8 最大幅1.3 重さ5.0g	手捏ね整形後ナデ。	密	良	浅黄褐色	
468	4区中世遺物包含層J8 黒褐色土	第209図 PL.58	333	土製品土錘	最大長4.1△ 最大幅1.8 重さ10.0g△	手捏ね整形後ナデ。	密	良	灰白色	
469	4区中世遺物包含層I6 黒褐色土	第209図 PL.58	601	土製品土玉	最大長2.7 最大幅2.6 重さ15.5g	手捏ね整形後ナデ。	密	良	褐色	
470	SD2埋土中	第216図 PL.68	37	青磁碗	器高4.2△ 底径5.6※	内外面施釉。底部外面一部露胎。	密	良	胎土灰色 釉灰オリブ色	龍泉窯系碗D類
471	SD2埋土中	第216図 PL.68	70	青磁碗	器高3.4△ 底径6.1※	内外面施釉。畳付露胎。	密(1mm大の砂粒わずかに含む)	良	胎土明褐色 釉オリブ灰色	龍泉窯系碗DかE類
472	SD2埋土中	第216図 PL.68	23	青磁碗	器高2.2△ 底径6.0※	内外面施釉後畳付釉剥き取り。内面見込み文様あり。	密	良	胎土灰白～灰色 釉灰オリブ色	龍泉窯系碗D類
473	SD2埋土中	第216図 PL.68	70	青磁盤	器高1.4△	内外面施釉。	密	良	胎土灰白色 内外面オリブ灰色	
474	SD2埋土中	第216図 PL.68	69	青磁盤	器高2.0△	花卉状口縁。内外面施釉。	密	良	胎土灰白色 釉オリブ灰色	
475	SD2埋土中	第216図 PL.68	23	朝鮮陶器皿	器高1.3△ 底径3.8	内外面施釉。外面底部ヘラ切り。 内面見込みに胎土目	密	良	胎土オリブ灰色 釉オリブ灰～暗オリブ灰色	
476	SD2埋土中	第216図 PL.68	69	陶胎青磁?碗	器高3.8△ 底径4.5※	内外面施釉。畳付露胎。	密	良	胎土赤褐色 釉灰オリブ色	

表66 土器観察表(15)

遺物番号	遺構地区 位名	挿図 PL	取り上げ番号	種類 器種	法量 (cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
477	SD2 埋土中	第216図 PL.68	70	瀬戸・美濃焼 碗	器高4.2△ 底径4.6※	内外面施釉。畳付露胎	密	良	胎土灰黄色 釉オリーブ黄色	
478	SD2 埋土中	第216図 PL.68	70	瀬戸・美濃焼 瑞反皿	器高1.2 底径5.8※	内外面施釉。	密	良	胎土灰白色 釉暗オリーブ色	大窯Ⅰ・Ⅱ
479	SD2 埋土中	第216図 PL.68	69	唐津焼 碗	器高2.0△ 底径4.0※	外面施釉。畳付露胎。 内面施釉。底部見込み胎土目。	密	良	胎土にふい黄褐色 釉灰オリーブ色	
480	SD2 埋土中	第216図 PL.68	23	柴付け 碗	器高2.7△	外面呉須による線描き。内外面施釉。	密	良	灰白色	貫入あり
481	SD2 埋土中	第216図 PL.68	37	柴付け 碗	器高4.5△	外面呉須による2条線。内外面施釉。	密	良	胎土明オリーブ灰色	
482	SD2 埋土中	第216図 PL.68	70	陶器 卸皿	口径15.0※ 器高2.1△	全面鉄釉。内面卸目。	密	良	胎土暗灰色 釉極暗赤褐～暗灰色	
483	SD2 埋土中	第216図 PL.68	70	須佐焼 搦鉢	器高3.0△	外面ナデ。 内面卸目。	密	良	内外面にふい赤褐色	
484	SD2 埋土中	第216図 PL.68	69	須佐焼? 搦鉢	器高6.3△	外面ナデ。 内面細かい多条化した卸目。	密	良	外面にふい橙～褐灰色 内面にふい褐色	
485	SD2 埋土中	第216図 PL.68	70	須佐焼 搦鉢	器高4.5△ 底径9.8※	外面体部ナデ。底部回転ネズリ。 内面細かい卸目。	密	良	内外面灰褐色	
486	SD2 埋土中	第216図	37	軒平瓦	最大長4.0△ 最大幅7.5△	瓦当面簡略化した唐草文。	密	良	灰～オリーブ黒色	
487	SD2 埋土中	第216図	69	軒平瓦	最大長2.5△ 最大幅2.5	瓦当面簡略化した唐草文。額額。	密	良	灰色	
488	SD2 埋土中	第216図	70	土製品 土錘	最大長5.3 最大幅1.8 重さ16.5g	手捏ね整形後ナデ。	密	良	暗褐色	
489	SD2 埋土中	第216図	23	土錘	最大長4.6 最大幅1.0 重さ	手捏ね整形後ナデ。	密	良	橙色	
490	SD5 埋土中	第217図 PL.68	46	青磁 碗	器高2.0△	外面体部～高台施釉。底部露胎。 内面施釉。	密	良	胎土灰白色 釉灰黄褐色	龍泉窯系統DかE類
491	SD5 埋土中	第217図 PL.68	46	青磁 碗	口径16.0※ 器高2.0△	内外面施釉。	密	良	胎土灰白色 釉灰色	龍泉窯系統D類
492	SD5 埋土中	第217図 PL.68	46	瓦質土器 羽釜	口径19.6※ 器高3.3△	内外面ナデ。	密	良	胎土浅黄褐色	
493	SD6 埋土中	第218図 PL.68	47	青磁 碗	器高2.7△	内外面施釉。	密	良	胎土灰白色 釉オリーブ灰色	龍泉窯系統DかE類
494	SD6 埋土中	第218図 PL.68	60	土師質土器 坏	器高2.6△	内外面ナデ。	密	良	内外面浅黄褐色	
495	SD14 埋土中	第220図 PL.67	884	土師器 坏	口径10.6※ 器高2.2△	内外面風化著しい。ヨコナデか。 内面風化著しい。指押さえ痕あり。	密	良	内外面にふい橙色	
496	SD14 埋土中	第220図 PL.67	789	須恵器 高台付碗	口径15.0※ 器高8.1△	外面口縁部回転ナデ。底部回転ネズリ。 内面口縁部回転ナデ。底部指押さえ痕あり。	密	良	内外面灰色	
497	SD14 埋土中	第220図 PL.67	885	青磁 椀形香炉	口径11.6※ 器高3.8△	外面施釉。 内面口縁部から頸部施釉。体部露胎。	密	良	胎土灰白色 釉明オリーブ灰色	
498	SD14 埋土中	第220図	356	白磁 碗	器高3.1△	内外面施釉。	密	良	胎土灰白色 釉明緑灰色	
499	SD14 埋土中	第220図	527	白磁 碗	器高1.6 底径4.4※	外面施釉。畳付露胎。 内面見込み釉剥ぎ。	密	良	胎土明緑灰色 釉明緑灰色	
500	SD14 埋土中	第220図 PL.67	368	白磁 碗	器高2.4△ 底径4.4※	内外面施釉。底部外面露胎	密	良	胎土灰白～淡黄褐色 釉明青灰色	
501	SD14 埋土中	第220図	722	青磁 碗	口径11.8※ 器高3.1△	外面体部線描き鎗連弁。内外面施釉。	密	良	胎土灰白色 釉オリーブ灰色	龍泉窯系統B4類
502	SD14 埋土中	第220図 PL.67	527	青磁 碗	口径15.2※ 器高3.0△	内外面施釉。	密	良	胎土灰白色 釉緑灰色	龍泉窯系統E類
503	SD14 埋土中	第220図 PL.67	368	青磁 碗	器高2.0△	内外面施釉。	密	良	胎土灰白色 釉明緑灰色	
504	SD14 埋土中	第220図 PL.67	368	瀬戸・美濃焼 碗	器高1.9△ 底径5.6※	内外面施釉。	密	良	胎土浅黄褐色 釉浅黄色	
505	SD14 埋土中	第220図 PL.67	368	瀬戸・美濃焼 天目茶碗	器高1.6△ 底径4.0	外面底部露胎。 内面施釉。	密	良	胎土浅黄褐色 釉黒褐～明赤褐色	大窯Ⅲ・Ⅳ
506	SD14 埋土中	第220図 PL.67	722	瓦質土器 羽釜	口径21.2※ 器高3.7△	内外面ナデ。	密	良	内外面黒褐色	外面スス付着
507	SD14 埋土中	第220図 PL.67	368	東播系須恵器 鉢	口径23.4※ 器高2.7△	内外面ナデ。	密	良	内外面灰オリーブ色	
508	SD14 埋土中	第220図 PL.67	369	備前焼 搦鉢	口径21.8※ 器高4.9△	外面ナデ。 内面口縁部ナデ。体部粗い卸目。	密	良	内外面暗赤褐色	重根IVB
509	SD14 埋土中	第220図 PL.67	884	備前焼 搦鉢	口径29.8※ 器高5.0△	外面回転ナデ。体部に指押さえ痕。 内面回転ナデ。5条一単位の卸目。	密(0.2～3mm の砂粒含む)	良	内外面灰色	重根IVA
510	SD14 埋土中	第220図 PL.67	368	備前焼 搦鉢	器高3.1△ 底径11.4※	外面ナデ。底部ケズリ後ナデ。 内面8条1単位の卸目	密	良	内外面赤褐色	
511	SD14 埋土中	第220図 PL.67	368	柴付け 碗	器高3.9△ 底径4.7※	外面呉須線。畳付露胎。内外面施釉。	密	良	胎土灰色	
512	SD14 埋土中	第220図 PL.67	318	陶器 碗	器高1.5△ 底径6.4※	外面高台部から底部露胎。 内面施釉。	密	良	胎土にふい黄褐色 釉にふい黄褐色	外面見込み墨書 「皿」
513	SD14 埋土中	第220図	368	陶器 底部	器高2.0 底径9.5※	外面露胎。 内面施釉。	密	良	胎土明黄褐色 釉灰オリーブ色	
514	SD14 埋土中	第220図 PL.67	368	陶器 碗	器高2.9△ 底径7.5※	外面ケズリ後丁寧なナデ。 内面轆轤ナデ後施釉。	密	良	胎土赤褐色 釉暗褐色	内面見込み胎土目
515	SD14 埋土中	第220図	369	須佐焼 搦鉢	器高3.5△ 底径12.4※	外面体部ヨコナデ。底部剥離のため調整不明。 内面細かい卸目。	密	良	内外面にふい赤褐色	
516	SD14 埋土中	第220図	368	陶器 搦鉢?	器高5.7△	内外面ナデ。	密	良	胎土灰黄褐色 釉暗褐色	
517	SD14 埋土中	第220図	269	須佐焼 搦鉢	器高6.4△	外面ナデ。 内面細かい卸目。	密	良	内外面暗赤褐色	
518	SD14 埋土中	第220図 PL.67	368	須佐焼 搦鉢	口径28.0※ 器高8.5△	外面ナデ。 内面細かい卸目。	密	良	胎土黄褐色 釉赤褐色	
519	SD14 埋土中	第220図 PL.67	356	須佐焼 搦鉢	口径30.0※ 器高6.0△	外面ナデ。 内面口縁部ナデ。体部細かい卸目。	密	良	内外面明赤褐色	
520	SD14 埋土中	第220図 PL.67	369	軒丸瓦	器高10.3△	外縁平縁。外区珠文。内区巴文。	密	良	灰～オリーブ黒色	
521	SD14 埋土中	第220図 PL.67	318	土製品 土錘	最大長4.75 最大幅1.05 重さ4.5g	手捏ね整形後ナデ。	密	良	にふい黄褐色	

表67 土器観察表(16)

遺物番号	遺構地区層位名	挿図PL	取り上げ番号	種類器種	法量(cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
522	SD14埋土中	第220図PL.67	527	土製品土鉢	最大長4.2 最大幅1.15 重さ4.0g	手握ね整形後ナデ。	密	良	橙色	
523	SD14埋土中	第220図PL.67	318	土製品土鉢	最大長4.8 最大幅1.1 重さ4.5g	手握ね整形後ナデ。	密	良	にぶい橙色	
524	SD14埋土中	第220図PL.67	527	土師器土鉢	最大長4.8 最大幅1.1 重さ5.5g	手握ね整形後ナデ。	密	良	にぶい赤褐色	
525	SD14埋土中	第220図PL.67	527	土製品土鉢	最大長4.2 最大幅1.0 重さ4.0g	手握ね整形後ナデ。	密	良	橙色	
526	SD14埋土中	第220図PL.67	527	土製品土鉢	最大長4.4 最大幅1.25 重さ6.0g	手握ね整形後ナデ。	密	良	橙色	
527	SD16埋土中	第224図PL.68	617	土師質土器環	器高1.2△ 底径5.6	外面体部ヨコナデ。底部回転糸切り後板目。 内面ナデ。	密	良	内外面黄褐色	
528	SD16埋土中	第224図PL.68	617	瓦質土器羽釜	口径20.0※ 器高4.1△	外面ヨコナデ。体部指押さえ痕あり。 内面ナデ。	密	良	内外面明青灰色	内外面スス付着
529	SD16埋土中	第224図PL.68	617	瓦質土器羽釜	器高4.7△	外面口縁部回転ナデ。体部ケズリ後ナデ。 内面口縁部回転ナデ。体部ナデ。	密	良	外面灰色 内面灰白色	
530	SD16埋土中	第224図PL.68	617	瓦質土器鍋	器高3.3△	内外面ナデ。	密	良	内外面灰色	
531	SD16埋土中	第224図PL.68	617	褐釉陶器四耳壺	器高3.1△ 底径9.8※	外面体部施釉。底部露胎。 内面施釉。	密	良	胎土灰色 釉オリーブ灰色	中国産か
532	SD16埋土中	第224図PL.68	523	白磁碗	器高1.8△ 底径4.0※	外面体部施釉。高台部～底部露胎。 内面見込み蛇目釉剥ぎ	密	良	胎土灰白～灰黄色	白磁碗Ⅶ類
533	SD16埋土中	第224図PL.68	523	白磁皿	器高2.1△ 底径4.0※	外面体部施釉。高台部～底部露胎。 内面見込み蛇目釉剥ぎ	密	良	胎土灰白色	白磁碗Ⅶ類
534	SD22埋土中	第225図PL.67	805	土師質土器小皿	口径9.0※ 器高1.6 底径7.0※	外面体部回転ナデ。底部回転糸切り。 内面回転ナデ。	密	良	外面にぶい黄橙～褐灰色 内面にぶい黄褐色	
535	SD22埋土中	第225図PL.67	805	陶器小型壺	口径15.6※ 器高5.4△	全面鉄釉。	密	良	胎土灰黄色 釉暗褐～黒褐色	
536	SD22埋土中	第225図PL.67	805	陶器碗	口径16.4※ 器高5.1△	内外面施釉。	密	良	胎土にぶい黄褐色 釉オリーブ黄色	
537	SD25埋土上層中	第226図	828	須佐焼鉢	器高4.3△	外面ナデ。 内面口縁部ナデ。以下ケズリ後ナデ。	密	良	内外面明赤褐色	
538	SD26埋土中	第227図	1257	青磁碗	器高3.6△ 底径5.2※	内外面施釉。	密	良	胎土灰白色 釉オリーブ色	龍泉窯系碗D類
539	1区整地層	第229図PL.71	1097	青磁碗	器高3.3△	内外面ともに施釉	密	良		龍泉窯系碗B2類
540	1区整地層	第229図	1097	白磁皿	器高1.2△ 底径3.4	外面体部施釉。底部露胎。 内面施釉。	密	良	胎土淡黄色 釉灰白色	白磁皿D群
541	3区近世以降包含層P4 灰褐色土	第230図	492	弥生土器甕	器高3.0△	外面口縁部8条平行沈線。 内面ヨコナデ。	密(0.5～2mmの砂粒含む)	良	内外面にぶい橙色	
542	3区近世以降包含層P4 灰褐色土	第230図	493	須恵器環身	口径10.2※ 器高2.6△	外面口縁部から体部回転ナデ。 内面回転ナデ	密(1mm前後の砂粒含む)	良	内外面ともに灰色	
543	3区近世以降包含層P4 灰褐色土	第230図	492	須恵器甕	器高2.6△	内外面ヨコナデ。	密	良	外面暗灰色 内面灰色	
544	3区近世以降包含層P5 灰褐色土	第230図	457	須恵器環蓋	器高1.1△	外面回転ナデ後刺突文。 内面回転ナデ後、不定方向ナデ	密	良	内外面灰色	
545	3区近世以降包含層P4 灰褐色土	第230図PL.70	493	須恵器環蓋	器高2.1△	外面天井部回転ナデの後ナデ。つまみ部回転ナデ。 内面回転ナデ後不定方向ナデ。	密	良	内外面灰色	
546	3区近世以降包含層Q4 灰褐色土	第230図	496	須恵器壺	器高4.7△	内外面ナデ。	密	良	外面青灰色 内面黄灰色	
547	3区近世以降包含層P4 灰褐色土	第230図	502	須恵器ハソウ	器高2.1△	外面沈線を挟んで上半刺突文。下半波状文。 内面ヨコナデ。	密	良	外面褐灰色 内面灰色	
548	3区近世以降包含層P4 灰褐色土	第230図	491	陶器甕底部	器高6.5△	外面ケズリ後ナデ。 内面ナデ。	密	良	内外面ともに灰白色	
549	3区近世以降包含層P5 灰褐色土	第230図PL.71	494	土師質土器環	口径11.9※ 器高3.4△	外面体部回転ナデ。底部静止糸切り後板目。 内面回転ナデ。	密	良	内外面ともに浅黄褐色	
550	3区近世以降包含層P5 灰褐色土	第230図	495	土師質土器環	器高2.0△ 底径4.9※	内外面風化のため調整不明。	密	良	内外面浅黄褐色	
551	3区近世以降包含層P3 灰褐色土	第230図	489	土師質土器環	器高1.8△ 底径7.2※	外面体部ヨコナデ。底部板目痕あり。 内面ナデ。内外面風化著しい。	密	良	内外面ともに灰白色	
552	3区近世以降包含層P4 灰褐色土	第230図	498	土師質土器環	器高2.3△ 底径6.8※	外面体部ヨコナデ。底部板目かすかに認められる。 内面ヨコナデ。	密	良	内外面浅黄色	
553	3区近世以降包含層P3 灰褐色土	第230図	489	土師質土器環	器高1.3△ 底径6.0※	外面体部ヨコナデ。底部ナデ。 内面ナデ。	密	良	内外面ともに浅黄色	
554	3区近世以降包含層Q5 灰褐色土	第230図	499	土師質土器鍋	口径25.3※ 器高4.3△	外面摩滅のため調整不明 内面口縁部ナデ、体部ヨコハケ。	密	良	外面にぶい黄褐色 内面浅黄褐色	



表68 土器観察表(17)

遺物番号	遺構地区 層位名	挿図 PL	取り上げ番号	種類 器種	法量 (cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
555	3区近世以降 包含層 Q4 灰褐色土	第230図 PL.70	496	備前焼 播鉢	口径31.0※ 器高5.5△	外面ナデ。 内面卸目。	密	良	内外面暗赤褐色	重根ⅢA
556	3区近世以降 包含層 Q4 灰褐色土	第230図 PL.70	490	備前焼 播鉢	口径27.0※ 器高2.9△	内外面ヨコナデ。	密	良	内外面ともに褐灰色	重根ⅣA
557	3区近世以降 包含層 灰褐色土	第230図	785	須恵質 播鉢	器高4.5△	外面ヨコナデ。 内面口縁部ヨコナデ。細かい卸目。	密	良	内外面灰～淡黄色	
558	3区近世以降 包含層 灰褐色土	第230図 PL.70	569	備前焼 播鉢	器高4.7△	外面ナデ。 内面4条1単位の卸目。	密	良	内外面にぶい黄褐色	重根ⅢB
559	3区近世以降 包含層 灰褐色土	第230図 PL.70	542	備前焼 播鉢	器高6.3△	外面ナデ。 内面6条1単位卸目。	密	良	外面灰赤色 内面にぶい赤褐色	重根ⅣA
560	3区近世以降 包含層 Q4 灰褐色土	第230図 PL.70	490	備前焼 播鉢	器高5.2△	外面ナデ。 内面卸目粗く入る。	密	良	外面褐～褐灰色 内面褐灰色	重根ⅣA
561	3区近世以降 包含層 P3 灰褐色土	第230図 PL.70	501	備前焼 播鉢	口径26.4※ 器高5.7△	外面ヨコナデ。 内面粗い卸目	密	良	にぶい赤褐色	重根ⅣB
562	3区近世以降 包含層 P5 灰褐色土	第230図 PL.70	522	備前焼 播鉢	器高4.8△	内外面ヨコナデ。	密	良	内外面暗赤褐色	重根ⅣA
563	3区近世以降 包含層 P3 灰褐色土	第230図	501	備前焼 播鉢	器高4.0 底径7.9※	外面ヨコナデ。 内面粗い卸目。	密	良	内外面ともに暗赤褐色	
564	3区近世以降 包含層 P5 灰褐色土	第230図 PL.70	522	備前焼 播鉢	口径25.0※ 器高5.4△	外面ヨコナデ。 内面口縁部ハケ目、体部ナデ後卸目粗く入る。	密	良	にぶい赤褐色	重根ⅣB
565	3区近世以降 包含層 P4・Q4 灰褐色土	第230図 PL.70	455	備前焼 甕底部	器高2.4△ 底径16.8※	外面体部ナデ、底部ケズリ後、ナデ。 内面ナデ。指押さえ痕。	密	良	外面赤褐色 内面褐灰色	
566	3区近世以降 包含層 灰褐色土	第230図 PL.70	542	備前焼 甕底部	器高1.7△ 底径15.2※	内外面ナデ。	密	良	内外面赤褐色	
567	3区近世以降 包含層 P4 灰褐色土	第230図 PL.70	502	備前焼 德利	器高3.3△	内外面ナデ。	密	良	内外面灰黄褐色	
568	3区近世以降 包含層 P5 灰褐色土	第230図 PL.70	494	備前焼 壺	口径11.6※ 器高3.2△	内外面ともにヨコナデ	密	良	外面黒褐色 内面灰褐色	重根ⅤB
569	3区近世以降 包含層 Q4 灰褐色土	第230図 PL.70	454	陶器 甕	器高3.2△	内外面ともにナデ	密	良	外面暗赤褐色 内面暗赤褐色～灰色	瓷器系?
570	3区近世以降 包含層 Q4 灰褐色土	第230図 PL.70	490	越前焼 鉢	器高4.7△	内外面ともに回転ナデ	密(2mm以下の砂粒を含む)	良	にぶい赤褐色	
571	3区近世以降 包含層 P4 灰褐色土	第230図 PL.70	493	青磁 碗	口径12.9※ 器高2.0△	内外面施釉。	密	良	胎土灰色 釉灰オリーブ色	龍泉窯青系磁碗D類
572	3区近世以降 包含層 Q4 灰褐色土	第230図 PL.70	454	青磁 碗	器高4.0△	内外面施釉。貫入	密	良	胎土褐灰色 釉灰白色～オリーブ灰色	
573	3区近世以降 包含層 P4 灰褐色土	第230図 PL.70	502	青磁 碗	器高2.6△	内外面施釉。	密	良	胎土灰白色 釉灰白色	龍泉窯系碗DかE類
574	3区近世以降 包含層 Q4 灰褐色土	第230図 PL.70	454	青磁 碗	器高2.1△ 底径5.0※	外面ナデ。 内面高台部内面露胎	密	良	胎土灰色 釉オリーブ灰色	龍泉窯青磁碗I類
575	3区近世以降 包含層 灰褐色土	第230図 PL.69	541	青磁 碗	器高2.0△ 底径5.0※	外面体部～高台施釉。底部露胎。 内面施釉。	密	良	胎土灰白色 釉明緑灰色	
576	3区近世以降 包含層 O4 灰褐色土	第230図 PL.70	496	青磁 碗	口径13.1※ 器高3.7△	外面体部から高台部施釉、底部露胎。 内面体部施釉	密	良	胎土灰白色 釉オリーブ灰色	
577	3区近世以降 包含層 P4 灰褐色土	第230図 PL.67	502	青磁 瑠璃皿	器高2.1△ 底径8.2※	外面施釉。 内面底部丸彫りの蓮華文。	密	良	胎土灰白色 釉オリーブ灰色	龍泉窯系碗B3類
578	3区近世以降 包含層 O5 灰褐色土	第230図 PL.70	499	青磁 碗	器高5.6△	内外面施釉	密	良	胎土灰白色 釉オリーブ灰色	龍泉窯系碗DかE類
579	3区近世以降 包含層 Q4 灰褐色土	第230図 PL.70	454	青磁 香炉	口径7.3※ 器高2.3△	内外面施釉。	密	良	胎土灰白色 釉灰白色	
580	3区近世以降 包含層 P4・Q4 灰褐色土	第230図 PL.70	455	青磁 碗	器高2.1△	内外面施釉。	密	良	胎土灰色 釉オリーブ灰色	龍泉窯系碗E類
581	3区近世以降 包含層 灰褐色土	第230図 PL.70	541	白磁 小坏	口径7.4※ 器高3.4△	内外面施釉。	密	良	胎土灰白色 釉透明	白磁小坏E群

表69 土器観察表(18)

遺物番号	遺構地区層位名	挿図PL	取り上げ番号	種類器種	法量(cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
582	3区近世以降 包含層 P4 灰褐色土	第230図 PL.70	493	白磁 碗	器高2.1△ 底径4.0※	外面体部と高台部施釉、底部露胎。 内面見込み部趾目釉剥ぎ。	密	良	釉灰白色 胎橙色	白磁碗V類
583	3区近世以降 包含層 R4 灰褐色土	第230図 PL.69	451	中国陶磁 瓶	口径8.6※ 器高1.6△	内外面鉄釉。	密	良	胎土灰色 釉暗褐～黒色	
584	3区近世以降 包含層 O4 灰褐色土	第230図 PL.70	496	瀬戸・美濃焼 碗	口径7.9※ 器高3.3△	外面露胎。 内面施釉。	密	良	胎土浅黄色 釉灰白色	
585	3区近世以降 包含層 P5 灰褐色土	第230図 PL.69	494	瀬戸・美濃焼 碗	器高2.8△ 底径4.2※	外面高台部と底部は露胎。 内面施釉。	密	良	胎土にぶい橙色 釉灰黄色	
586	3区近世以降 包含層 P4・Q4 灰褐色土	第230図 PL.22	455	瀬戸・美濃焼 碗	器高2.2△ 底径4.0※	外面高台部一部施釉、底部露胎。 内面施釉	密	良	胎土にぶい黄橙色 釉灰黄色	
587	3区近世以降 包含層 P5 灰褐色土	第231図 PL.69	494	染付け 皿	口径13.4※ 器高2.7△	内外面ともに施釉	密	良	胎土灰白色	
588	3区近世以降 包含層 Q4 灰褐色土	第231図	621	白磁 皿	器高2.9△	内外面施釉。	密	良	胎土灰白色	白磁皿E群?
589	3区近世以降 包含層 Q4 灰褐色土	第231図	454	陶器 碗	口径11.9※ 器高2.7△	内外面施釉。	密	良	胎土浅黄橙色 釉灰白色	
590	3区近世以降 包含層 Q4 灰褐色土	第231図 PL.69	500	陶器 碗	口径11.5※ 器高2.1△	外面不定方向ナデ	密	良	胎土浅黄色 釉灰黄色～灰白色	
591	3区近世以降 包含層 Q4 灰褐色土	第231図 PL.70	496	陶器 碗	器高2.7△	内外面施釉。	密	良	胎土灰白色 釉オリーブ灰色	
592	3区近世以降 包含層 P4 灰褐色土	第231図 PL.70	498	陶器 皿	器高2.0△	外面口縁部～内面施釉。外面体部露胎。	密	良	胎土灰色 釉オリーブ黄色	
593	3区近世以降 包含層 O5 灰褐色土	第231図 PL.69	499	施釉陶器 皿	口径9.9※ 器高1.3△	内外面施釉	密	良	胎土橙色 釉灰オリーブ色	
594	3区近世以降 包含層 Q4 灰褐色土	第231図 PL.69	491	陶器 碗	器高2.5△ 底径5.6※	外面高台部露胎、底部回転糸切り	密	良	胎土褐灰色 釉オリーブ灰色	
595	3区近世以降 包含層 R4 灰褐色土	第231図 PL.69	451	陶器 碗	器高2.7△ 底径4.7※	外面高台部は露胎。 内面見込み部に目跡。	密	良	外面灰黄色～明黄褐色 内面緑灰色	
596	3区近世以降 包含層 O5 灰褐色土	第231図 PL.69	499	陶器 碗	器高1.8△ 底径8.8※	外面高台部露胎、底部回転ナデ。 内面ナデ	密	良	胎土灰色 釉オリーブ黄色	
597	3区近世以降 包含層 P4 灰褐色土	第231図 PL.69	502	陶器 碗	器高2.3△ 底径4.8※	外面体部下半一部施釉。高台部と底部は露胎。 内面露胎。	密	良	胎土褐色 釉暗緑灰色	
598	3区近世以降 包含層 Q4 灰褐色土	第231図	453	陶器 碗?	器高2.2△ 底径7.4※	外面ナデ。 内面施釉。	密	良	胎土にぶい橙色 釉にぶい赤褐色	
599	3区近世以降 包含層 Q4 灰褐色土	第231図 PL.69	454	須佐焼 播鉢	口径24.6※ 器高4.9△	外面ヨコナデ。 内面多条化した卸目。	密	良	内外面褐色	
600	3区近世以降 包含層 P5 灰褐色土	第231図 PL.69	495	須佐焼 播鉢	口径27.6※ 器高3.8△	外面ナデ。 内面卸目。	密(1mm以下の 砂粒含む)	良	内外面褐色	
601	3区近世以降 包含層 P3 灰褐色土	第231図 PL.69	501	須佐焼 播鉢	器高7.3△	外面ヨコナデ。 内面細かい卸目	密	良	内外面ともににぶい赤 褐色	
602	3区近世以降 包含層 P4 灰褐色土	第231図 PL.70	493	備前焼 播鉢	器高4.9△	外面ナデ。 内面粗い卸目。	密	良	外面褐灰色 内面灰黄褐色	
603	3区近世以降 包含層 P4 灰褐色土	第231図 PL.69	493	須佐焼 播鉢	器高6.6△	外面ナデ。 内面細かい卸目。	密	良	内外面にぶい赤褐色	
604	3区近世以降 包含層 P3 灰褐色土	第231図	501	須佐焼 播鉢	器高4.0△	外面ナデ。 内面細かい卸目。	密	良	内外面灰褐色	
605	3区近世以降 包含層 P4 灰褐色土	第231図 PL.69	493	陶器 鉢	口径18.0※ 器高7.3△	外面口縁部、底部ヨコナデ。体部上半刺突文。 内面ヨコナデ。	密	良	黄灰色 釉黄褐～褐色	
606	3区近世以降 包含層 Q4 灰褐色土	第231図	496	陶器 甕?	口径16.6※ 器高2.0△	外面口縁部ナデ。体部工具による施文。 内面体部自然釉かかる。	密	良	内外面橙色 釉灰褐色	

表70 土器観察表(19)

遺物番号	遺構地区 層位名	挿図 PL	取り上げ番号	種類 器種	法量 (cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
607	3区近世以降 包含層 P4、Q4 灰褐色土	第231図	455	須恵器 円盤	最大長4.3 最大厚1.0	紡錘車未成品か。側面ミガキ。	密	良	胎土灰白色	
608	3区近世以降 包含層 Q4 灰褐色土	第231図	497	土製品 土玉	最大長2.8 最大幅2.8 最大厚2.6	手握ね整形後ナデ。	密	良	淡橙色～橙色	
609	3区近世以降 包含層 P4 灰褐色土	第231図	502	土製品 土鍾	最大長3.6 最大幅1.0 重さ2.5g	手握ね整形後ナデ。	密	良	橙色	
610	4区近世以降 包含層 L5 灰褐色土	第232図 PL.55	559	須恵器 坏蓋	口径14.0※ 器高1.3△	内外面回転ナデ。	密	良	内外面暗灰色	
611	4区近世以降 包含層 M6 灰褐色土	第232図 PL.55	574	須恵器 高坏脚部	器高1.8△ 底径9.6※	外面脚部端1条凹線。脚部回転ナデ。 内面回転ナデ。	密	良	内外面灰色	
612	4区近世以降 包含層 J6・7 灰褐色土	第232図 PL.71	508	土師質土器 鍋	口径32.0※ 器高2.5△	内外面ナデ。	密	良	外面にふい橙色 内面にふい黄橙色	
613	4区近世以降 包含層 I9 灰褐色土	第232図 PL.71	88	瓦質土器 鍋	口径22.0※ 器高2.8△	内外面ヨコナデ。	密	良	内外面黄灰色	外面スス付着
614	4区近世以降 包含層 K8 灰褐色土	第232図 PL.71	98	瓦質土器 插鉢	口径22.9※ 器高2.3△	外面風化のため調整不明。 内面斜方向細かい卸目。	密	良	内外面灰白色	
615	4区近世以降 包含層 J9 灰褐色土	第232図 PL.71	87	瓦質土器 羽釜	器高3.6△	内外面ナデ。内面指押しえ痕。	密	良	外面黒褐色 内面黒色	
616	4区近世以降 包含層 I9 灰褐色土	第232図 PL.71	88	土師質土器 羽釜	器高4.2△	外面ナデ。 内面ヨコハケ後ナデ。	密	良	内外面褐色	外面スス付着
617	4区近世以降 包含層 K8 灰褐色土	第232図 PL.71	98	青磁 碗	口径12.0※ 器高2.6△	外面口縁部崩れた雷文。	密	良	胎土灰白色 釉灰白色	龍泉窯系碗C2類
618	4区近世以降 包含層 I10 灰褐色土	第232図 PL.71	90	青磁 碗	口径12.0※ 器高2.6△	内外面施釉。外面ヘラ描筋連弁。	密	良	胎土灰白色 釉オリーブ色	龍泉窯系碗B4類
619	4区近世以降 包含層 J8 灰褐色土	第232図 PL.71	321	青磁 碗	器高3.3△	内外面施釉	密	良	胎土灰色 釉オリーブ灰色	龍泉窯系碗I類
620	4区近世以降 包含層J7・ K8 灰褐色 土	第232図 PL.71	448	白磁 碗	口径11.0※ 器高3.1△	内外面施釉。	密	良	胎土灰白色 釉白色	
621	4区近世以降 包含層 K8 灰褐色土	第232図 PL.71	98	白磁 小皿	口径9.0※ 器高1.6 底径6.0※	体部内外面施釉。外面底部露胎。	密	良	胎土浅黄色 釉灰白色	
622	4区近世以降 包含層 J7・K8 灰褐色土	第232図 PL.71	448	白磁 皿	器高1.5△ 底径5.0※	外面体部施釉。底部露胎。回転糸切り。 内面施釉。	密	良	胎土灰白色 釉淡黄色	白磁皿DかE群
623	4区近世以降 包含層 I9 灰褐色土	第232図 PL.71	89	白磁 碗底部	器高1.2△ 底径4.2	外面露胎。	密	良	灰白色	白磁D類
624	4区近世以降 包含層 K8 灰褐色土	第232図 PL.71	98	白磁 小坏	口径7.2※ 器高2.8△	内外面施釉。	密	良	胎土灰白色 釉白色	白磁E類
625	4区近世以降 包含層 J8 灰褐色土	第232図 PL.71	97	朝鮮陶器 碗	器高4.0△ 底径4.6※	内外面施釉。外面体部上半ハケ目。畳付に砂目。	密	良	胎土灰色 釉灰色	
626	4区近世以降 包含層 灰褐色土	第232図 PL.59	552	朝鮮陶器 碗	器高1.7△ 底径3.8	外面施釉。 内面見込付近砂目跡あり。	密	良	胎土灰色 釉オリーブ灰色	
627	4区近世以降 包含層 J8 暗灰褐色土	第232図 PL.71	321	朝鮮陶器 碗	器高3.4△	外面施文後施釉。 内面露胎。	密	良	胎土灰色 釉灰白色	
628	4区近世以降 包含層 I9 灰褐色土	第232図 PL.71	88	瀬戸・美濃焼 天目茶碗	口径12.0※ 器高4.7△	内外面厚い鉄釉。	密	良	灰白色	古瀬戸後期Ⅲ期
629	4区近世以降 包含層 K8 灰褐色土	第232図 PL.71	98	瀬戸・美濃焼 香炉	口径6.8※ 器高1.8 底径3.4※	外面体部施釉。底部回転糸切り。露胎。 内面施釉。	密	良	胎土灰白色 釉オリーブ色	古瀬戸後期Ⅲ期
630	4区近世以降 包含層 J7・K8 灰褐色土	第232図 PL.71	448	瀬戸・美濃焼 香炉	口径7.0※ 器高2.5 底径3.6※	外面体部薄く施釉。底部露胎。回転糸切り。 内面口縁部施釉。底部露胎。	密	良	胎土灰白色 釉明オリーブ色	古瀬戸後期Ⅳ期新
631	4区近世以降 包含層 I9 灰褐色土	第232図 PL.71	88	瀬戸・美濃焼 卸皿	口径8.4※ 器高1.5△	外面口縁部施釉。体部露胎。 内面口縁部施釉。体部露胎。卸目。	密	良	胎土灰白色 釉暗オリーブ色	古瀬戸後期Ⅲ期
632	4区近世以降 包含層 K7 灰褐色土	第232図 PL.71	572	備前焼 插鉢	器高4.3△	内外面ナデ。内面粗い卸目。	密	良	内外面灰色	重根ⅣA

表71 土器観察表(20)

遺物番号	遺構地区層位名	挿図PL	取り上げ番号	種類器種	法量(cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
633	4区近世以降包含層I・10 灰褐色土	第232図 PL.71	90	備前焼 描鉢	器高3.5△ 底径10.0※	外面ナデ。 内面7条1単位の卸目。	密	良	外面灰黄褐色 内面暗褐色	
634	4区近世以降包含層J9 灰褐色土	第232図 PL.71	91 96	瀬戸・美濃焼 平碗	口径10.2※ 器高5.3△	外面体部施釉。底部露胎。 内面施釉。	密	良	胎土黄灰色 釉灰オリブ色	古瀬戸後期Ⅲ期
635	4区近世以降包含層K7 灰褐色土	第232図 PL.71	518	陶器 碗	口径15.6※ 器高3.1△	内外面ナデ。内外面施釉。	密	良	胎土黄灰色 釉オリブ灰色	
636	4区近世以降包含層J7・K8 灰褐色土	第232図 PL.71	448	磁器 底部	器高1.2△ 底径3.6※	外面体部施釉。底部露胎。 内面施釉	密	良	胎土灰白色 釉明緑色～灰色	
637	4区近世以降包含層J8 灰褐色土	第232図 PL.71	95	陶器 描鉢	器高4.2△	外面ナデ。 内面5条1単位の卸目。	密	良	内外面橙色	
638	4区近世以降包含層 灰褐色土	第232図 PL.71	539	染付け 碗	口径9.9※ 器高2.3△	内外面施釉。外面染付け文様。	密	良	胎土灰白色 釉白色	
639	4区近世以降包含層I7・J7 灰褐色土	第232図	507	土製品 土錘	最大長4.1 最大幅1.55 重さ8.0g	手捏ね整形後ナデ。	密	良	赤褐色	
640	4区近世以降包含層J8 灰褐色土	第232図	95	土製品 土錘	最大長3.1△ 最大幅0.9 重さ2.5g△	手捏ね整形後ナデ。	密	良	にぶい黄褐色	
641	4区造成土 K8	第233図	17	土師質土器 環	口径12.0※ 器高2.7△ 底径9.8※	内外面ナデ。	密	良	内外面浅黄褐色	
642	4区造成土 K6、L6	第233図	554	須恵器 高台環	器高1.7△ 底径9.2※	外面回転ナデ。 内面不定方向ナデ。	密(1～3mm砂粒含む)	良	内外面灰色	
643	4区造成土 K7	第233図	518	土師質土器 皿	口径9.8※ 器高1.2 底径8.0※	外面回転ナデ。底部回転糸切り後板目。 内面回転ナデ。	密	良	内外面浅黄褐色	
644	4区造成土 K6	第233図	485	白磁 小型碗	口径7.6※ 器高3.2△	外面底部花弁状のケズリ。	密	良	胎土灰白色 釉透明	
645	4区造成土 L5、M5	第233図	587	青磁 碗	口径13.6※ 器高2.4△	内外面施釉。外面鎊連弁。	密	良	胎土灰白色 釉灰オリブ色	龍泉窯系碗B2類
646	4区造成土 B12	第233図	10	瀬戸・美濃焼 天目茶碗	器高3.1△	内外面施釉。	密	良	胎土灰白色 釉オリブ褐～黒褐色	大窯前半
647	4区造成土	第233図	29	青白磁 碗	器高2.6△	内外面施釉。	密	良	胎土灰白色 釉明緑灰色	
648	4区造成土 A12	第233図	9	備前焼 壺	器高4.7△	外面ヨコナデ後波状文。 内面回転ナデ。	密	良	内外面灰色	
649	4区造成土 D10	第233図	19	陶器 碗	器高1.6△ 底径4.6※	外面露胎。一部釉かかる。 内面施釉。見込み重ね焼痕。	密(1～2mm砂粒含む)	良	胎土暗灰黄～暗褐色 釉灰オリブ色	
650	4区造成土 K5、L5	第233図	555	須佐焼 描鉢	器高2.6△ 底径11.8※	外面ナデ。 内面細かい卸目。	密	良	内外面にぶい赤褐色	
651	4区造成土 H4	第233図	465	陶器 描鉢	器高2.5△	外面ナデ。 内面卸目。	密	良	灰白色	
652	4区造成土 K6、L6	第233図	554	須佐焼 描鉢	器高2.3△	内外面ナデ。	密	良	外面暗赤褐色 内面にぶい赤褐色	
653	4区造成土	第233図	399	肥前陶磁 碗	口径9.0※ 器高2.7△	内外面施釉。	密	良	胎土灰色 釉オリブ灰色	
654	4区造成土 J7・K7	第233図	443	土製品	最大長3.3 最大幅4.4 最大厚3.9 重さ42.5g	手捏ね整形。底部小穴2個。	密	良	胎土暗灰黄色	
655	4区造成土 L6	第233図	562	陶製 数珠球	最大長1.2 最大幅1.15		密	良	灰白色	
656	3区一括 V6	第249図	141	須恵器 環蓋	口径16.0※ 器高2.3△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密	良	外面灰色 内面灰白色～黄灰色	外面自然釉付着、 輪状つまみ
657	3区一括 P5	第249図	380	須恵器 環蓋	口径11.6※ 器高1.3△	内外面とも回転ナデ。	密	良	内外面ともに灰色	
658	3区一括	第249図	150	土師器 焼塩土器	口径9.5※ 器高4.4△	内外面とも指オサエの後、ナデ	密	良	内外面ともに黄褐色	
659	3区一括	第249図	150	土師器 焼塩土器	器高2.3△	内外面とも指オサエの後、ナデ	やや密	良	内外面橙色	
660	3区一括	第249図	1048	土師質土器 小皿	口径9.4※ 器高1.8 底径6.0※	外面体部ココナデ。底部回転糸切り後板目。 内面体部ココナデ。底部不定方向ナデ。	密	良	内外面灰白色	
661	3区一括 R2	第249図	73	土師質土器 小皿	口径8.2※ 器高1.1△	外面回転ナデ、底部回転糸切りの後板目 内面回転ナデ	密	良	内外面ぶい黄褐色	
662	3区一括 R2・R3	第249図	247	土師質土器 小皿	口径8.2※ 器高1.9△	外面ココナデ、底部回転糸切り。 内面ココナデ	密	良	内外面ともに浅黄褐色	
663	3区一括 Q4	第249図	657	土師質土器 小皿	口径7.6※ 器高1.5△	外面回転ナデ。底部回転糸切り。 内面回転ナデ	密	良	内外面とも浅黄褐色～ 灰白色	

表72 土器観察表(21)

遺物番号	遺構地区 位名	挿図 PL	取り上げ番号	種類 器種	法量 (cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
664	3区一括 R2	第249図	73	土師質土器 小皿	口径6.1※ 器高1.1△	内外面風化著しい。外面体部回転ナデか。底部回転系切り。 内面回転ナデか。	密	良	内外面とも灰白色	
665	3区一括 P5・S2	第249図 PL53	103	土師質土器 小皿	口径7.8※ 器高1.2△	外面体部回転ナデ、底部系切りか。 内面体部回転ナデ	密	良	内外面とも淡橙色	
666	3区一括 S2	第249図	136	土師質土器 小皿	口径7.8※ 器高1.4△	外面回転ナデ、底部回転系切り後板目。 内面回転ナデ。	密	良	外面黄褐色 内面浅黄色	
667	3区一括 S2	第249図	132	土師質土器 小皿	口径8.1※ 器高1.6△	外面体部回転ナデ。底部調整不明。 内面調整不明。	密	良	浅黄褐色～灰白色	
668	3区一括	第249図	1032	土師質土器 坏	底径8.6※ 器高2.4△	外面ヨコナデ、底部回転系切り。底部一部剥離。 内面ヨコナデ	密	良	内外面ともに灰黄褐色	
669	3区一括 表土中	第249図	1	土師質土器 坏	口径12.4※ 器高3.5 底径6.0※	外面体部ヨコナデ。底部系切り後ナデか。 内面体部ヨコナデ。底部不定方向ナデ。	密	良	内外面浅黄褐色	
670	3区一括 表土中	第249図	1	土師質土器 坏	器高3.3△ 底径5.6※	外面体部ナデ。底部回転系切り後板目。 内面ナデ。	密	良	外面浅黄褐色 内面にふい橙色	
671	3区一括	第249図	673	土師質土器 坏	器高1.4△ 底径5.2※	外面体部ヨコナデ。底部回転系切り後板目。 内面ヨコナデ。	密(1mm程度の 砂粒含む)	良		
672	3区一括	第249図	570	土師質土器 坏	口径7.0※ 器高1.6△	外面回転ナデ、底部回転系切り 内面ナデ	密	良	内外面とも浅黄褐色	
673	3区一括 P5	第249図	380	瓦質土器 羽釜	口径18.8※ 器高3.5△	外面ナデ。 内面ヨコナデ。	密	良	外面黒色 内面灰～黒色	
674	3区一括 S3	第249図	126	勝間田焼 甕	器高5.4△	外面平行タタキ 内面ナデ	密	良	内外面灰色	
675	3区一括 Q2・3	第249図 PL70	74	白磁 皿	口径5.5※ 器高2.5△	内外面施釉。口禿げ。	密	良	胎土灰白色 釉灰白色	白磁皿Ⅱ類
676	3区一括 P5	第249図	494	白磁 皿	器高1.6△	内外面施釉。口禿げ。	密	良	胎土灰白色 釉白色	
677	3区一括 V2	第249図 PL70	58	青磁 碗	底径4.0※ 器高3.1△	内外面施釉。豊付露胎	密	良	胎土灰白色 釉灰オリーブ色	龍泉窯系碗D類
678	3区一括 表土中	第249図 PL70	1	青磁 碗	口径14.0※ 器高2.8△	内外面施釉。外面線描き大雑把な蓮弁文。	密	良	胎土灰白色 釉オリーブ灰色	龍泉窯系碗B2類
679	3区一括 耕作土中	第249図	146	青磁 碗	口径14.8※ 器高4.7△	内外面施釉。外面簡蓮弁。	密	良	胎土浅黄色 釉オリーブ黄色	龍泉窯系碗B1類
680	3区一括	第249図 PL68	48	青磁 碗	口径14.4※ 器高3.7△	内外面施釉。	密	良	胎土灰白色 釉オリーブ灰色	
681	3区一括	第249図 PL68	48	青磁? 碗	口径13.4※ 器高4.1△	内外面施釉。	密	良	胎土白色 釉オリーブ灰色	
682	3区一括 Q8	第249図 PL70	793	備前焼 插鉢	口径22.0※ 器高3.6△	内外面ヨコナデ。	密	良	外面灰黄褐色 内面黄灰色～褐色	
683	3区一括	第249図	570	備前焼 插鉢	口径23.4※ 器高4.0△	外面ヨコナデ。 内面粗い剥目。	密	良	内外面暗赤褐色	重根ⅣB
684	3区一括 V2	第249図	59	須佐焼 鉢	口径26.2※ 器高4.4△	内外面ともにヨコナデ	密	良	内外面ともに暗赤褐色	
685	3区一括 Q4	第249図 PL69	453	須佐焼 插鉢	器高3.8△	外面ヨコナデ 内面剥目	密	良	内外面ともに褐色	
686	3区一括 Q4	第249図 PL69	385	陶器 皿	口径15.5※ 器高2.5△	内外面施釉。	密	良	釉灰オリーブ色	
687	3区一括 P4	第249図 PL69	498	陶器 碗	器高2.2△	内面見込み目跡	密	良	外面にふい橙色 内面浅黄色	
688	3区一括 P4	第249図 PL69	492	陶器 碗	器高1.6△	外面豊付露胎、底部系切り	密	良	胎土灰黄褐色 釉灰オリーブ色	
689	3区一括 V3	第249図	68	陶器	器高1.0△	内面筋彫り花文。	密	良	内外面ともに暗赤褐色	
690	3区一括 V2	第249図	59	陶器 插鉢	底径11.2※ 器高2.6△	外面ナデ。 内面剥目。	密	良	外面赤褐色 内面明黄褐色	
691	4区一括	第250図	711	弥生土器 甕	口径16.6※ 器高4.3△	外面口縁部多条化した平行沈線。 内面風化のため調整不明。ナデか。	密	良	内外面とも浅黄褐色	V-3
692	4区一括	第250図	711	弥生土器 甕	器高3.9△	外面ナデ。肩部刺突文。 内面口縁部ナデ、肩部ケズリ後ナデ	密	良	内外面ともに浅黄褐色	V-3
693	4区一括	第250図	582	土師器 坏	口径13.4※ 器高2.4△	外面ヨコナデ、底部オサエの後、ナデ。 内面ヨコナデ	密	良	外面橙～灰黄褐色 内面にふい赤褐色～灰 黄褐色	外面一部スス付着
694	4区一括	第250図	171	須恵器 坏蓋	つまみ径6.2 ※ 器高1.0△	内外面回転ナデ。	密	良	内外面灰色	輪状つまみ
695	4区一括	第250図	170	土師質土器 坏	底径6.0※ 器高1.6△	外面体部ヨコナデ。底部回転系切り。 内面ヨコナデ。	密	良	内外面暗灰黄色	
696	4区一括	第250図	348	土師質土器 坏	底径6.1※ 器高1.2△	外面底部回転系切り。 内面回転ナデ	密	良	内外面黄褐色	
697	4区一括	第250図	515	土師質土器 鍋	口径24.4※ 器高3.5△	内外面ナデ。	密	良	内外面ともに黄灰色	外面にスス付着
698	4区一括	第250図	169	土師質土器 鍋	器高2.7△	内外面ナデ。	密	良	内外面にふい黄橙	
699	4区一括	第250図	173	土師質土器 插鉢	口径20.0※ 器高2.2△	外面ヨコナデ。 内面口縁部ヨコナデ。体部ヨコハケ後粗い剥目。	密	良	内外面暗青灰色	
700	4区一括	第250図	173	青磁 碗	器高6.2△	内外面施釉。内面見込みに印花文。	密	良	胎土灰白色 釉明青灰色	龍泉窯系碗D類
701	4区一括	第250図	169	青磁 碗	器高2.4△	内外面ともに施釉。貫入あり。	密	良	胎土灰白色 釉オリーブ灰色	龍泉窯系碗D類
702	4区一括	第250図	169	青磁 碗	器高4.0△	内外面ともに施釉	密	良	胎土淡黄色 釉灰オリーブ色	
703	4区一括	第250図	169	青磁 碗	器高2.7△	内外面ともに施釉	密	良	胎土灰白色 釉オリーブ灰色	龍泉窯系碗DかE類
704	4区一括	第250図	169	青磁 碗	器高1.7△	内外面施釉。外面蓮弁文。	密	良	胎土灰白色 釉明オリーブ灰色	龍泉窯系碗B4類
705	4区一括 PL71	第250図	675	瀬戸・美濃焼 平碗	口径11.6※ 器高2.5△	内外面施釉。外面底部露胎。胎土目。貫入あり。	密	良	胎土灰白色 釉淡黄～灰オリーブ色	古瀬戸後期Ⅲ
706	4区一括	第250図	169	瀬戸・美濃焼 皿	器高1.1△	外面回転ナデ、底部露胎。 内面施釉。見込み胎土目。	密	良	胎土灰黄褐色 釉灰オリーブ色	

表73 土器観察表(22)

遺物番号	遺構区層位名	挿入PL	取り上げ番号	種類器種	法量(cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
707	4区一括	第250図	407	須佐焼 罌鉢	器高6.6△	内面卸目	密	良	内外面ともに暗赤褐色	
708	4区一括	第250図	169	陶器 甕	器高8.7△	外面ミガキ。3条沈線。 内面ナデ	密	良	内外面ともに黄褐色	
709	4区一括	第250図	170	陶器 甕	底径4.2※ 器高2.7△	外面体部下半ケズリの後ナデ。 内面ココナデ。	密	良	胎土淡黄色	
710	4区一括	第250図	169	染付け 甕	器高1.4△	外面登付部露胎。 内面見込み部一部露胎	密	良	胎土灰白色 釉明オリープ灰色	
711	4区一括	第250図	169	土製品 土鈴	高さ3.5 幅2.7	外面ササエによる成形。 内面シボリ	密	良	外面橙色 内面浅黄褐色	
712	4区一括	第250図	536	土製品 土鏝	長さ4.2 径1.2 重さ4.5g	手捏ね整形後ナデ	密	良	橙色	
713	4区一括	第250図	173	土製品 土鏝	長さ4.3 径1.2 重さ6.0g	手捏ね整形後ナデ	密	良	橙色	

表74 鉄関連遺物観察表(1)

遺物番号	構成番号	挿入PL	取り上げ番号	出土遺構層位	遺物名	計測値(cm)			重量(g)	磁着度	メタル度	備	考
						長さ	幅	厚さ					
F1	①	第45図 PL.37	876	SI2	鉄製品(鍛造品)刀子	3.0	1.7	0.2	4.68	2	H(○)	薄板状の鉄製品で、右側の側面が破面、または裁ち落とされた面と推定される。左方向に向かいわずかに幅が狭まっており、端部が小さく欠けて錆ぶくれとなる。下手側の側面から見ると、真ん中部分で折り曲げようとしたかのようにクラック状となる。	
F2	②	第45図 PL.37	830	SI2	鉄製品(鍛造品)刀子状不明	4.7	1.0	0.2	5.96	2	H(○)	幅0.8mmほどの薄板状をした鉄製品。両端部が狭まって収束しており、完形品のようにも見える。右側端部はへら状で、左側端部は細くなった葉状。鏝としての機能を持つ可能性もあり。	
F3	③	第45図 PL.37	832	SI2	鉄製品(鍛造品)薄板状不明	1.7	1.0	0.2	1.95	2	H(○)	左側部が直線状に途切れた扁平な鉄片。折り取っているのか、切断したのかは不明。短軸方向の幅は前者とやや似ている。下手側から見るとわずかに反りを持つ。	
F4	④	第45図 PL.37	835	SI2	鉄製品(鍛造品)薄板状不明	2.8	1.6	0.2	4.53	2	H(○)	横長の不整五角形をした薄板状の鉄片。肩部には錆ぶくれが発達する。上手側の側面と下手側の側面が鋳で切断されたように途切れている。小さな鉄製品を作成するために切断した痕跡か。薄板状で部位により厚みがわずかに異なる。	
F5	⑤	第45図 PL.37	1002	SI2	鉄製品(鍛造品)薄板状不明	2.4	1.2	0.3	2.60	2	H(○)	右側部に新しい破面が露出する薄板状の鉄片。最大幅は0.9mm前後を測る。透過X線像では右方向に向かいわずかに幅が狭まっている。表裏面や側面には錆ぶくれと酸化土砂あり。	
F6	⑥	第45図 PL.37	831	SI2	鉄製品(鍛造品)棒状不明	2.6	1.0	0.2	1.22	2	H(○)	上手側の端部が小破面となった細い棒状の鉄製品が重層する。2本または3本が重なった状態を示す。個別に見ると細い角棒状で、幅は2mmから1.5mmを測る。	
F7	⑦	第45図 PL.37	877	SI2	鉄製品(鍛造品)棒状不明	2.1	0.95	0.2	2.18	2	錆化(△)	錆ぶくれや酸化土砂により芯部の状況が不明な棒状不明鉄製品。透過X線像では内部に幅5.5mmほどの薄板状の芯部が確認される。鍛造痕を示す筋目が本資料を含めて構成No.4・5・6・7の4点には確認される。	
F8	⑧	第61図 PL.42	422	SB1	腕形鍛冶滓(小・含鉄)	4.4	4.0	2.6	67.37	1	錆化(△)	肩部の三方に小破面を残す小型の腕形鍛冶滓。上下面や側面の大半が生きており、上手側の側面から下面は鍛冶具により突き崩されており、下手側の側面はきれいに立ち上がる。滓量の少ない鍛冶滓に伴う滓か。	
F9	⑨	第61図 PL.42	422	SB1	腕形鍛冶滓(極小・含鉄)	2.5	4.0	2.0	24.67	2	錆化(△)	上面のみ生きている極小の腕形鍛冶滓または炉内滓破片。側面は4面が破面で、下面は剥離様。全体に凹凸や木炭痕が目立ち、滓質もまちまち。上面上手側には炉壁由来の黒色ガラス質滓が残り、やや垂れ気味。	
F10	⑩	第63図 PL.42	414	SB4・5	鉄製品(鍛造品)棒状不明	1.8	0.5	0.5	2.39	2	錆化(△)	酸化土砂に覆われた小鉄片。短軸側の端部にわずかに方形の端部が露出しており、小型の釘の可能性あり。径は4mm程度。	
F11	⑪	第63図 PL.42	437	SB4	腕形鍛冶滓(極小・含鉄)	1.7	5.65	1.7	67.26	2	錆化(△)	平面、不整三角形をした極小の腕形鍛冶滓の中核部から肩部破片。1cm前後の厚みを持ち、全体に腕形に戻り返る。肩部はきれいな弧状で薄くなって収束する。上面は半流動状で木炭痕をまばらに残し、下面には褐色の炉床土が点在する。含鉄部は上面表皮扱いに少々。	
F12	⑫	第63図 PL.42	219	SB5	腕形鍛冶滓(極小・含鉄)	2.0	1.2	1.3	3.57	1	錆化(△)	小型の腕形鍛冶滓に覆われた極小の腕形鍛冶滓の肩部破片。破面は上手側の側面のみ。母体となる滓は1cm前後の薄手と推定される。	
F13	⑬	第74図 PL.42	1095	SS2	腕形鍛冶滓(小・含鉄)	3.9	4.1	2.3	63.43	3	H(○)	小型の腕形鍛冶滓の中核部破片。上下面と上手側の側面が生きており、残る側面は7割方が破面となる。滓は緻密で、わずかに重層気味。含鉄部は上下面の表面扱いに少量。	
F14	⑭	第74図 PL.42	1095	SS2	腕形鍛冶滓(極小・含鉄)	2.4	2.8	2.2	23.06	3	H(○)	酸化土砂に覆われた小塊状の腕形鍛冶滓の肩部破片。下手側の側面が生きており、残る3面は破面となる。含鉄部は芯部に小範囲か。	
F15	⑮	第74図 PL.42	1113	SS2	鍛冶滓(含鉄)	1.6	2.65	1.25	7.33	2	錆化(△)	短軸方向に長手の完形の鍛冶滓。表面は粉炭痕に覆われており、表皮には薄い酸化土砂が残る。含鉄部は芯部から下手側。	
F16	⑯	第74図 PL.39	914	SS2	鉄製品(鍛造品)袋状鉄斧	8.6	4.0	2.8	130	3	H(○)	下面の外周部にお厚い酸化土砂が残された袋状鉄斧。平面部は袋部から体部の変換点で絞られたような形態となっており、透過X線像でも左右が三角形に絞られている。刃部側が欠けたために二次転用しようとしたものか。袋部の径は3cm×1.7cm程度の隅丸長方形。横方向の透過X線像では体部半ばから刃部方向が激しく錆化しており、層状に剥離した状態で盛り上がる。	
F17	⑰	第76図 PL.42	1115	SS3	腕形鍛冶滓(極小・含鉄)	2.9	2.6	1.5	15.2	2	錆化(△)	極小の腕形鍛冶滓の右下側肩部破片。上下面と右側面が生きており、残る側面2面が破面となる。含鉄部はわずかで、既に錆化する。滓中には気孔がまばらに分布する。	
F18	⑱	第85図 PL.42	144	SK21	鍛冶滓(含鉄)	0.9	1.3	1.0	1.50	2	錆化(△)	青黒く光沢を持つ鍛冶滓破片。左側部は中空の破面となっており、磁着が強め。精錬鍛冶に伴うマグネサイト化した滓破片か。表面には粉炭痕が目立つ。	
F19	⑲	第94図 PL.65	1073	SB8	腕形鍛冶滓(大・含鉄)	7.9	7.2	3.8	320	4	H(○)	大型の腕形鍛冶滓の中核部から左側部にかけての破片。上下面と左側部寄りの表面が部分的に生きており、右寄りの側面三方は直線状の破面となる。上下面ともにやや平坦気味の滓で、下面には灰黒色の炉床土が薄く貼り付く。滓質は緻密で中層の気孔が肥大し、部分的に重層気味。含鉄部は上面表皮寄りに広め。	
F20	⑳	第94図 PL.65	1073	SB8	腕形鍛冶滓(小・含鉄)	5.8	6.2	3.3	150	2	H(○)	左右の側面が小破面となった比較的完形に近い小型の腕形鍛冶滓。上面中央部は平坦気味で、短軸方向の肩部が傾斜して左側部は刃先を示すように窪む。下面は木炭痕と炉床土の剥離痕が現在するやや強い腕形。含鉄部は上面から右手寄りの肩部に小範囲。	
F21	㉑	第94図 PL.61	1068	SB8	鉄製品(鍛造品)釘(管折れ)	5.4	0.8	0.7	8.41	2	錆化(△)	方形断面を持つ管折れ釘の頭部から体部破片。足部側は明瞭に欠けている。また、頭部は錆化して体部から斜め上方に剥離する。	
F22	㉒	第100図 PL.65	806	SB14 P30	腕形鍛冶滓(極小・含鉄)	2.8	4.75	2.65	26.74	3	H(○)	短軸方向に長手の極小の腕形鍛冶滓。完形で、上面左上側の肩部には工具による圧痕が確認される。表面は酸化土砂に覆われており、全体的に錆色がにじむ。含鉄部は上面全体。	
F23	㉓	第100図 PL.61	816	SB14 P30	鉄製品(鍛造品)棒状不明	1.8	0.7	0.3	1.15	2	錆化(△)	下手側が新しい破面となった棒状不明品。横断面形はやや長方形で、下手側に向かい徐々に細くなる形態を示す。釘の未成品の可能性もある。	
F24	㉔	第100図 PL.61	104	SB14 P10	鉄製品(鍛造品)釘?	2.9	0.7	0.3	1.26	2	H(○)	両端部が欠けた釘の可能性を持つ鉄製品体部破片。鍛造痕を示す筋目はやや乱れており、つくりはやや荒い。	

表75 鉄関連遺物観察表(2)

遺物番号	構成番号	挿入図PL	取り上げ番号	出土遺構層位	遺物名	計測値(cm)			重量(g)	磁着度	メタル度	備考
						長さ	幅	厚さ				
F25	㉓	第100図 PL.61	303	SB14(P37)	鉄製品(鑄造品)	2.5	1.9	0.2	4.14	1	H(○)	2mmほどの厚みを持つ鑄造品破片。表面は酸化土砂に覆われており、透過X線像では放射割れが明瞭に生じている。また、微細な気孔もあり。
F26	㉔	第107図 PL.61	80	SE1	鉄製品(鍛造品)釘(皆折れ)	7.1	0.7	0.6	1027	1	銹化(△)	体部半ばで割れているほぼ全形の残る皆折れ釘。頭部は斜め上方に開いてしまっている。鍛造痕がやや雑な印象を受けるが釘としては普通。
F27	㉕	第107図 PL.61	148	SE1	鉄製品(鍛造品)釘(皆折れ)	4.8	0.6	0.4	2.41	2	銹化(△)	体部半ばで2片に割れている細身の皆折れ釘。足部先端は外周部が痛んでいるが長さ自体は生きている。頭部は突出部が欠落する。鍛造痕はやや雑。
F28	㉖	第107図 PL.61	148	SE1	鉄製品(鍛造品)釘(皆折れ)	5.3	1.2	0.5	2.95	2	H(○)	足部の先端が二股に分かれた細身の皆折れ釘。銹化により肌別してしまった可能性も残っている。体部の径は4.5mm前後を測る。鍛造痕はやや雑。
F29	㉗	第109図 PL.61	742	SE2	鉄製品(鍛造品)釘	1.6	0.2	0.5	0.54	2	銹化(△)	釘の体部破片。下手側に向かい幅が狭まっており、やや足部寄り破片か。
F30	㉘	第111図 PL.65	679	SK38	炉壁(鍛冶炉)	2.9	2.6	1.8	10.96	なし	なし	内面上端のみが生きている炉壁小破片。側部から内面8割方が破面となる。外面右上半は掘り方からの剥離面様。色調や胎土は構成No.58と類似する。鍛冶炉の炉壁破片か。
F31	㉙	第111図 PL.61	679	SK38	鉄製品(鍛造品)折れ釘	11.5	2.6	0.5	36.35	2	銹化(△)	頭部が大きく張り出している中型の折れ釘。または皆折れ釘。足部側は折れ曲がった状態で残存する。体部全体が小さくねりを持っており、表層は銹化が進んでいる。ただし、全形の分かる釘資料としては貴重。
F32	㉚	第111図 PL.61	1038	SK38	鉄製品(鍛造品)釘	4.0	1.5	0.5	4.49	1	銹化(△)	体部半ばから足部方向がくの字状に折れ曲がった小型の釘。頭部の造りは皆折れと同じ造りになっている。鍛造痕は不明瞭で、足部側のみ確認される。
F33	㉛	第111図 PL.61	1038	SK38	鉄製品(鍛造品)釘?	3.2	1.7	0.3	5.66	2	銹化(△)	幅1.5mm前後の細身の鉄製品の重層資料。透過X線像では少なくとも4本がX字状に交わっている。うち1本は頭部が折れ曲がっており、細身の皆折れ釘の可能性を持つ。
F34	㉜	第111図 PL.61	1038	SK38	鉄製品(鍛造品)釘?	2.4	0.5	0.4	2.80	1	銹化(△)	両端部が欠けた釘状の鉄製品破片。最大幅は5.5mm程度で、下手側に向かいわずかに細くなっている。鍛造痕がかなりうじて確認される。
F35	㉝	第111図 PL.61	1038	SK38	鉄製品(鍛造品)環状不明	3.4	3.2	1.1	19.70	1	銹化(△)	U字状に折り曲げられた環状鉄製品破片。透過X線像では左側の端部が破面となっており、右側の端部は丸みを持って収束する。自在鉤の先端破片様。幅は6mm前後で、右下手側は表層が剥離して内が薄くなる。鍛造痕はやや雑。馬具の破片の可能性も残る。
F36	㉞	第114図 PL.61	164	SK14	鉄製品(鑄造品)鍋(底部)	8.6	6.6	0.5	43.98	2	H(○)	厚さ4mm前後の鑄造品破片。全体に放射割れが発達し、現状は2片に分かれているが接合可。2片のうち左側の上側端部が弧状に途切れている。これは体部の立ち上がり部を反映している可能性が大。透過X線像では鑄造品の特色が明瞭で、表面に現れない細かい放射割れも確認される。
F37	㉟	第116図 PL.61	158	SK16	鉄製品(鍛造品)釘(皆折れ)	5.7	1.0	0.8	10.10	2	銹化(△)	2片に割れている皆折れ釘。ほぼ足部までが生きている。頭部にはわずかに折り返しを確認される。鍛造痕はやや雑。
F38	㊱	第116図 PL.61	1030	SK16	鉄製品(鍛造品)釘(皆折れ)	4.4	3.4	0.55	6.19	2	H(○)	2片に割れている皆折れ釘。頭部が斜め上方に開き、足部先端は弧状に小さく反り返る。鍛造痕はやや雑。
F39	㊲	第116図 PL.61	1030	SK16	鉄製品(鍛造品)釘(皆折れ)	3.9	1.3	0.7	5.39	2	H(○)	足部が欠落した皆折れ釘。頭部は開き気味で鍛造痕は比較的素直な状況を示す。体部上半の最大幅は5mmを測る。
F40	㊳	第116図 PL.61	158	SK16	鉄製品(鍛造品)釘(皆折れ)	4.1	0.9	0.6	5.25	1	銹化(△)	体部半ばで2片に割れた皆折れ釘。足部は欠落しており、頭部の折り返しにわずかに確認される。鍛造痕はやや雑。
F41	㊴	第117図 PL.61	162	SK17	鉄製品(鍛造品)釘	4.3	0.6	0.4	2.36	1	銹化(△)	小型の皆折れ釘。足部先端が欠落し、頭部も部分的に欠けている。鍛造痕はやや雑。
F42	㊵	第117図 PL.61	162	SK17	鉄製品(鍛造品)釘?	4.3	0.5	0.3	1.68	2	H(○)	頭部が欠けた釘。足部は細くなって収束し、先端部表皮がわずかに欠けている。鍛造痕は素直に見える。
F43	㊶	第120図 PL.65	107	SK18	炉壁(鍛冶炉)	3.8	3.3	4.4	38.39	なし	なし	くすんだ濃褐色に被熱した鍛冶炉の炉壁破片。内面のみ生きている。厚みは現状で4.1cmを測る。上下面が平坦気味で、粘土単位の接合部の可能性もあり。胎土は緻密な粘土質で粉粒をまじえる。内面左側や芯部が部分的に吸炭する。
F44	㊷	第120図 PL.61	107	SK18	鉄製品(鍛造品)釘(皆折れ)	3.9	0.7	0.4	2.70	1	銹化(△)	足部が欠落した細身の皆折れ釘。頭部が小さく張り出し、頭部の上面は層状の錆ぶくれで影らんでいる。鍛造痕にはややうなりあり。
F45	㊸	第120図 PL.61	107	SK18	鉄製品(鑄造品?)飾り金具?	2.2	1.2	0.6	2.88	1	銹化(△)	中央部に径5.5mmを測る穿孔がなされている飾り金具様の鉄製品。外周部には幅6mm以上の板状の部分がある。断面形は長方形。透過X線像からみると鑄造的な像となっているため鑄造金具の可能性もあり。
F46	㊹	第125図 PL.61	107	SK40	鉄製品(鍛造品)釘	2.9	1.5	0.4	2.60	1	銹化(△)	体部半ばから足部が欠落した小型の皆折れ釘。頭部はやや開き気味ながら残されている。鍛造痕はやや雑。
F47	㊺	第132図 PL.61	290	SK52	鉄製品(鍛造品)刀子	2.5	2.1	0.2	2.66	2	H(○)	左右の側部が破面となった刀子の刃部破片。幅は1.9cmを測り、刃部側がやや痛んでいる。
F48	㊻	第140図 PL.61	291	SK79	鉄製品(鍛造品)釘(皆折れ)	5.7	0.8	0.5	5.40	1	銹化(△)	2片に割れた皆折れ釘。足部と頭部の先端が小さく欠けている。鍛造痕はやや雑。足部は細い方形断面を示す。
F49	㊼	第144図 PL.61	120	SK81	鉄製品(鍛造品)釘(皆折れ)	3.2	0.8	0.3	2.09	1	銹化(△)	2片に割れた細身の皆折れ釘。体部半ばで足部側は欠落する。頭部は小さく折り曲げられている。銹化が進み鍛造痕が乱れる。
F50	㊽	第146図 PL.61	115	SK82	鉄製品(鑄造品)鍋	4.3	4.2	0.3	21.88	1	銹化(△)	透過X線像に放射割れが確認される鑄造品破片。平面形状がわずかに弧状で、鍋の体部片の可能性大。表面は酸化土砂が厚く、少なくとも側面2方が破面とみられる。
F51	㊾	第148図 PL.61	27	SD1	鉄製品(鍛造品)釘(皆折れ)	4.9	0.8	0.4	5.77	3	H(○)	頭部が錆ぶくれで影らんだ皆折れ釘。足部側は欠落している。体部半ばから足部方向に欠けては表層が剥離し、下手側の破面寄りには割れが生じている。鍛造痕はやや雑。
F52	㊿	第151図 PL.65	215	SD15	腕形鍛冶滓(特大・含鉄)	7.6	12.5	5.4	47.0	1	銹化(△)	ふ厚い酸化土砂に覆われた特大の腕形鍛冶滓の右下手寄り破片。上下面が生きており、側部三面が破面となる。側部下半から左側部の下面寄りが有段で、重層した滓の痕跡を残す。右側の下面に残る厚さ1.3cmほどの滓は別単位の滓または灰床土の部分で、主体となる上半部の滓の下面には点々と炉壁溶解物が顔を出す。右側上半は斜め方向の段を3ヶ所に残し、滓が変形していることを読み取れる。含鉄部は上半の滓の上下面沿い。
F53	㊽	第151図 PL.64	739	SD15	腕形鍛冶滓(特大・含鉄)	5.3	9.3	4.4	290	2	H(○)	左右の側部が大破面となった特大の腕形鍛冶滓の中核部破片。上下面と短軸側の側部の一部が三方とも生きている。上面は平坦で、下面の中央部が左右方向の舟底状に突出する。滓質は緻密。含鉄部は下手側の側部から下面沿い。
F54	㊿	第151図 PL.65	470	SD15	腕形鍛冶滓(小・含鉄)	7.3	6.3	3.9	160	3	銹化(△)	右手側の側部に小破面を残す。ほぼ完全に近い小型の腕形鍛冶滓。左側部は直線状に途切れて自然面で、炉壁に接した羽口先で形成された可能性が高い。上面は大きく窪み、下面は左右方向の舟底状に突出する。上手側の側部が陥凹に窪むが、工具痕かどうかは不明。木炭痕がやや大きめで深内部にも目立つ。上面左側の突出部は酸化土砂部分。
F55	㊽	第151図 PL.65	460	SD15	腕形鍛冶滓(小・含鉄)	4.8	4.25	3.1	65.66	2	H(○)	厚い酸化土砂に覆われ表面に放射割れの発達する小型の腕形鍛冶滓。形状的には元の滓の上手側側部破片の可能性あり。芯部の含鉄部の影響のため下面中央部の放射割れには黒錆がにじみ、磁着も強い。
F56	㊿	第151図 PL.65	442	SD15	腕形鍛冶滓(小・含鉄)	3.5	3.2	2.6	31.67	3	H(○)	左側部が破面となった小型の腕形鍛冶滓の右側部破片。表面全体が酸化土砂に覆われ分りにくい滓となる。側面から下面は右方向に急激に立ち上がる舟底状。また下面には木炭由来の繊維状の圧痕が残る。
F57	㊽	第151図 PL.65	714	SD15	腕形鍛冶滓(極小・含鉄・重層・粘土質溶解物付)	7.0	6.4	3.3	1.40	2	銹化(△)	重層した定形で極小の腕形鍛冶滓。上面の滓は薄皮状に広がっており、上面左側は羽口先由来の粘土質溶解物が瘤状に垂れている。下半の滓は左寄り主体で突き崩された変形状態。滓量も上半の滓の3分の1以下と少ない。ただし、上下の滓とも外観的には鍛錬鍛冶滓とみられる。わずかに錆色にじむ部分もあるが、磁着は弱い。
F58	㊿	第151図 PL.65	470	SD15	腕形鍛冶滓(小・含鉄)	6.3	4.5	2.6	93.63	3	H(○)	左右方向に長手の比較的まとまりのよい極小の腕形鍛冶滓。左右の側部が小破面となる。上面右上手側は工具痕様に窪む。下面はやや荒れた腕形で、灰床土が僅かに固着する。含鉄部は右半分の表面や芯部か。
F59	㊽	第151図 PL.65	732	SD15	腕形鍛冶滓(小・含鉄)	4.0	5.3	2.5	56.58	2	H(○)	右側の側部が小破面となった、変形した極小の腕形鍛冶滓。平面形は不整形で、本来の形状とは異なっている。上面は緩やかな波状で下面は短い舟底状。含鉄部は上面表皮沿いに少ない。
F60	㊿	第151図 PL.65	462	SD15	被熱石	2.1	2.8	2.4	23.03	1	なし	上面の小範囲に自然面を残す被熱石小破片。側部から下面は連続的な破面となる。被熱は上面寄り1cm程度の範囲で、下面側は弱くなる。本遺跡からは構成資料外にも被熱石が目立ち、性格は不明。
F61	㊽	第154図 PL.65	948	SD18	炉壁(製錬炉?)	11.0	9.7	3.3	270	1	なし	側部全面が破面となった厚さ3cm前後の炉壁破片。内面表皮は溶化して垂れややすかな木炭痕に覆われ、一部に錆色が点在する。下部の内面寄りには黒色の溶化が進み、垂れが明瞭となる。外面は緩やかな波状の平坦面で、やや剥離面様。胎土は小塊混じりの粘土質で、被熱が強いため全体に灰褐色を基調とする。製錬炉の炉壁片様ながら大型の精錬鍛冶炉の内面破片の可能性も残る。特に構成No.76～77のような特大の腕形鍛冶滓が内面からつながりつつある。土質としてSD18からの出土資料という点で注目される。
F62	㊿	第154図 PL.65	858	SD18	羽口(鍛冶)	4.7	3.9	2.1	24.76	1	銹化(△)	羽口の先端部から側部にかけての表皮破片。先端部は黒褐色のガラス質に溶化して、下半には垂れが広がる。羽口先以外の外周部から通風孔側部は破面となる。胎土は風化の進んだ小塊を含む粘土質で、短く混ざり合っている。羽口部位としては正面から見て左斜め下の表層。

表76 鉄関連遺物観察表(3)

遺物番号	構成番号	挿図PL	取り上げ番号	出土遺構層位	遺物名	計測値(cm)			重量(g)	磁者度	メタル度	備 考
						長さ	幅	厚さ				
F63	㉔	第154図 PL65	874	SD18	腕形鍛冶滓(特大・含鉄)	4.8	5.4	4.35	180	1	錆化(△)	下手側を除く側部三方が破面となった特大の腕形鍛冶滓の肩部破片。厚みは3.5cm強で、上下面や側面が平坦気味となる。滓質は緻密で、上面のみ磁着が強い。
F64	㉕	第154図 PL65	984	SD18	腕形鍛冶滓(特大・含鉄)	7.5	12.9	6.9	610	2	H(○)	左右の側部が大きな破面となった特大の腕形鍛冶滓の中核部破片。短軸側の両側部は部分的に生きている。上面はほぼ平坦気味で、下面は下手方向に向かい緩やかに立ち上がる。下面左側の2ヶ所に大きく発達した瘤状の酸化土砂あり。右方向が滓の芯部で破面には中層を中心に肥化した気孔が残る。上面は全体に磁着が強く、部分的に酸化土砂が小さく盛り上がる。上手側の肩部は突き崩されて斜め下方向に垂れ下がる。
F65	㉖	第154図 PL65	860	SD18	腕形鍛冶滓(特大・含鉄)	9.8	9.8	5.5	590	3	H(○)	厚さ3.5cmほどの扁平な特大の腕形鍛冶滓。緩やかな腕形をした上面全体に炉壁粉が固着しており、形態的にも特異な滓となる。破面は側部の三方で、左手側の側部は直立する自然面。鍛冶具による変形した腕形鍛冶滓であろう。同類の滓は構成No.108を含めて、数点が構成されている。含鉄部は下面表皮沿いに広い。
F66	㉗	第154図 PL65	858	SD18	腕形鍛冶滓(中・含鉄)	3.95	3.95	2.5	52.29	1	なし	中型の腕形鍛冶滓の側部寄り破片。下面から側部の一部が残っており、それ以外はシャープな破面に囲まれている。滓質は緻密。
F67	㉘	第154図 PL65	934	SD18	腕形鍛冶滓(小・含鉄)	3.0	6.3	3.1	74.40	2	錆化(△)	小型の腕形鍛冶滓の中核部から側部にかけての破片。左右の側部が破面になっており、部位としてはもとの腕形滓の中央部よりやや左側に当たる。上面中央部が突出し下面は浅い傾斜。滓質は緻密で含鉄部は上面表皮寄り。
F68	㉙	第154図 PL65	875	SD18	腕形鍛冶滓(小・含鉄)	4.7	7.4	1.9	86.26	3	M(◎)	小型の腕形鍛冶滓の半欠品。側部3面と上面の8割方が破面になっている。下面は平坦で点々と炉床土が貼り付いている。含鉄部は下面の表皮沿いに広い。
F69	㉚	第154図 PL65	929	SD18	腕形鍛冶滓(極小・含鉄)	4.7	5.3	3.7	60.11	1	錆化(△)	極小の腕形鍛冶滓の右側部破片。左側の側部が欠落しており、右側部下手側には段を生じている。まとも悪い形状で滓量の少なさを窺わせる。表皮はやや厚い酸化土砂に覆われている。
F70	㉛	第154図 PL65	796	SD18	腕形鍛冶滓(極小・含鉄)	3.35	3.3	1.1	19.58	2	H(○)	1cmほどの厚みを持つ扁平な腕形鍛冶滓の肩部破片。上下面と下手側の側部が生きており、残る側部3面が破面。下面には瘤状の木炭痕が連続する。含鉄部は芯部。
F71	㉜	第154図 PL61	971	SD18	鉄製品(鍛造品)釘	3.3	0.6	0.5	1.70	1	錆化(△)	2片に割れている小型の釘。頭部は確認できず、やや開いた撻形の頭部となる。足部先端も欠落する。鍛造痕はやや雑。
F72	㉝	第154図 PL61	967	SD18	鉄製品(鍛造品)棒状不明	3.7	1.0	0.6	7.33	3	M(◎)	両端部が破面となった棒状不明品。下手側に向かい急激に細くなる形態で、釘的ではない形態を持つ。鍛造痕はやや雑。
F73	㉞	第154図 PL61	863	SD18	鉄製品(鍛造品)釘	2.7	2.0	0.5	5.03	1	錆化(△)	厚さ2.5mmほどの薄手の鍛造品破片。表面全体が酸化土砂に覆われており、右下の角に端部が露出する。暗赤色の酸化色のため鋼製の底部破片と推定される。
F74	㉟	第154図 PL61	106	SD8	鉄製品(鍛造品)刀子?	3.9	1.7	0.15	45.7	2	錆化(△)	錆化が激しく進んだ帯状の鉄製品破片。長短軸の四方が破面になっているものの、短軸側は直線状を示す。幅1.9cm以上の刀子の刃部破片か。
F75	㊱	第156図 PL61	106	SD8	鉄製品(鍛造品)釘	7.6	1.5	0.6	16.02	1	錆化(△)	頭部が丸みをもって折り曲げられているほぼ完形の釘。足部側が2ヶ所、くの字状に曲がっている。頭部はほぼ円形に巻き込まれており、通常の皆折れ釘とは異なる造り。釘としては中型で鍛造痕は雑。
F76	㊲	第156図 PL61	83	SD8	鉄製品(鍛造品)釘(皆折れ)	6.4	1.7	0.6	10.05	2	錆化(△)	足部の先端がわずかに欠落する皆折れ釘。頭部は水平気味に開き、体部下半で折れ曲がっている。鍛造痕はやや雑。
F77	㊳	第156図 PL61	83	SD8	鉄製品(鍛造品)折れ釘	5.8	1.6	0.5	9.14	2	錆化(△)	頭部が小さな逆L字状に成形された折れ釘。または頭部が開いてしまった皆折れ釘。足部側は欠落する。鍛造痕はやや雑。
F78	㊴	第156図 PL61	106	SD8	鉄製品(鍛造品)釘(皆折れ)	5.0	0.8	0.5	54.1	2	錆化(△)	体部半ばで弓なりに曲がっている皆折れ釘。足部先端が欠落し、頭部は小さく折り込まれている。鍛造痕はやや雑。
F79	㊵	第156図 PL61	106	SD8	鉄製品(鍛造品)釘(皆折れ)	5.4	1.5	0.3	10.80	2	錆化(△)	体部半ばで2片に割れている皆折れ釘。足部先端が欠落し、頭部側は厚い酸化土砂に覆われている。鍛造痕はやや雑。
F80	㊶	第156図 PL61	83	SD8	鉄製品(鍛造品)釘(皆折れ)	2.9	1.3	0.6	4.44	2	錆化(△)	足部が欠落する皆折れ釘。頭部は直角方向に折り曲げられている。鍛造痕はやや雑。
F81	㊷	第163図 PL61	201	SD13	鉄製品(鍛造品)釘(皆折れ)	5.4	0.6	0.4	9.56	2	錆化(△)	足部先端が欠落した皆折れ釘。頭部が斜めにひねられており、外周部には酸化土砂が厚い。鍛造痕は雑。
F82	㊸	第166図 PL65	855	SD21	腕形鍛冶滓(特大・含鉄)	8.4	7.9	4.6	520	2	錆化(△)	特大の腕形鍛冶滓の中核部から右側部破片。側部4面がシャープな破面となる。上面は左右方向に輪状に窪み、下面は逆に短軸方向に舟底状に突出する。滓質は緻密で比重は高い。含鉄部は右側部の突出部中心で、上下面にも広がっている。
F83	㊹	第166図 PL65	901	SD21	腕形鍛冶滓(大・含鉄)	6.2	9.3	4.6	270	2	錆化(△)	大型の腕形鍛冶滓の左側部破片。上下面は生きており、右側部全体と左上手側の側部が破面となる。上面は左半分が輪状に窪み傾斜する。下面は通常の腕形。上手側に含鉄部が残る、錆色がにじむ。
F84	㊺	第166図 PL65	1200	SD21	腕形鍛冶滓(大・含鉄)	8.6	9.4	5.1	240	2	H(○)	右方向に向かい薄く広がる大型の腕形鍛冶滓破片。右側部と上手側がシャープな破面で、それ以外は生きている。左方向が厚く、また左側部が直線状に途切れる自然面。滓は密度が低く、上面や内部に細かい木炭痕が目立つ。下面は荒れており、炉床土や羽口先の小片が固着する。含鉄部は分散気味。
F85	㊻	第166図 PL66	1010	SD21	鉄製品(鍛造品)紡錘車	3.1	3.7	0.6	23.35	2	H(○)	上下に通した2.9cmほどの軸部を残す鉄製紡錘車。円盤部は径4cmほどで、中心部は径2mm強の軸穴が確認される。軸の両端部は小さな破面になっており、先端部方向が欠落する。円盤部は完全な水平ではなく、わずかに傘型に見える。透過X線では軸部分には明らかな鍛造痕が確認されるが、円盤はかすかに気孔様の像が確認され、鍛造品の可能性も若干残る。
F86	㊼	第167図 PL65	613	SD17	腕形鍛冶滓(小・含鉄)	5.8	5.0	2.4	140	3	H(○)	小型の腕形鍛冶滓の中核部から右側部破片。厚さ2cmほどの扁平な滓でまともは良好。上面には木炭痕を残し、下面は炉床土の剥離面となる。上下面とも部分的に濃赤褐色の酸化色を示す。含鉄部は上面表皮付近。
F87	㊽	第171図 PL65	855	SD24	鍛冶滓(含鉄)	1.7	2.8	1.1	5.87	3	H(○)	厚さ0.9mmほどの鍛冶滓または極小の腕形鍛冶滓の肩部破片。左側部が破面となっており、残る表面は生きている。上面には木炭痕があり、下面はやや腕形状。小ぶりながら磁着は強く、含鉄部は上半部全体となる。
F88	㊾	第189図 PL65	1200	ビット群11P	腕形鍛冶滓(極小・含鉄)	2.5	3.4	1.8	17.7	2	錆化(△)	極小の腕形鍛冶滓の下手側側部破面。上下面は生きており、側部三方が破面。全体に扁平で厚みは1.8cm前後を測る。ややまともにより欠ける滓で、上下面や側面にもこの単方位を示す筋目確認される。表面の酸化土砂は赤みが強く、酸化物の多さを示す。
F89	㊿	第189図 PL61	1200	ビット群11P	鉄製品(鍛造品)棒状不明	0.9	0.7	0.7	9.36	2	錆化(△)	下手側の側部が破面となった棒状不明品。破面に露出する断面形状は方形で、釘類の可能性を残す。外周部には酸化土砂が瘤状に取り巻く。
F90	㉑	第191図 PL61	1040	ビット群12 P8	鉄製品(鍛造品)釘(皆折れ)	3.2	0.7	0.5	4.16	1	H(○)	酸化土砂に覆われた皆折れ釘。足部は欠けており、頭部の曲げは短い。
F91	㉒	第191図 PL61	1043	ビット群12 P13	鉄製品(鍛造品)釘(皆折れ)	6.3	1.1	0.5	11.22	1	錆化(△)	やや厚い酸化土砂に覆われた皆折れ釘の頭部から体部破片。鍛造痕は雑で、頭部は斜め上方に開いている。
F92	㉓	第191図 PL61	1057	ビット群12 P21	鉄製品(鍛造品)折れ釘?	3.3	1.1	0.5	4.73	1	錆化(△)	頭部が小さく張り出す折れ釘の頭部から体部破片。足部は欠落する。鍛造痕は雑で、足部方向で折り曲がっている。
F93	㉔	第191図 PL61	112	ビット群12 P34	鉄製品(鍛造品)釘(皆折れ)	2.9	1.1	0.5	4.32	2	H(○)	皆折れ釘の頭部寄り破片。体部半ばから足部は欠落する。頭部部分はやや長めに突出する。
F94	㉕	第191図 PL61	131	ビット群12 P39	鉄製品(鍛造品)釘	4.7	1.2	0.8	1.73	1	錆化(△)	足部が欠落した釘破片。頭部ははっきりと折り曲げられており、足部方向に向かい細くなる形態を持つ。鍛造痕はやや雑。
F95	㉖	第191図 PL61	300	ビット群12 P39	鉄製品(鍛造品)釘?	5.0	0.8	0.45	11.01	2	H(○)	酸化土砂に覆われた釘破片。足部は欠落しており、頭部方向に向かって弧状に折れ曲がっている。頭部側のつくりは良好。
F96	㉗	第191図 PL61	300	ビット群12 P39	鉄製品(鍛造品)釘?	3.3	0.4	0.2	11.19	1	H(○)	細身の釘の可能性を持つ体部から足部破片。体部幅は3.5mm程度で、足部に向かって徐々に細くなっている。鍛造痕はやや良好。
F97	㉘	第191図 PL61	1089	ビット群12 P41	鉄製品(鍛造品)釘?	5.0	0.8	0.5	7.36	2	錆化(△)	頭部と足部先端が欠けた釘。鍛造痕は丁寧でつくりは良好。外周部は厚い酸化土砂に覆われる。
F98	㉙	第192図 PL61	186	ビット群12 P123	鉄製品(鍛造品)刀子?	2.6	2.0	0.2	3.28	2	H(○)	2片に割れているヘラ状の鉄製品破片。短軸方向の幅は1.7cmを測る。右側部が破面と推定され、刀子の切先部破片か。
F99	㉚	第192図 PL61	1087	ビット群12 P142	鉄製品(鍛造品)鏝	4.0	3.9	0.3	17.86	3	H(○)	上手側の側部が斜め上方に立ち上がる鍛造品破片。曇りは2mm強と薄めで、立ち上がり部の径からみて小ぶりの鏝と推定される。下手側の7割方が鋼底部に相当する。
F100	㉛	第64図 PL.42	418	SB7	腕形鍛冶滓(極小)	1.35	1.5	0.8	2.66	2	なし	前者に似た極小の腕形鍛冶滓の肩部小破片。厚みや外観も類似している。小片ではあるが、古代の遺構出土ということから構成中に含まれた。
F101	㉜	第203図 PL62	625	3区 褐色土	流動滓	3.2	1.9	2.0	19.06	1	なし	左右方向にのびる流動滓破片。破面は左右の側部のみ。短軸方向の断面形状はV字状で、側部は炉床土の圧痕を残す。滓は緻密。圧痕の外観から、鍛冶炉のひび割れになどに貫入した鍛冶系の流動滓か。
F102	㉝	第203図 PL62	81	3区 褐色土	腕形鍛冶滓(特大・含鉄)	8.1	5.9	4.0	280	2	H(○)	側部全周が破面となった特大の腕形鍛冶滓の中核部から右側部破片。破面はシャープで、中程度の気孔が点々と露出する。下面は短軸方向にのびる舟底状。含鉄部は上下面の表皮沿いか。



表77 鉄関連遺物観察表(4)

遺物番号	構成番号	挿入図PL	取り上げ番号	出土遺構層位	遺物名	計測値(cm)			重量(g)	磁着度	メタル度	備考
						長さ	幅	厚さ				
F103	㊟	第203国 PL62	623	3区 褐色土	腕形鍛冶滓 (特大・含鉄)	9.2	6.9	3.7	270	3	H(○)	上面に長さ5.5cm以上の木炭痕を残す扁平な腕形鍛冶滓。上手側の側面が全面破面となっており、右側面も部分的に破面とみられる。下手側の側面は直線状に途切れている。下面は左右方向にのびる浅い舟底状で、灰床土と木炭の噛み込みあり。破面の中間には肥大した気孔が目立ち、やや密度の低い滓となる。含鉄部は上面の表皮治い。
F104	㊟	第203国 PL62	800	3区 褐色土	腕形鍛冶滓 (大・含鉄)	6.5	6.4	3.5	170	3	H(○)	大型の腕形鍛冶滓の下手側側面破片。側面3面が破面になっており、滓は下手側に向かい薄くなつて収束する。下面は緩やかな傾斜面で、灰床が広いところがある。上下面の表皮治いに含鉄部あり。
F105	㊟	第203国 PL62	659	3区 褐色土	腕形鍛冶滓 (中・含鉄)	7.0	10.3	4.5	340	2	銹化(△)	短軸方向に長手の不整形円形の平面形を持つ中型の腕形鍛冶滓。ほぼ完成品で、上下の滓がずれている可能性大。上半の滓はまとまりの良い1cm程度の厚みを持ち、滓質も一定しているのに対して、下半の滓は多量に羽口破片を巻き込んだ不定形となっている。直前に操業された大型または特大の滓の破片の一部が残したまま、次の鍛冶作業を行っているためか。上面の滓は表層全体、下面の滓は下手側に向き出する部分が含鉄部。
F106	㊟	第203国 PL62	662	3区 褐色土	腕形鍛冶滓 (中・含鉄)	7.5	6.2	3.5	200	3	H(○)	側面4面が破面となった中型の腕形鍛冶滓の中核部破片。全体に扁平で上下面とも緩やかな皿状となる。下手側がやや側面寄りのためわずかに立ち上がり、破面の気孔も中層に目立つ。下面にはガラス化した灰床土が面的に固着する。
F107	㊟	第203国 PL62	749	3区 褐色土	腕形鍛冶滓 (極小・含鉄)	5.5	5.4	2.4	77.47	2	H(○)	左側面が段をなすほぼ完成形で極小の腕形鍛冶滓。右側の肩部に出入りがあるものの、上面は通常の腕形で、酸化物が多いためか、広範囲に暗褐色の酸化色となる。上手側の側面がわずかに欠けている。全体に磁着傾向があり、含鉄部は分散的。
F108	㊟	第203国 PL62	840	3区 褐色土	腕形鍛冶滓 (極小・含鉄)	4.4	5.9	2.2	48.72	2	H(○)	側面2下面に2cm大を超える木炭痕が目立つや異形の腕形鍛冶滓。左右の側面が破面となっており、一回り大きな滓の中核部破片が。上面はほぼ平坦。含鉄部は上面下手側の錆ぶくれの部分。
F109	㊟	第203国 PL62	749	3区 褐色土	鍛冶滓(含鉄)	2.2	2.2	1.2	6.83	2	H(○)	小さな腕形をなす完形の鍛冶滓。芯部が含鉄部と推定されるが錆化が進んでいる。鍛冶原料の遊離破片か。
F110	㊟	第203国 PL61	74	3区 褐色土	鉄製品(鍛造品)釘(皆折れ)	5.0	1.0	0.5	7.42	2	銹化(△)	足部先端が欠落した皆折れ釘。体部下半で「く」の字状に折れ曲がっている。頭部は小さく折り返されて水平にのびる。鍛造痕はやや雑。
F111	㊟	第203国 PL61	74	3区 褐色土	鉄製品(鍛造品)釘(皆折れ)	4.5	1.0	0.5	4.25	1	銹化(△)	足部が欠落した皆折れ釘。頭部は広がってしまい、内側は丸みを持つ。鍛造痕は比較的雑。
F112	㊟	第203国 PL61	74	3区 褐色土	鉄製品(鍛造品)釘(皆折れ)	2.8	0.9	0.4	2.55	2	H(○)	体部半ばで足部側が欠落した小型の皆折れ釘。頭部は小さく突出し、鍛造痕はやや雑。
F113	㊟	第203国 PL61	74	3区 褐色土	鉄製品(鍛造品)釘	2.5	0.5	0.5	2.12	2	銹化(△)	頭部が大きく折り曲げられた釘破片。体部半ば以下は欠落する。頭部はきれいに巻き込まれており、内側には楕円形の中空部が生じている。鍛造痕はやや雑。
F114	㊟	第203国 PL61	74	3区 褐色土	鉄製品(鍛造品)釘	2.2	0.6	0.2	0.83	2	銹化(△)	釘の足部側破片。両端部が破面となっており、全体に弧状に曲がる。
F115	㊟	第205国 PL60	676	4区 黒色土	流動滓	3.85	2.6	2.15	30.10	1	なし	左側面下手側がシャープな破面となった流動滓破片。上面は平滑で、下面は灰床土の剥離面様。滓質は緻密で上面表皮直下の気孔が発達する。鍛冶系の流動滓か。
F116	㊟	第205国 PL60	551	4区 黒色土	腕形鍛冶滓(特大・含鉄) 再結合	16.1	16.2	11.2	2400	3	銹化(△)	下面の右下手側に別単位の破片が再結合している特大の腕形鍛冶滓。上半の滓は扁平で厚みを持ち、左右の側面と下手側の側面が破面となる。上下面は緩やかな波状で、上手側に向き出するにつれて薄くなって収束する。滓質は緻密で、気孔が全体に分散気味。含鉄部は左下手側の表皮寄りで、放射割れを生じている。下面に再結合する滓は大型の腕形鍛冶滓の中核部破片で、4.5cm前後の厚みを持つ。滓質もやや異なり、浅い舟底状の下面には灰床土が面的に残る。側面4面が破面。
F117	㊟	第205国 PL60	854	4区 黒色土	腕形鍛冶滓 (特大・含鉄)	10.5	13.45	4.1	710	1	銹化(△)	左右方向に長手の特大の腕形鍛冶滓。平面形は不整形三角形で、全体厚は4cm前後の厚板状。左側面が主破面で、右側面と下手側の側面中央が小範囲で欠落する。上面は左右方向に浅く窪み、木炭痕がやや目立つ。また内部にも木炭の巻き込みあり。下面は全体に浅い皿状で、右中央部が6cmほどの範囲で窪む。本遺跡に目立つ平面形の一部が直線状に途切れる滓の一部。
F118	㊟	第205国 PL60	680	4区 黒色土	腕形鍛冶滓 (特大・含鉄)	10.7	9.0	6.5	690	1	銹化(△)	特大の腕形鍛冶滓の中核部から右側面破片。左側面が主破面で、上手側の2ヶ所が小破面となる。主体となる部分は上下面ともきれいな腕形となっているが、右下手側は鍛冶治により上下方向に向かい変形する。含鉄部は上面表皮寄りの2ヶ所。
F119	㊟	第204国 PL60	392	4区 黒色土	腕形鍛冶滓 (特大・含鉄)	10.8	11.3	4.2	670	2	H(○)	厚さ4cmを測る扁平な腕形鍛冶滓。上下面とも似た外観の滓で、不規則な凹凸に覆われている。また上面には如壁粉が薄く固着する。破面は側面上面と、下面と右上手側の側面が生じている。含鉄部は上面に広範囲。
F120	㊟	第205国 PL60	545	4区 黒色土	腕形鍛冶滓 (特大・含鉄)	10.3	11.8	4.3	640	2	H(○)	前者とやや似た厚さ4cmほどの扁平な腕形鍛冶滓。左右の側面と上手側の側面が破面になっている。下面は浅い舟底状で、下手側がやや直線状に立ち上がる。含鉄部は上面左上手側の楕状の部分。
F121	㊟	第205国 PL60	827	4区 黒色土	腕形鍛冶滓 (大・含鉄)	7.9	10.8	4.3	490	2	H(○)	大型の腕形鍛冶滓の右寄りの半欠品。左側面が全面破面で、上面中央部は大きく窪む。下面はきれいな腕形をなし、かすかに灰床土の痕跡を残す。表面の酸化土砂が厚い。含鉄部は上面上手側の表皮寄り。
F122	㊟	第205国 PL60	826	4区 黒色土	腕形鍛冶滓 (大・含鉄)	8.75	8.3	2.5	210	3	H(○)	大型または中型の腕形鍛冶滓の右下寄り破片。短軸方向の側面3面が破面となっており、右下寄り側面が薄くなって立ち上がる。下面は浅い舟底状でわずかに木炭を噛み込む。上面の左右方向や下手側に直交する窪みが確認され、工具痕の可能性を残す。含鉄部は上面短軸寄りの2ヶ所。
F123	㊟	第205国 PL60	900	4区 黒色土	腕形鍛冶滓 (中・含鉄)	6.1	5.0	2.8	130	2	H(○)	中型の腕形鍛冶滓の下手側側面破片。側面3面が破面になっており、下手側は徐々に薄くなって収束する。上面は半流動状で、下面は下手側に向かい緩やかに立ち上がる。下面左寄りが3cmほど突出しており、含鉄部となる。
F124	㊟	第205国 PL60	391	4区 黒色土	腕形鍛冶滓 (中・含鉄)	5.1	6.1	2.4	87.71	2	H(○)	中型または小型の腕形鍛冶滓の上手側側面破片。上下面と上手側が生きており、側面3面が破面となる。上面中央部が2ヶ所小さく盛り上がり含鉄部となる。下面は荒れた腕形で、部分的にひび割れを生じている。また灰床土がわずかに固着する。
F125	㊟	第205国 PL60	826	4区 黒色土	腕形鍛冶滓 (小・含鉄)	7.5	6.7	3.4	210	3	H(○)	平面形が短軸方向に長楕円形となる上面観のきれいな腕形鍛冶滓。完成品で右上手側の側面に新しい傷あり。側面から下面は変形が激しく、右側が大きく下方に向かい突出する。また下面を中心に付着土砂が厚い。含鉄部は上面全体に広範囲で、暗褐色の酸化色が部分的に強い。変形の原因は灰床の傷に滓が貫入したためか。
F126	㊟	第205国 PL60	63	4区 黒色土	腕形鍛冶滓 (極小・含鉄)	5.1	5.3	2.0	36.13	1	銹化(△)	極小の腕形鍛冶滓の中核部から上手側側面破片。左右の側面と下手側が破面になっており、厚さ1.3cm程度の浅い皿状を示す。表面の酸化土砂により不明点が多い。
F127	㊟	第205国 PL60	682	4区 黒色土	腕形鍛冶滓 (極小・含鉄)	3.9	5.7	2.7	54.59	2	銹化(△)	極小の腕形鍛冶滓の右側破片。左側面のみがシャープな破面で、それ以外は生きています。通常の腕形をなし、滓質は緻密。側面は薄くなって収束する。下面には灰床土がわずかに固着。
F128	㊟	第205国 PL60	390	4区 黒色土	腕形鍛冶滓 (極小・含鉄)	6.7	6.4	2.2	95.27	2	H(○)	左側面が欠落した扁平な極小の腕形鍛冶滓。1.5cmほどの厚みを持ち、上下面とも浅い皿状。右側面が直線状に途切れており、破面の可能性もややあり。含鉄部は上面各1ヶ所の突出部のみ。
F129	㊟	第205国 PL60	390	4区 黒色土	腕形鍛冶滓 (極小・含鉄)	5.0	5.8	2.8	71.83	2	H(○)	右側面と上面右半分が薄く剥離した極小の腕形鍛冶滓。小さくまとまっており、最大厚みは2.5cm前後を測る。下面は荒れているが全体的には腕形。磁着部分が広範囲で、錆のじみも強い。
F130	㊟	第205国 PL60	827	4区 黒色土	腕形鍛冶滓 (極小・含鉄)	3.6	3.7	1.8	26.33	2	H(○)	側面から下面の凹凸が目立つ極小の腕形鍛冶滓。完成品で極めて滓量の少ない段階の滓。上面は平坦気味で、側面下面の凹凸は大半が木炭痕による。下面の突出部は磁着が強い。
F131	㊟	第205国 PL60	680	4区 黒色土	鍛冶滓(含鉄)	2.6	2.4	2.7	12.79	1	銹化(△)	表面に放射割れが目立つ小塊状の鍛冶滓。左側の側面に小破面があり、芯部が含鉄部と推定されるが、錆化が進み磁着度は1と低い。
F132	㊟	第205国 PL60	393	4区 黒色土	鍛冶滓(含鉄)	2.6	1.9	1.5	7.97	2	銹化(△)	左上手側の側面が欠落した小塊状の鍛冶滓。小さいながらも腕形の形状をなしている。芯部は含鉄部が広く下半の磁着はやや強め。
F133	㊟	第205国 PL60	607	4区 黒色土	鍛冶滓(含鉄)	1.3	1.7	0.7	2.16	2	H(○)	厚さ7mmほどの鍛冶滓片。左側面は破面となっている。小さな割には芯部全体が含鉄部と見られる。
F134	㊟	第205国 PL60	387	4区 黒色土	再結合滓	7.5	6.2	6.1	220	1	銹化(△)	側面が全周にわたり破面となった再結合滓破片。最大厚みは5cmほどで下面には如壁粉が目立つ層が形成されている。再結合の主体は5mm大以下の滓片やガラス質に比べて粉状などからなる。破面からみるとざっくりとした層状をなす。鍛冶工場の周辺部で形成された後に原位置から移動したものの。
F135	㊟	第205国 PL60	391	4区 黒色土	再結合滓	11.6	12.0	4.95	640	1	銹化(△)	上下面が生きており、側面が全周にわたり破面となった厚板状の再結合滓破片。最大厚みは5cmほどで、下面は左右方向にのびる浅い舟底状。再結合の主体は前者と同様。下面の左手側を中心に如壁粉が目立つ点は前者とも似る。なお下面の形状から浅い土坑または窪みに再結合した可能性が高い。
F136	㊟	第205国 PL61	676	4区 黒色土	鉄製品(鍛造品)刀子?	4.2	1.5	0.2	5.59	2	銹化(△)	やや厚い酸化土砂に覆われた薄板状の鉄製品。幅は1.3cmほどで、左側が斜め上方に反っている。また長軸の両端部が破面となる。透過X線像では錆化の進行と下手側が刀子の刃部様に薄くなっていることが分かる。刀子の刃部破片か。

表78 鉄関連遺物観察表(5)

遺物番号	構成番号	挿入PL	取り上げ番号	出土遺構層位	遺物名	計測値(cm)			重量(g)	磁者度	メタル度	備 考
						長さ	幅	厚さ				
F137	㊟	第205図 PL.61	827	4区 黒色土	鉄製品(鍛造品)鎌?	4.9	0.8	0.45	9.18	2	錆化(△)	2片に割れている横断面が長方形の棒状鉄製品破片。両端部が破面となる。断面形からみて釘ではなく、鎌または刀子などの可能性あり。鍛造は比較的丁寧になされている。
F138	㊟	第205図 PL.61	690	4区 黒色土	鉄製品(鍛造品)掛金具	4.2	0.9	1.1	6.92	3	H(○)	下手側の端部が破面となった掛金具または皆折れ釘破片。上手側の端部は急激に折り返されており、折り返しの内側が中空化している。鍛造痕はかなり雑。
F139	㊟	第205図 PL.61	607	4区 黒色土	鉄製品(鍛造品)棒状不明	4.2	1.5	0.75	6.95	3	H(○)	両端部が破面となった幅6mm前後の棒状不明品。鍛造痕は丁寧で、通常の釘よりは良品の可能性あり。外周の突出部は酸化土砂。
F140	㊟	第205図 PL.61	676	4区 黒色土	鉄製品(鍛造品)釘	3.2	1.0	0.6	2.35	2	錆化(△)	釘の体部から足部破片。上手側が破面となっており、足部先端は小さく折れ曲がる。鍛造痕はやや雑。
F141	㊟	第205図 PL.61	394	4区 黒色土	鉄製品(鍛造品)包丁?	8.3	1.4	0.4	58.50	3	H(○)	ぶ厚い酸化土砂に覆われた包丁の基部から刃部にかけての鉄製品破片。中間の部分がかもっとも幅広で、1.1cm以上の幅を持ち、左右方向で徐々に狭まっていく。右側の端部には鉄製品の破面がわずかに露出し、方形というよりも上下方向に長手の長方形断面を示す。左方向は身厚が薄く、斜め方向に欠けている。鍛造痕はかすかに確認されるが、丁寧なつくりと見られる。小刀などの可能性も残る。
F142	㊟	第205図 PL.62	908	4区 黒色土	鉄製品(鍛造品)包丁	17.4	2.9	0.5	92.49	2	H(○)	基部の先端が欠落する身幅の狭い包丁。4片に割れてしまったものを接合している。基部は4.5cmの長さで徐々に細くなる形態で刃部との境は斜めの両側となっている。刃部の形態は細身の出力状で、最大幅は2.7cmを測る。刃部長は12.5cm。切先まできれいに残っており、刃部は全体に弧状のふくみを持つ。現代の漁師町で用いられる「イカ割り包丁」に似る。鍛造痕はほぼ丁寧といえる。
F143	㊟	第205図 PL.61	827	4区 黒色土	鉄製品(鍛造品)鏑	3.2	3.1	0.45	12.52	2	錆化(△)	厚さ4mm前後を測る鍛造品破片。放射割れから分解しかけており、接合を行っている。やや厚みを持った鏑の体部破片か。
F144	㊟	第210図 PL.61	331	4区 黒褐色土	鉄製品(鍛造品)火打金	6.0	2.7	0.5	29.86	3	H(○)	左側の端部が欠落した火打金。上手側は低い三角形に盛り上がり、上部に径3.5mm程度の紐が穿たれている。肩の部分は直線よりわずかに弧状気味。刃部は中央部がほぼ直線状で、左右の端部のうち右端部が1.3cmほどの範囲で斜め上方に反る。刃部側には使用痕と見られる小さな欠けが生じている。厚みは4cm強。
F145	㊟	第210図 PL.61	350	4区 黒褐色土	鉄製品(鍛造品)鎌?	2.4	2.5	0.3	7.26	3	H(○)	最大幅が2.5cmを測る鎌破片。左右の端部と裏面の右端が破面になっており、表面には酸化土砂が残り残されている。鎌は左方向に向かい刃部幅が狭まっている。
F146	㊟	第210図 PL.61	331	4区 黒褐色土	鉄製品(鍛造品)鎌?	12.8	2.6	0.3	39.45	1	錆化(△)	先端部が欠落した半月形の鎌。基部は狭く弧状に収束しており、折り返しなどは見られない。身幅は最大2.2cmを測り、背の厚みは2mm強と見られる。刃部は全体的に弧状で、先端部側の2cmの範囲がやや強い角度となる。
F147	㊟	第210図 PL.61	991	4区 黒褐色土	鉄製品(鍛造品)刀子(基部)	6.0	1.6	0.55	16.99	3	H(○)	左右の端部が欠落した刀子の基部破片。最大幅は1.5cmを測り、鍛造は比較的丁寧になされている。透過X線像には筋状のひび割れが目立つ。
F148	㊟	第210図	689	4区 黒褐色土	鉄製品(鍛造品)刀子?	2.7	1.0	0.3	2.73	3	H(○)	長さ2.6cmを測る刀子または小型の鏢様鉄製品。最大幅は約1cmで、右側の端部は明らかに割れている。左側は透過X線像では収束しているように見える。筋状のひび割れが発達し始めている。
F149	㊟	第210図 PL.61	683	4区 黒褐色土	鉄製品(鍛造品)刀子?	3.9	1.75	0.4	5.93	1	錆化(△)	長さ4cmを測る薄板状の鉄製品破片。板状の鉄製品ながら鍛造痕ははっきりせず、鍛造品破片の可能性もやや残されている。表面には酸化土砂が取り巻き、表面中央は表層が剥離する。
F150	㊟	第210図 PL.61	593	4区 黒褐色土	鉄製品(鍛造品)刀子?	3.9	1.2	0.2	6.06	3	H(○)	両端部が欠落している刀子の基部破片。最大幅は8mmを測り、長軸方向に向かい筋状のひび割れが生じている。
F151	㊟	第210図 PL.61	360	4区 黒褐色土	鉄製品(鍛造品)鎌	6.1	1.6	0.6	17.04	1	錆化(△)	ぶ厚い酸化土砂に覆われた鉄製品破片。透過X線像によれば、下手側の端部から1cmほど入った部位に明瞭な欠けが確認される。上手側が刃部になるのか、逆に基部となるのかは不明瞭なところ。鎌の可能性が大きい。短軸方向の半ばでわずかに折れ曲がっている。鍛造痕はやや雑。
F152	㊟	第210図 PL.61	701	4区 黒褐色土	鉄製品(鍛造品)飾り釘	3.5	1.7	0.6	3.63	1	錆化(△)	上部部が小さな楕円形に折り曲げられた環状をなす飾り釘、または掛金具。全体に錆化が進んでおり、鍛造痕はやや雑。足部先端はわずかに欠けている可能性が大きい。
F153	㊟	第210図 PL.61	881	4区 黒褐色土	鉄製品(鍛造品)環状紋具	1.5	0.5	0.5	0.86	2	錆化(△)	環状に巡る小型の紋具破片。断面形は幅4mmほどの長方形で、内側はきれいな弧状の面をなす。透過X線像には筋状のひび割れが確認される。
F154	㊟	第210図 PL.61	339	4区 黒褐色土	鉄製品(鍛造品)櫛?	6.6	2.0	0.6	39.26	1	H(○)	酸化土砂に覆われた櫛状の鉄製品。頭部は隅丸方形に加工されており、下手側に向かい急激に薄くなって、わずかに反りを持つ。下手側の端部は薄板状で先端部は小さく欠落する。土着の厚みは外観より薄く6mm前後か。鍛造は比較的丁寧。
F155	㊟	第210図 PL.61	353	4区 黒褐色土	鉄製品(鍛造品)飾り金具(目釘2本付)	2.7	2.4	0.8	4.33	3	H(○)	右寄りの下面に鉄留めの釘の基部を残す薄板状の鉄製品破片。最大幅は2.3cmを測り、左側で斜め下方に向かい折れ曲がっている。本部の表面に装着された飾り金具片と見られ、母体となるのは馬具や箱物であろうか。厚みは1.5mm前後と薄い。
F156	㊟	第210図 PL.61	339	4区 黒褐色土	鉄製品(鍛造品)飾り金具	3.9	3.0	0.2	14.76	2	H(○)	2片に分かれた飾り金具破片。一方は中央部に目釘穴を残し、外周部の一部に鋸歯状の刻みが施されている。左右方向に盛り上がった薄板状で少なくとも幅部4cmが破面と見られる。厚さは最大で2mmを測り、外周部が薄くなって収束する。左上側の刻みは鋸で加工されたものか。なお、左端部寄りに非鉄の可能性を持つ金属の錆化物がわずかに残されている。金銀などであろうか。目釘穴の径は2.5mmか。また径3cm大のもう一片は母体の飾り金具の表層に貼り付いていた酸化土砂の剥離品か。
F157	㊟	第210図 PL.61	648	4区 黒褐色土	鉄製品(鍛造品)折れ釘	7.0	1.8	1.3	32.01	1	錆化(△)	体部半ば以下が欠落した折れ釘、または鏢破片。やや大ぶりで最大幅は7mm以上を測る。横断面形は方形。外周部にはぶ厚い酸化土砂が残り残されている。鍛造痕は比較的丁寧。
F158	㊟	第210図 PL.61	331	4区 黒褐色土	鉄製品(鍛造品)釘(皆折れ)	4.0	0.8	0.8	6.73	2	錆化(△)	足部側が欠けた皆折れ釘。頭部は丸みを持っており、鍛造痕はやや雑と見られる。
F159	㊟	第210図	326	4区 黒褐色土	鉄製品(鍛造品)釘(皆折れ)	3.3	0.9	0.6	6.34	1	錆化(△)	2片に割れている皆折れ釘。体部半ば以下は欠落し、頭部は斜め上方に開いている。鍛造痕はやや雑。
F160	㊟	第210図 PL.61	333	4区 黒褐色土	鉄製品(鍛造品)釘(皆折れ)	2.2	0.6	0.4	1.23	1	錆化(△)	小型の皆折れ釘の先端部破片。体部半ばから足部側は欠落する。頭部は斜め上方に開き気味。鍛造痕はやや雑。
F161	㊟	第210図 PL.61	352	4区 黒褐色土	鉄製品(鍛造品)釘?	7.4	0.9	0.5	16.64	1	錆化(△)	釘、または鏢の基部破片。両端部が欠けており、上手側の端部側は構成No.183と同様、隅の可能性を残している。ただし、製品としてはやや大ぶり。鍛造痕は丁寧な製品といえる。
F162	㊟	第210図 PL.61	346	4区 黒褐色土	鉄製品(鍛造品)釘	5.4	1.4	0.7	17.37	2	錆化(△)	足部側が欠落した釘破片。厚い酸化土砂によりはつきりしない面もあるが、皆折れ釘の頭部となる可能性もあり。鍛造痕はうねりを持ちやや雑。
F163	㊟	第210図 PL.61	325	4区 黒褐色土	鉄製品(鍛造品)釘	3.7	1.2	0.55	8.55	2	錆化(△)	体部半ば以下が欠落した釘、または皆折れ釘。頭部側が錆化のためはつきりせず、破面のようにも見える。鍛造痕はやや雑。
F164	㊟	第210図 PL.61	360	4区 黒褐色土	鉄製品(鍛造品)釘	3.6	0.6	0.5	3.27	1	錆化(△)	両端部が破面となった小型の釘破片。上部側の最大幅は3mmを測り、釘とすれば体部から足部の破片と見られる。鍛造痕はやや雑。
F165	㊟	第210図 PL.61	329	4区 黒褐色土	鉄製品(鍛造品)釘?	8.2	1.3	0.9	24.82	2	錆化(△)	厚い酸化土砂に覆われた釘様の鉄製品。足部側は欠落し、頭部側は方形に折り返されているようにも見える。鍛造痕はやや雑。上手側の端部側左側は突出しており、別単位の鉄製品と重複している可能性もあり。透過X線像では小型の釘かもしれない。
F166	㊟	第210図 PL.61	677	4区 黒褐色土	鉄製品(鍛造品)棒状不明	9.1	1.4	1.2	34.06	1	錆化(△)	2片に割れている棒状不明品。両端部が明らかな破面でさらにひび割れている。横断面形はわずかに長方形で上手側はやや太い。最大径は6.5mm前後を測る。外周部に酸化土砂が厚く、鍛造痕はやや雑。
F167	㊟	第210図 PL.62	708	4区 黒褐色土	鉄製品(鍛造品)馬鞍刃?	22.2	2.7	1.5	230	1	錆化(△)	体部半ばで2片に割れている大型の鉄製品破片。全体が大型の釘様で横断面形が長方形となることから、馬鞍の刃の可能性を残している。頭部は方形頭気味に成形され、頭部は平坦になる。幅は1.6cm前後を測る。足部方向に向かい徐々に細くなって行き、先端部がやや縮んでいる。断面形が先端側で方形に近くになっているのは使用による変形か。鍛造痕はやや雑で、外周部にはぶ厚い酸化土砂が残る。
F168	㊟	第210図 PL.61	651	4区 黒褐色土	鉄製品(鍛造品)鏢	4.9	3.6	0.6	21.93	1	錆化(△)	4片に割れている鉄鏢の破片。4片の内、2片は底部から斜め上方に立ち上がる体部破片である。厚みは体部側が4mm前後で、底部側は約3mmと薄くなっている。鍛造品は、被熱が長期間繰り返されると表層が剥離する傾向があり、そのため薄くなっている。立ち上がり部のアールから考えて小ぶりの鏢であろう。
F169	㊟	第210図 PL.61	677	4区 黒褐色土	鉄製品(鍛造品)	2.8	2.6	0.2	6.31	3	H(○)	外周部が破面となっている鍛造品破片。厚さは3-2mmほどの鉄鏢の底部破片の可能性あり。下面が被熱により暗赤褐色に酸化している。
F170	㊟	第211図 PL.64	598	4区 黒褐色土	羽口(鍛冶)	2.3	1.9	1.7	4.81	なし	なし	通風孔の壁面の一部がわずかに残されている羽口先端部小破片。先端部外面から通風孔の出口にかけては黒色ガラス質滓に覆われている。通風孔径は2cm以下か。胎土は短いスサと粉殻をまじえた粘土質。耐火性は高めか。
F171	㊟	第211図 PL.60	1185	1区 黒褐色土	羽口(鍛冶)	2.7	2.2	1.0	5.36	なし	なし	鍛冶羽口のやや先端部寄りの体部破片。部位としては先端側から見て右側部に当たる。通風孔部は欠落し、側部3面と通風孔部側が破面となる。胎土は短いスサ入りの粘土質。
F172	㊟	第211図 PL.64	79	4区 黒褐色土	流動鏢	3.4	2.6	2.2	25.40	なし	なし	左手側の側部がシャープな破面となった流動鏢、先端部破片。上面は平滑で、側部から下面は如壁粉や小礫の圧痕の固着群となる。滓質は緻密で、中層の気孔が肥大する。鍛冶系の流動鏢の可能性あり。

表79 鉄関連遺物観察表(6)

遺物番号	構成番号	挿入図PL	取り上げ番号	出土遺構層位	遺物名	計測値(cm)			重量(g)	磁着度	メタル度	備考
						長さ	幅	厚さ				
F173	㊟	第211図 PL63	954	4区 黒褐色土	腕形鍛冶滓(特大・含鉄)	9.6	10.3	4.8	840	2	錆化(△)	右側部が直線状の破面となった特大の腕形鍛冶滓。扁平で4cmほどの厚みを持ち、左側部下手側が破面と推定される上面観を持ちながらも全体的に平坦気味。下面は左右方向に伸びるごく浅い舟底状。短軸方向の最大幅は1.6cm前後で、底面の平坦気味な長めの鍛冶炉の炉底で生成された可能性が大。上手側が直線状に途切れるのは炉壁形状の影響か。
F174	㊟	第211図 PL63	649	4区 黒褐色土	腕形鍛冶滓(特大・含鉄)	9.4	9.1	5.2	530	1	錆化(△)	上手側から右側部が破面となった特大の腕形鍛冶滓の左側部寄り破片。上面左側は楕状に窪んだ傾斜面で、逆に右側面は斜めに立ち上がってしまっている。全体形状から見ると突き動かされて変形している可能性大。含鉄部は上面左上手側で、酸化色が部分的に強い。
F175	㊟	第211図 PL63	646	4区 黒褐色土	腕形鍛冶滓(特大・含鉄)	11.8	11.8	7.7	1270	1	錆化(△)	上面全体がぶ厚い酸化土砂で覆われた特大の腕形鍛冶滓。側部下半から下面には滓部分が見えており、左側部が破面となった腕形鍛冶滓とみられる。下面の突出が強く、中段からは横方向に広がる滓となる。下面の突出部を中心に広範囲に磁着し、黒錆もにじむ。
F176	㊟	第211図 PL63	568	4区 黒褐色土	腕形鍛冶滓(特大・含鉄) 板状特殊	14.3	14.2	3.5	1080	4	H(○)	扁平板状の一見炉壁表面から剥離したような形状を持つ特殊な滓。最大厚みは3.5cmほどで上面は平坦度が高く、下面は全体的に平坦気味ながら、小さな凹凸が連続する割面様。細かく見ると、個別の凹凸は粉炭痕からなる。滓質は緻密で、気孔は下面沿いのみ。構成No.148と同様、かなり幅広い底面の鍛冶炉で生成された可能性大。平面形が右側部や下手側が直線状に途切れるのも特徴となる。
F177	㊟	第211図 PL63	954	4区 黒褐色土	腕形鍛冶滓(大・含鉄)	7.8	9.6	4.2	410	2	錆化(△)	左右の側部が破面となった大型の腕形鍛冶滓の中核部破片。最大厚みが4cmほどの板状で、上手側は直線に途切れた滓の肩部をなす。表面は酸化土砂で、含鉄部の主体は上面右寄り。
F178	㊟	第211図 PL63	649	4区 黒褐色土	腕形鍛冶滓(大・含鉄)	8.7	8.0	4.0	320	2	錆化(△)	左右の側部と下手側の肩部が破面となった大型の腕形鍛冶滓の中核部破片。4cmほどの厚みの板状と見られる。上手側の側部はさすがに段をなし、滓の形成過程を読み取れる。下面に一ヶ所、羽口を噛み込んでいる。上面表皮がわずかに磁着気味。
F179	㊟	第211図 PL63	665	4区 黒褐色土	腕形鍛冶滓(大・含鉄)	5.0	9.2	5.4	250	2	H(○)	右側部が大破面となった大型の腕形鍛冶滓の肩部破片。左側部から下面はきれいな腕形を示す。滓質は緻密で、上面や破面の一部に瘤状の酸化土砂が固着する。含鉄部はやや下面寄りか。
F180	㊟	第211図 PL63	333	4区 黒褐色土	腕形鍛冶滓(大・含鉄)	6.8	8.4	4.1	250	3	H(○)	左側部がシャープな破面となった大型の腕形鍛冶滓の肩部破片。短軸側の両肩部にも小破面あり。上面はわずかに盛り上がり、肩部で小さな段となる。下面は中央部が瘤状に盛り上がった酸化土砂で、全体は平坦気味。部分的に粗土が固着する。上面の表皮沿いと下面下手側の突出部が含鉄部となる。
F181	㊟	第211図 PL63	647	4区 黒褐色土	腕形鍛冶滓(大・含鉄)	9.4	9.7	4.9	550	2	M(◎)	側部が破面となった大型の腕形鍛冶滓の中核部破片。厚さは4cm前後で、上下面とも平坦度が高い。表面には酸化土砂が厚く、炉壁粉や小塵が含まれている。上面の2ヶ所新しい傷があり、気孔が散在する緻密な滓が露出する。下面については酸化土砂のため不明。含鉄部は上面の表皮沿いに広い。
F182	㊟	第211図 PL63	631	4区 黒褐色土	腕形鍛冶滓(中・含鉄)	9.5	7.8	3.6	260	2	錆化(△)	上面と下手側の側部が生きている中型の腕形鍛冶滓破片。上面から肩部にかけては1cm大前後の木炭痕が連続し、一部、滓内部に木炭痕を噛みこむ。下面は平坦気味で、炉壁粉やガラス質滓を広く固着する。下面下手側の突出部は鍛冶炉の炉壁表面破片。上面全体が磁着気味。
F183	㊟	第211図 PL63	326	4区 黒褐色土	腕形鍛冶滓(中・含鉄)	7.7	6.8	3.3	250	1	錆化(△)	短軸の側部2方と左側部が破面となった中型の腕形鍛冶滓。上面は浅く窪み、下面は腕形をなす。まとまりの良い滓で、大きめの割りに比重大い。下面には炉壁粉や羽口由来の滓も点々と貼り付いている。各部分が磁着するがやや弱い。
F184	㊟	第211図 PL63	330	4区 黒褐色土	腕形鍛冶滓(中・含鉄)	5.5	6.3	3.2	130	2	H(○)	前者を一回り小さくしたような外観を持つ中型の腕形鍛冶滓の中核部破片。側部から肩部が全周にわたり破面で、上下面の外観は前者とよく似ている。下面の突出部は酸化土砂で磁着せず。上面を中心に広く含鉄部が広がり、暗赤褐色の酸化物を生じている。
F185	㊟	第211図 PL63	353	4区 黒褐色土	腕形鍛冶滓(中・含鉄)	6.45	7.4	3.1	190	2	H(○)	左右の側部から上手側の側部が破面となった中型または大型の腕形鍛冶滓の肩部破片。上面は浅く窪み、右下手側にやや下がっている。下面は浅い腕形で凹凸は少ない。滓は緻密で上面2ヶ所がかなり強く磁着する。
F186	㊟	第211図 PL63	954	4区 黒褐色土	腕形鍛冶滓(小・含鉄)	7.0	5.0	2.2	100	2	錆化(△)	左右の側部が主破面となった小型の腕形鍛冶滓。2cm弱の厚みを持ち、わずかに反っているが比較的平坦。上手側の肩部に小破面あり。下面は浅い舟底状となる。下面の一部が磁着気味。
F187	㊟	第211図 PL63	79	4区 黒褐色土	腕形鍛冶滓(小・含鉄)	3.6	6.5	2.5	77.62	2	錆化(△)	左右の側部が直線状の破面となった小型の腕形鍛冶滓。下面と短軸の両側部は生きている。浅い腕形で内部に木炭を1ヶ所噛み込んでいる。上面の磁着範囲が広い。
F188	㊟	第211図 PL63	538	4区 黒褐色土	腕形鍛冶滓(小・含鉄)	5.8	7.25	2.6	170	5	H(○)	肩部に小破面を残すほぼ完形の腕形鍛冶滓。左側部は直線状に立ち上がり、右側部が通常の腕形となる。上面中央部が浅く窪み、下面は中央付近が左右方向に窪んだ特殊な形態となる。鍛冶炉の炉床の荒れのためか、全体に磁着の強い滓で、特に下面2ヶ所の突出部は一段と強い。
F189	㊟	第211図 PL63	672	4区 黒褐色土	腕形鍛冶滓(小・含鉄)	7.6	7.9	2.8	160	4	H(○)	右上手側の側部が欠落したやや扁平な小型腕形鍛冶滓。上面や滓内部に1cm大を超える木炭痕を残し、滓質は密度が低め。下面は不規則な腕形となっている。含鉄部は上面上手側と下面の広範囲。
F190	㊟	第211図 PL64	954	4区 黒褐色土	腕形鍛冶滓(小・含鉄)	5.8	4.9	2.5	79.07	2	M(◎)	右側部から上手側にかけて破面となった、左右方向に長手の小型の腕形鍛冶滓。左側部は直線状に途切れた自然面、下面は左右方向にのびる舟底状。含鉄部は上面表皮沿いの一部。
F191	㊟	第211図 PL64	353	4区 黒褐色土	腕形鍛冶滓(小・含鉄)	4.5	5.1	3.1	80.06	2	M(◎)	左側部から上手側の側部が破面となった小型の腕形鍛冶滓の肩部破片。やや厚みを持っており、右下手側の側部は塊状に厚くなる。鍛冶具による変形の可能性もあり。含鉄部は左寄りの芯部か。
F192	㊟	第211図 PL64	337	4区 黒褐色土	腕形鍛冶滓(極小・含鉄)	3.3	5.7	3.0	40.92	2	錆化(△)	上面に羽口先由来の粘土質溶融物が乗っている、極小の腕形鍛冶滓破片。右側部が主破面で、腕形としては左側部片となる。下面は比較的明確な腕形を示すが、滓の中間層は密度が低い。また、右側部下半に径7mmほどの突き刺したような工具痕あり。
F193	㊟	第211図 PL64	776	4区 黒褐色土	腕形鍛冶滓(極小・含鉄)	4.7	5.1	2.6	55.26	2	錆化(△)	左側部が主破面となった極小の腕形鍛冶滓の半欠品。小さくまとまった滓で、最大厚みは2.5cm程度となる。上面や下面の中央部に目立つ木炭痕を残し、滓量の少なさを窺わせる。含鉄部は上面表皮寄り。
F194	㊟	第211図 PL64	536	4区 黒褐色土	腕形鍛冶滓(極小・含鉄)	4.9	3.9	2.2	57.14	2	H(○)	平面形が不整形をした、完形に近い極小の腕形鍛冶滓。肩部に幅の狭い小破面を生じている。下面は短軸方向にのびる舟底状で、上手側が厚い。磁着は全体が顕著となる。
F195	㊟	第211図 PL64	332	4区 黒褐色土	腕形鍛冶滓(極小・含鉄)	4.2	3.7	1.6	34.51	4	H(○)	左側部がわずかに欠けている極小の腕形鍛冶滓。一見、鍛冶滓様で全体観は腕形をなす。磁着が強い点は前者に似る。
F196	㊟	第211図 PL64	360	4区 黒褐色土	腕形鍛冶滓(極小・含鉄)	5.4	4.6	1.8	44.87	2	M(◎)	上面が平坦気味な構成No.169とやや近い形態の極小の腕形鍛冶滓。下手側の肩部のみが小破面となっている。表面には粉炭痕が残り、磁着範囲は広い。
F197	㊟	第211図 PL64	353	4区 黒褐色土	腕形鍛冶滓(極小・含鉄)	3.1	4.2	2.8	33.72	2	M(◎)	下面の中央部が突出した、ほぼ完形の小型の腕形鍛冶滓。小塊状の滓が寄り合ったような形態で各部とも磁着が強く、芯部には鉄部が確実視される。含鉄の鍛冶滓の可能性も残る。
F198	㊟	第211図 PL64	538	4区 黒褐色土	鍛冶滓(含鉄)	3.7	2.5	1.3	16.22	2	錆化(△)	不整形な形態を持つ含鉄の鍛冶滓。側部から下面は小さく腕形をなすものの、腕形鍛冶滓までは発達せず。右下手側が炉壁溶融物からなる突出部。含鉄部はごく小範囲。
F199	㊟	第211図 PL64	593	4区 黒褐色土	鍛冶滓(含鉄)	2.2	2.3	1.2	7.79	2	H(○)	不整形な三角形の平面形を持つ含鉄の鍛冶滓。側面には木炭痕による窪みが目立ち、芯部は含鉄部となる。
F200	㊟	第211図 PL64	336	4区 黒褐色土	再結合滓	5.6	4.5	2.7	69.81	2	H(○)	厚さ2.5cmほどの再結合滓破片。側部は全周が破面で、下面は土坑底に接したような腕形となる。含鉄部は右寄りの芯部が中心か。
F201	㊟	第219図 PL65	1208	SD7	腕形鍛冶滓(極小)	2.9	2.8	2.0	20.22	1	なし	極小の腕形鍛冶滓の右側破片。左側部が破面となっており、上面と破面に1cm前後の木炭痕が目立つ。下面の下手側が腕形になりかけており、炉床土が薄く貼り付く。滓量の少ない段階の腕形滓か。
F202	㊟	第223図 PL64	722	SD14	流動滓(鍛冶系?)	4.0	3.4	1.6	19.02	2	錆化(△)	1cm幅程度の流動単位が重層した流動滓破片。左右の側部が破面になっており、下面には4単位の滓が確認される。右方向に向かい幅も広がる。上面表皮の一部が暗赤色の酸化色を示すため、鍛冶系の流動滓の可能性大(大型の精錬鍛冶滓が生成される条件下では、鉄素材中の滓量が多いため腕形鍛冶滓の外周部や長軸端部から若干の流動滓が生成される場合がある)。
F203	㊟	第223図	761	SD14	腕形鍛冶滓(特大・含鉄)	10.7	8.8	5.2	470	2	H(○)	左右の側部から上手側の側部が大きく欠落した、特大の腕形鍛冶滓の下手側破片。5cmほどの厚みを持つ扁平な滓で、特に下面側の平坦度が高い。上面表皮は半流動滓状で、破面には中小の気孔が中層を中心に目立つ。含鉄部は下面沿い。
F204	㊟	第223図 PL64	722	SD14	腕形鍛冶滓(大・含鉄)	8.5	9.2	4.7	240	1	錆化(△)	側部3方が破面となった大型の腕形鍛冶滓の肩部破片。上面は生きており、滓質や気孔の状態は前者と似る。下面側の磁着度が強いのも共通する。
F205	㊟	第223図 PL64	319	SD14	腕形鍛冶滓(中・含鉄)	8.0	10.2	4.2	250	1	錆化(△)	右側部が主破面となった、中型の腕形鍛冶滓の中核部から左側部破片。上面は平坦気味で、左側部は楕状に窪んでいる。下面は底面中央が浅い舟底状となる。磁着傾向は下面側がやや強い。
F206	㊟	第223図 PL64	763	SD14	腕形鍛冶滓(小・含鉄)	5.8	5.0	2.3	92.28	3	H(○)	右側部から下手側がシャープな破面となった、小型の腕形鍛冶滓の肩部破片。厚さは2cm強で、比較的密度の高い滓となる。上面は中央部ほど楕状に窪み、左側は傾斜する。下面はやや荒れた腕形。下面寄りの磁着は強めとなる。

表80 鉄関連遺物観察表(7)

遺物番号	構成番号	挿図PL	取り上げ番号	出土遺構層位	遺物名	計測値(cm)			重量(g)	磁着度	メタル度	備考
						長さ	幅	厚さ				
F207	㊟	第223図 PL.64	317	SD14	鉄製品(鑄造品)銅底部(足付)	5.0	4.5	1.0	51.08	3	H(○)	大きく4片に割れている鉄銅の底部破片。表裏面が繰り返しの被熱による酸化色の暗赤褐色となっており、外面には短い脚部が残されている。脚部の全形は不明で、現状で長さ1.2cm、幅6mm、高さ最大4mmほどである。頂部は小さく剥離しており、本来、脚はもう少し高かった可能性がある。底部の厚みは脚付近で6mmを測り、薄いところで1.5mmほどとなる。これは繰り返しの被熱により表層が剥離したためであろう。透過X線像には微細な気孔と細い放射割れが確認される。
F208	㊟	第225図 PL.65	805	SD22	腕形鍛冶滓(極小・含鉄)	3.7	4.5	2.3	50.48	2	錆化(△)	極小の腕形鍛冶滓のほぼ完形品。上面や側面に凹凸が目立ち、側部からみると上下に重着する。下面は不規則な腕形で、灰色に被熱した炉壁土がわずかに残る。下面中央部の磁着が強い。
F209	㊟	第231図 PL.64	794	3区 灰褐色土	腕形鍛冶滓(中・含鉄) 工具痕付	9.0	9.9	3.7	320	2	H(○)	右側部が主破面となった中型の腕形鍛冶滓。肩部にはやや出入りがあり、上面左端部には明瞭に工具痕が残される。下面は上手側3分の2が表層剥離をしているため薄くなっている。含鉄部は表表面に広範囲。
F210	㊟	第231図 PL.64	493	3区 灰褐色土	腕形鍛冶滓(極小・含鉄)	5.2	7.0	3.1	87.97	2	錆化(△)	上手側の側部が小破面となる極小の腕形鍛冶滓。上面は平坦気味で左右の側部が傾斜する。下面は左右方向にのびる舟底状で、炉壁土由来の石粒が目立って面着する。磁着は上半部がやや強い。
F211	㊟	第231図 PL.66	489	3区 灰褐色土	羽口(鍛冶)	4.4	4.2	2.3	35.32	2	錆化(△)	鍛冶羽口の先端部小破片。通風孔部壁面が小範囲で残されており、先端部外面は黒色ガラス滓に覆われる。注目点は側面の一部にガラス質層が2枚確認されるため、羽口先が補修されている可能性が大。胎土は粉殻を少量まじえる粘土質。通風孔壁面はくすんだ赤褐色の酸化色。
F212	㊟	第231図 PL.66	495	3区 灰褐色土	鉄製品(鍛造品)鏃?	4.0	1.5	0.5	3.71	2	錆化(△)	2片に割れている鏃、または釘の体部破片。横断面はやや長形で両端部が破面となっている。鍛造痕は比較的丁寧といえる。
F213	㊟	第231図 PL.66	453	3区 灰褐色土	鉄製品(鑄造品)鍋(口縁部)	2.6	3.6	0.6	10.95	2	H(○)	前者より一回り小ぶりの鍋口縁部破片。内面中央部には蓋受穴の突出部が残り、短い口縁部が外傾する。左右の側部と体部側は破面になっており、厚みから見てやや小ぶりの鍋を想定できる。内外面とも錆化と被熱により劣化が進んでいる。
F214	㊟	第231図 PL.66	495	3区 灰褐色土	鉄製品(鑄造品)鍋(底部)	2.9	2.5	0.6	5.89	3	H(○)	鉄鍋の底部小破片。外周部と底面の半分以上が破面と剥離部である。内面は被熱による酸化が進み、暗赤褐色となる。放射割れや表層剥離もかなり進んでいる。
F215	㊟	第232図 PL.64	539	4区 灰褐色土	腕形鍛冶滓(中・含鉄)	4.35	7.3	3.0	100	2	錆化(△)	右側部中央が破面となった中型の腕形鍛冶滓の肩部破片。左側部から面中央にかけては窪んでおり、羽口先を物語る。やや密度の低い滓で側面や下面は小さく出入りがある。上面の表皮寄りが磁着気味。
F216	㊟	第232図 PL.64	567	4区 灰褐色土	腕形鍛冶滓(小・含鉄)	5.0	7.0	2.5	96.48	3	H(○)	右側部の含鉄部が新しい破面となった扁平な小型腕形鍛冶滓。短軸側の肩部にも小破面あり。下面は左右にのびる舟底状で荒れが激しい。全体に磁着が強く、特に右側の破面は含鉄部を覆わせる。また、上半部には2cm大の木炭を噛みこむ。
F217	㊟	第232図 PL.64	552	4区 灰褐色土	腕形鍛冶滓(小・含鉄)	4.1	4.4	2.7	59.97	2	H(○)	左側部がシャープな破面となった小型の腕形鍛冶滓の肩部破片。上下面と下手側の肩部が生きており、最大厚みは2.8cm程度となる。全体に磁着が強く、滓の密度は高い。
F218	㊟	第232図 PL.64	323	4区 灰褐色土	流動滓	4.05	2.75	2.5	47.61	1	なし	側部4面が破面となった流動滓破片。上面には流孔が強く、下面には木炭痕による凹凸が残る。滓は緻密で気孔が極めて少ない。破面の下半には滓の重層を示す筋目も確認される。
F219	㊟	第232図 PL.64	92	4区 灰褐色土	鍛冶滓(含鉄)	2.8	3.1	1.9	18.36	2	錆化(△)	酸化土砂に覆われた小塊状の鍛冶滓。扁平で丸みを持っており、芯部に含鉄部が広いためか、下半を中心に磁着する。
F220	㊟	第232図 PL.64	89	4区 灰褐色土	鍛冶滓(含鉄)	2.3	2.9	1.9	14.98	2	H(○)	前者を一回り小さくしたような含鉄の鍛冶滓。表面は下手側を中心に厚い酸化土砂に覆われる。上手側に芯部が小塊状に露出しており、磁着は強い。
F221	㊟	第232図 PL.64	585	4区 灰褐色土	腕形鍛冶滓(特大・含鉄)	10.3	13.3	4.3	820	2	錆化(△)	上手側の側部が破面となった特大の腕形鍛冶滓。上面中央部は大きく窪み、下面は左右方向に長手の浅い舟底状となる。横断面は右方向に向かって厚くなっており、羽口先の風圧の強いことを窺わせる。上面や側面には1cm大以下の木炭痕が点在しており、密度はやや低めか。下面は部分的に磁着が強い。
F222	㊟	第232図 PL.64	88	4区 灰褐色土	腕形鍛冶滓(大・含鉄)	7.4	12.3	4.9	400	3	H(○)	側部の二方が破面となった扁平な大型腕形鍛冶滓。上面は中央部が大きく窪み、下手側に向かい全体が肥厚する。なお、上面には広範囲に酸化土砂が残る。
F223	㊟	第232図 PL.64	89	4区 灰褐色土	腕形鍛冶滓(小・含鉄) 工具痕付	6.8	8.3	3.5	220	3	H(○)	側部や肩部に小破面を残す小型の腕形鍛冶滓。不整形円形の平面を持ち、上下面はやや平坦気味。滓質は気孔が粗雑で、上面には木炭痕を残している。含鉄部は上面全体に広い。上面上手側に短軸方向に向く筋状の工具痕を残す。
F224	㊟	第232図 PL.66	92	4区 灰褐色土	鉄製品(鍛造品)刀子?	4.6	2.1	0.2	6.37	2	錆化(△)	幅1.9cmほどの刀子の刃部破片。中央で2つに折れており、接合済み。長軸の両端部が破面となり、左側が切先様に狭まっている。表層は全体が酸化土砂の層。
F225	㊟	第232図 PL.66	98	4区 灰褐色土	鉄製品(鍛造品)刀子	3.8	1.6	0.5	6.14	2	錆化(△)	刀子の刃部破片。最大幅は約1cmを測り、長軸の両端部が破面となっている。外周部から錆化が進んで鍛造痕も認められる。
F226	㊟	第232図 PL.66	320	4区 灰褐色土	鉄製品(鍛造品)刀子?	2.3	0.9	0.2	1.55	1	錆化(△)	刀子の刃部様の小鉄片。左右の端部が破面になっており、右方向に向かい幅が狭くなる。錆化が進み、鍛造痕も乱れる。
F227	㊟	第232図 PL.66	91	4区 灰褐色土	鉄製品(鍛造品)飾り釘(頭部)	1.8	1.8	0.3	2.14	3	H(○)	中央部に径4mmほどの釘の痕跡を残す飾り金具、または飾り釘の釘頭破片。径1.6cmの円盤状で厚みは2mm弱と見られる。透過X線像にはうっすらと菊花状の刻みが全周しており、圓々の菊花輪は1mm強となっている。また内部に気孔様の斑点が確認され、鑄造品の可能性もあり。母材は磁着するため鉄と考えられるが、加工が複雑なことから表層には鉄以外の金属が処理されていた可能性も残る。
F228	㊟	第232図 PL.66	93	4区 灰褐色土	鉄製品(鍛造品)釘(管折れ)	4.8	2.3	0.6	6.30	1	錆化(△)	逆L字状に折れ曲がったほぼ完形の管折れ釘。頭部は鍛造痕として痕跡程度に確認される。鍛造痕はやや雑。頭部側がわずかに上方に反り返っている。
F229	㊟	第232図 PL.66	88	4区 灰褐色土	鉄製品(鍛造品)棒状不明	5.8	0.5	0.4	6.95	2	錆化(△)	2片に割れている棒状不明品。横断面からわずかに長方形で、両端部が破面となる。幅もほとんど部位により変わらず、鏃などの長頭部分の可能性も残る。
F230	㊟	第232図 PL.66	93	4区 灰褐色土	鉄製品(鑄造品)鍋(口縁部)	4.0	2.6	1.1	21.92	3	L(●)	内面上部に横方向のふくらみを持つ有段の鍋上端部破片。外周部は全周が破面で、平均的な厚みは5mm前後を測る。上端部は有段で外形する。厚み等から見て大ぶりの鍋の可能性大。透過X線像には気孔とひび割れが確認される。
F231	㊟	第233図 PL.64	21	4区 造成土中	砂鉄焼結塊	3.5	3.0	2.2	42.73	2	H(○)	径3cm大の小塊状の砂鉄焼結塊。側部は3方が破面になっており、下面は炉壁表面からの剥離面様。上面には短軸方向に向かう垂れが残されており、壁面の立ち上がりに沿って形成されたことが分かる。下面寄りの破面の結晶が肥大してキラキラと輝いており、風化した層には砂鉄粒子が露出する。磁着も部分的に強く、わずかにマグネタイド系の滓となる可能性もあり。構成された239点の鉄関連遺物の中では唯一の製錬系の資料となる。やや摩滅気味で水流により各部に流れ込んだものか。
F232	㊟	第233図 PL.66	505	4区 造成土中	鉄製品(鍛造品)鏃?	3.3	1.0	0.5	7.55	3	H(○)	下手側の端部が全周する閑となった鏃の先端部破片。両端部は破面となって欠落する。刃部と推定される上手側5分の4は錯落としたためか、先細りの円柱状となっている。基部は径3mm大。鍛造痕は比較的丁寧といえる。
F233	㊟	第249図 PL.66	293	3区 一括	鉄製品(鍛造品)釘(管折れ)	5.0	0.8	0.5	3.63	1	錆化(△)	足部の先端が欠けた小型の管折れ釘。頭部はやや開き気味で、体部は弓なりに反る。鍛造痕は乱れており、造りとしては荒い。
F234	㊟	第249図 PL.66	489	3区 一括	鉄製品(鍛造品)釘(管折れ)	2.6	0.6	0.4	2.32	2	H(○)	体部半ば以下が欠落する小型の管折れ釘。頭部の先端側も小さく欠けている。鍛造痕は比較的丁寧。
F235	㊟	第250図 PL.66	328	4区 一括	鉄製品(鍛造品)鏃?	4.8	0.3	0.3	2.19	1	錆化(△)	両端部が破面となった細身の鉄製品破片。長頭の鏃または、釘の体部片であろうか。鍛造痕はやや乱れる。
F236	㊟	第250図 PL.66	166	4区 一括	鉄製品(鍛造品)平頭釘	4.5	2.3	0.7	17.29	2	錆化(△)	頭部が2.3cmの幅を持つ平頭の釘、または鏃。体部から側部が3.4cmと短く、急激に細くなっている。頭部は斜め下方に垂れ下がり、強いくの字状に折り曲げられている。外周部には酸化土砂が厚い。鍛造痕はやや雑。
F237	㊟	第250図 PL.66	98	4区 一括	鉄製品(鍛造品)釘	2.8	0.6	0.5	1.45	1	錆化(△)	両端部が破面になった釘体部破片。頭部が取れた状態で、表面は錯ふくれとなる。鍛造痕は強い。
F238	㊟	第250図 PL.66	515	4区 一括	鉄製品(鍛造品)帯状不明(刀装具?)	3.7	2.1	1.1	19.13	3	H(○)	内側の身の部分が切断したように一体化しているハバキ(鏝)の半凸品。上面のみ部位で逆面は欠落する。現状で幅2.05cm、縦幅は3.7cmを測るが、全形は僅かに大きい可能性がある。刀の部分は層状剥離をしてしまっている。注目点は透過X線像と外観のいずれにも上手側の肩部に5mmほどの範囲で鉄以外の金属の痕跡が確認できる点にある。錆化しており、鏃等であろうか。ハバキ部分の厚みは1.5mmと薄い。
F239	㊟	第250図 PL.66	675	4区 一括	鉄製品(鍛造品)環状不明	4.1	4.1	1.1	32.56	1	錆化(△)	3片に割れたものを接合した環状の鉄製品。幅は8mmほどで断面は長方形気味となっている。中空部の径は2.2mm前後。正円ではなくやや楕長の円形平面を示す。部品としての環状の鉄製品であろう。用途は不明。鍛造痕はそう丁寧とはいえない。また、合わせ目ははっきりとは区別できない。

表81 石器観察表(1)

遺物番号	遺構 区 層位名	挿図 PL	取り上げ番号	種類	石材	法量(cm)	手法上の特徴	重量(g)	備考
S1	SI2	第45図 PL.35	845	台石	安山岩	最大長25.2 最大幅27.5 最大厚12.2	厚みのある大型の台石。上面には敲打痕が認められる他一部被熱による赤変が認められる。一部欠損。	13.8kg	
S2	SI2	第45図 PL.35	829	台石	安山岩	最大長18.7 最大幅23.1 最大厚11.1	やや厚みのある台石。上面には擦痕が認められる。一部欠損	9.8kg	
S3	SB7(IIISK41)	第64図 PL.72	418	石鏃	サヌカイト	最大長2.35 最大幅1.35 最大厚0.32	凹基無茎石鏃。	0.61	
S4	SE1 埋土下層	第104図 PL.47	181 580	石鍋	滑石	口径24.0※ 器高8.3△	外面細かなケズリ。 内面丁寧なミガキ。		内外面スス付者
S5	SE1 埋土上層	第104図 PL.44	179	擦石	安山岩	最大長14.1△ 最大幅8.3△ 最大厚10.1	上・下面に擦面。半分以上欠損。	1.61kg	全体二次的被熱。破断面にタール状物質付着
S6	SE2 第8層	第109図 PL.73	743	敲石	安山岩	最大長13.8 最大幅8.9 最大厚6.9	両端部に敲打面。	1150	
S7	SD15 埋土中	第151図	736	石鏃	黒曜石	最大長1.7 最大幅1.6 最大厚0.4	凹基無茎石鏃。先端部、かえり部欠く。	1.0	
S8	SD15 埋土中	第152図	253	火輪	角閃石安山岩	最大長37.0 最大幅35.7 最大厚24.0	厚みがあり、反りを持つ火輪。上面孔あり。	27.2kg	
S9	SD15 埋土中	第152図	254	火輪	角閃石安山岩	最大長32.1 最大幅31.0 最大厚19.8	やや小ぶりの火輪。上面孔あり。		
S10	SD15 埋土中	第152図	423	火輪	角閃石安山岩	最大長33.3 最大幅34.9 最大厚23.7	厚みのある火輪。上面孔あり。	25kg	
S11	SD15 埋土中	第152図	255	水輪	角閃石安山岩	最大長29.9 最大幅30.5 最大厚18.0	小型で扁平な水輪。上下面は平坦。		
S12	SD15 埋土中	第152図	257	地輪	角閃石安山岩	最大長26.5 最大幅29.4 最大厚21.2	小型でいびつな地輪。隅欠損。		
S13	SD18 埋土中	第154図 PL.72	873	石鏃	黒曜石	最大長2.6△ 最大幅1.85 最大厚0.4	凹基無茎石鏃。先端部、かえり部欠く。	1.5△	
S14	3区 R4 褐色土	第203図 PL.72	384	石鏃	サヌカイト	最大長2.02 最大幅1.85 最大厚0.28	凹基無茎石鏃。	0.63	
S15	3区 P5 褐色土	第203図 PL.72	656	石鏃	サヌカイト	最大長2.9 最大幅1.9 最大厚0.65	凹基無茎石鏃。側縁一部欠く。	2.0	
S16	3区 O5 褐色土	第203図 PL.72	800	火打石	チャート	最大長3.9 最大幅2.5 最大厚1.4	平面三角形形状、断面台形状を呈す。側縁に敲打痕。	12.0	
S17	4区 J9 黒色土	第206図 PL.72	398	石鏃	黒曜石	最大長2.1 最大幅1.6 最大厚0.41	凹基無茎石鏃。	0.7	
S18	4区 N4 黒色土	第206図 PL.72	1009	石鏃	サヌカイト	最大長1.9△ 最大幅1.8 最大厚0.3	凹基無茎石鏃。先端部、かえり部欠く。	1.0△	
S19	4区 L7 黒色土	第206図 PL.72	632	石鏃	黒曜石	最大長2.4 最大幅1.35 最大厚0.4	凹基無茎石鏃。	0.93	
S20	4区 J8 黒色土	第206図 PL.72	608	石鏃	黒曜石	最大長1.35△ 最大幅1.25 最大厚0.4	凹基無茎石鏃。先端部、かえり部欠く。	0.48	
S21	4区 J10 黒色土	第206図 PL.73	551	敲石	安山岩	最大長8.2 最大幅8.2 最大厚6.8	長楕円形を呈す敲石。両端部及び側面一部に敲打面。	941.5	
S22	4区 K8・9 黒褐色土	第209図 PL.73	360	砥石	流紋岩	最大長6.8△ 最大幅3.2 最大厚1.2	砥面は3面あり、いずれも擦痕が残る。		
S23	4区 J9 黒褐色土	第209図 PL.73	331	砥石	細粒花崗岩	最大長4.35△ 最大幅4.4 最大厚1.4	主な砥面は1面で、側面でも一部砥面がある。擦痕が明瞭に残る。	36.5△	
S24	4区 K9 黒褐色土	第209図 PL.72	354	石鏃	黒曜石	最大長2.45 最大幅1.7 最大厚0.3	凹基無茎石鏃。	0.85	
S25	4区 J9 黒褐色土	第209図 PL.72	355	石鏃	黒曜石	最大長1.38 最大幅1.55 最大厚0.25	凹基無茎石鏃。先端部欠く。	0.38	
S26	4区 J10 黒褐色土	第209図 PL.73	543	敲石	石英安山岩	最大長14.3 最大幅8.6 最大厚7.5	楕円形を呈す敲石。両端部に敲打面。側面一部擦り面あり。	1.29kg	
S27	SD2 埋土中	第216図 PL.72	69	石核	黒曜石	最大長2.5 最大幅2.3 最大厚2.0	断面五角形状を呈す石核。剥離あり。	13.0	
S28	SD14 埋土中	第221図	1266	硯	頁岩	最大長4.05△ 最大幅6.25 最大厚1.1	小型で扁平な硯海部。	43.0	
S29	SD14 埋土中	第221図 PL.73	318	砥石	流紋岩質凝灰岩	最大長8.0 最大幅4.4 最大厚1.5	主な砥面は6面あり、いずれも擦痕が残る。	90.0	
S30	SD14 埋土中	第221図	369	砥石	細粒花崗岩	最大長5.4△ 最大幅4.9 最大厚1.6	砥面は4面あり、いずれも擦痕が残る。約半分欠損。	64.5△	
S31	SD14 埋土中	第221図 PL.72	527	調整剥片	黒曜石	最大長1.9 最大幅2.5 最大厚0.6	五角形状を呈す、扁平な薄片。両面に二次加工を施す。		
S32	SD14 埋土中	第221図 PL.74	477	宝篋印塔笠部	安山岩質凝灰岩	最大長23.0△ 最大幅35.6 最大厚23.6	約1/3を欠く。笠部6段。隅飾突起を欠く。	14.2kg△	
S33	SD14 埋土中	第221図 PL.74	479	火輪	角閃石安山岩	最大長36.8 最大幅37.2 最大厚19.9	反りがある厚みのある火輪。上面孔あり。	20.7kg	
S34	SD14 埋土中	第221図 PL.74	476	火輪	角閃石安山岩	最大長33.5 最大幅35.9 最大厚18.5	やや厚みのあるほぼ完形の火輪。笠部あまり反りが無い。上面孔あり	20.2kg	

表82 石器観察表(2)

遺物番号	遺構地区層位名	挿図PL	取り上げ番号	種類	石材	法量(cm)	手法上の特徴	重量(g)	備考
S35	SD14埋土中	第221図 PL.74	480	火輪	角閃石安山岩	最大長40.5 最大幅45.1 最大厚26.5	厚みがあり、反りを持つ火輪。上面孔あり。	34.0kg	
S36	SD14埋土中	第222図 PL.74	473	火輪	角閃石安山岩	最大長32.0 最大幅30.8 最大厚20.5	大型で厚みのある火輪。上面孔あり。	20.7kg	
S37	SD14埋土中	第222図	474	火輪	角閃石安山岩	最大長26.8 最大幅28.8 最大厚18.7	厚みのある火輪。上面孔あり。	14.0kg	
S38	SD14埋土中	第222図 PL.74	1277	火輪	安山岩	最大長28.4 最大幅28.3 最大厚17.5	小型で厚みがあり、反りを持つ火輪。上面孔あり。	14.8kg	
S39	SD14埋土中	第222図	484	火輪	角閃石安山岩	最大長22.1 最大幅20.8 最大厚12.7	火輪破片	4.0kg	
S40	SD14埋土中	第222図	484	火輪	角閃石安山岩	最大長14.6△ 最大幅8.2△ 最大厚10.2△	火輪破片		
S41	SD14埋土中	第222図 PL.74	483	水輪	角閃石安山岩	最大長26.6 最大幅26.8 最大厚15.9	扁平な水輪。上面やや窪む。	12.8kg	
S42	SD14埋土中	第222図	481	水輪	角閃石安山岩	最大長31.2 最大幅32.9 最大厚21.9	完形の水輪。上面、下面は窪む。	25.5kg	
S43	SD14埋土中	第222図	481	水輪	角閃石安山岩	最大長47.0 最大幅47.0 最大厚28.5	大型で厚みのある水輪。上面・下面窪む。		
S44	SD14埋土中	第222図 PL.74	475	水輪	角閃石安山岩	最大長27.4 最大幅26.5 最大厚14.0	扁平な水輪。上面やや窪む。	13.8kg	
S45	SD14埋土中	第222図 PL.74	478	水輪	角閃石安山岩	最大長27.2 最大幅27.3 最大厚18.7	やや扁平な水輪。上面・下面は窪む。	12.5kg	
S46	SD14埋土中	第223図 PL.74	1276	地輪	角閃石安山岩	最大長29.1 最大幅21.4 最大厚19.9	やや扁平な地輪。	30.0kg	
S47	SD14埋土中	第223図 PL.74	482	地輪	角閃石安山岩	最大長35.3 最大幅34.2 最大厚28.3	厚みのある地輪。	59.0kg	
S48	3区 灰褐色土	第231図 PL.73	569	玉砥石	流紋岩	最大長5.7△ 最大幅2.8 最大厚0.5△	両端部、裏面欠く。筋状の砥面2本。	11.0△	
S49	3区 Q4 灰褐色土	第231図 PL.72	490	調整剥片	黒曜石	最大長2.8 最大幅2.7 最大厚1.1	断面台形状を呈す、側縁に二次加工のある剥片。	8.0	
S50	3区 P4 灰褐色土	第231図 PL.72	502	石核	黒曜石	最大長2.2 最大幅2.3 最大厚0.58	扁平な小型石核。		
S51	3区 P5 灰褐色土	第231図 PL.72	457	調整剥片	黒曜石	最大長2.3 最大幅1.4 最大厚0.8	断面台形状を呈す、側縁に二次加工のある剥片。	3.0	
S52	4区 L4 造成土	第233図 PL.72	782	石鏃	黒曜石	最大長1.9 最大幅1.4 最大厚0.4	扁平な三角形石鏃	0.9	
S53	3区 S2 一括	第249図 PL.73	133	砥石	流紋岩質凝灰岩	最大長3.4△ 最大幅3.4 最大厚0.5	砥面は4面。	9.0△	
S54	4区 D9 一括	第250図 PL.72	56	石鏃	黒曜石	最大長1.9 最大幅1.45 最大厚0.28	凹基無茎石鏃。側縁一部、かえり部欠く。	1.0△	
S55	4区 B12 一括	第250図	258	火輪	角閃石安山岩	最大長32.0 最大幅33.4 最大厚22.8	厚みのある火輪。上面平坦。	23.8kg	
S56	4区 B12 一括	第250図	259	火輪	角閃石安山岩	最大長29.0 最大幅28.9 最大厚14.5	やや小型で扁平な火輪。上面孔あり。		

表83 金属製品観察表

遺物番号	遺構地区層位名	挿図PL	取り上げ番号	種類器種	法量(cm)	形態・手法上の特徴	備考
C1	SX4埋土中	第174図 PL.73	1207	熙寧元寶	最大径2.45 最大厚0.15	欠損しているが、「熙寧元寶」と考えられる。	初鑄年1068年
C2	SX4埋土中	第174図 PL.73	1207	景德元寶	最大径2.5 最大厚0.15	欠損しているが、「景德元寶」と考えられる。	初鑄年1004年
C3	SX4埋土中	第174図 PL.73	1207	元豊通寶	最大径2.6 最大厚0.15	欠損しているが、「元豊通寶」と考えられる。	初鑄年1078年
C4	SX4埋土中	第174図 PL.73	1207	聖宋元寶	最大径2.45 最大厚0.15	欠損しているが、「聖宋元寶」と考えられる。	初鑄年1101年
C5	4区 J7 黒褐色土	第209図 PL.73	358	洪武通寶	最大径2.2 最大厚0.2	破損しているが、「洪武通寶」と読める。	
C6	4区 J8 黒褐色土	第209図 PL.73	359	不明銅製品	最大長3.6△ 最大幅2.7△ 最大厚0.3	断面湾曲する不明銅製品破片。表面剥離。	
C7	4区 J8・K8 黒褐色土	第209図 PL.73	675	不明銅製品	最大長2.5△ 最大幅1.5△ 最大厚0.2△	湾曲する不明銅製品。	
C8	4区 J7 黒褐色土	第209図 PL.73	357	棒状銅製品	最大長5.0△ 最大幅0.3△ 最大厚0.2	細い棒状の銅製品。先端部尖る。横位木目の木片付着。	
C9	SD14埋土中	第209図 PL.73	789	煙管	最大長7.6 最大径1.0	裏面で合わせ目。内部に羅字残る。	
C10	4区 K8 灰褐色土	第232図 PL.73	449	洪武通寶他	最大径2.2 厚さ0.4	4枚重なっている。判読できる銭名は「洪武通寶」	初鑄年1368年

表84 木製品観察表

遺物番号	遺構 地区 層位名	挿図 PL	取り上げ番号	種 類	樹 種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	木取り	備考
W1	SE1 埋土下層	第105図 PL46	640	箸	スギ	6.8	0.7	0.6	心去材	加工丁寧。
W2	SE1 埋土下層	第105図 PL46	640	箸	スギ	4.9	0.5	0.5	心去材	加工丁寧。
W3	SE1 埋土下層	第105図 PL46	640	箸	スギ	3.6	0.4	0.4	心去材	加工丁寧。炭化部分あり。
W4	SE1 埋土下層	第105図 PL46	642	箸	スギ	22.0	0.6	0.5	心去材	加工丁寧。
W5	SE1 埋土下層	第105図 PL46	642	箸	スギ	11.3	0.7	0.7	心去材	加工丁寧。
W6	SE1 埋土下層	第105図 PL46	642	箸	スギ	9.8	0.5	0.4	心去材	加工丁寧。
W7	SE1 埋土下層	第105図 PL46	642	箸	スギ	7.8	0.5	0.5	心去材	加工粗雑。
W8	SE1 埋土下層	第105図 PL46	642	箸	スギ	7.6	0.5	0.4	心去材	加工丁寧。
W9	SE1 埋土下層	第105図 PL46	642	箸	スギ	20.7	0.5	0.6	心去材	加工粗雑。
W10	SE1 埋土下層	第105図 PL46	642	箸	スギ	20.3	0.5	0.4	心去材	加工丁寧。
W11	SE1 埋土下層	第105図 PL46	642	箸	スギ	22.7	0.4	0.5	心去材	加工粗雑。
W12	SE1 埋土下層	第105図 PL46	642	箸	スギ	18.4	0.8	0.5	心去材	加工丁寧。
W13	SE1 埋土下層	第105図 PL46	640	桶底?	ヒノキ属	7.8	1.6	0.2	板目	板状。
W14	SE1 埋土下層	第105図 PL47	642	桶底	ヒノキ属	17	7.5	0.7	板目	木目に直交する擦痕あり。
W15	SE1 埋土下層	第105図 PL46	640	板材加工品	スギ	31.1	6.7	0.5	板目	一方端付近に釘穴か。炭化部分あり
W16	SE1 埋土下層	第105図 PL46	640	板材加工品	ヒノキ属	27.0	4.7	0.8	板目	一方端欠損。
W17	SE1 埋土下層	第105図 PL46	642	板材加工品	?	13.1	3.7	0.7	板目	表面に細かい擦痕。両端に穿孔あり。
W18	SE1 埋土下層	第105図 PL46	642	板材加工品	スギ	10.0	2.8	0.6	板目	両端に切断痕あり。
W19	SE1 埋土下層	第105図 PL46	642	板材加工品	スギ	9.5	2.5	0.3	板目	上端切断痕あり。
W20	SE1 埋土下層	第105図 PL46	642	板材加工品	ヒノキ属	12.2	2.7	0.3	板目	一方端に抉りあり。
W21	SE1 埋土下層	第105図 PL46	642	板材加工品	スギ	8.6	1.2	0.2	板目	両端に穿孔1箇所ずつあり。
W22	SE1 埋土下層	第105図 PL46	642	板材加工品	ヒノキ属	18.4	4.0	0.2	板目	一方端中央に穿孔あり。
W23	SE1 埋土下層	第105図 PL46	642	板材加工品	ヒノキ属	9.6	0.9	0.3	板目	穿孔あり。
W24	SE1 埋土下層	第105図 PL46	640	紡錘車	ヒノキ属	4.4	2.6	0.4	板目	半分欠損。中央に穿孔あり。
W25	SE1 埋土下層	第105図 PL46	642	円盤状品	ヒノキ属	6.5	3.1	0.3	板目	半分欠損。
W26	SE1 埋土下層	第105図 PL46	642	円盤状品	ヒノキ属	6.8	2.7	0.5	板目	半分欠損。
W27	SE1 埋土下層	第105図 PL46	642	角材	スギ	12.3	2.4	1.3	心去材	一方端に斜めの切断痕あり。
W28	SE1 埋土下層	第106図 PL47	642	角材	クスノキ属	4.0	3.4	2.4	板目	方柱状を呈す。中央に穿孔あり。
W29	SE1 埋土下層	第106図	642	角材	スギ	6.6	3.2	2.9	心去材	方柱状を呈す。
W30	SE1 埋土下層	第107図 PL46	640	建築部材	スダジイ	29.5	10.1	8.5	板目	柱材か。抉りあり。
W31	SE1 埋土下層	第107図 PL46	640	建築部材	スダジイ	46.8	13.6	2.6	板目	大型の建築材。抉りあり。
W32	SE1 埋土下層	第107図 PL46	640	建築部材	マツ属	31.5	5.0	2.2	心去材	垂木か。先端を有頭状に加工。
W33	SE1 埋土下層	第107図 PL46	640	建築部材	クリ	20.6	4.8	4.2	心持材	先端杭上に再加工。
W34	SD15 埋土	第151図 PL51	752	桶底	ヒノキ属	10.5	8.4	0.5	板目	長方形状を呈す。